HP Client Configuration Manager

Windows[®] オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン : 2.1x



ドキュメントのリリース日:2008 年 2 月 ソフトウェアのリリース日:2008 年 2 月



ご注意

保証

当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、 間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承くだ さい。

当社製品に適用可能な具体的な保証条件のコピーは、お近くの営業所から入手できます。

権利の制限

合衆国政府が使用、複製、または開示を行う場合、国防総省については DFARS 252.227-7013 の "Rights in Technical Data and Computer Software" の (c) (1) (ii) に記載されている制限が適用されます。

Hewlett-Packard Company United States of America

その他の機関については FAR 52.227-19 の (c) (1) および (c) (2) に記載されている制限が適用さ れます。

著作権

© Copyright 2006-2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権 法下での許可事項を除き、禁止されています。本書に記載した内容は、予告なしに変更すること があります。

商標

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

Microsoft®、Windows®、および **Windows® XP** は、米国 **Microsoft Corporation** の米国および その他の国における登録商標です。

OpenLDAPは、**OpenLDAP Foundation**の登録商標です。

謝辞

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER Copyright © 1996-1999 Intel Corporation. TFTP SERVER Copyright © 1983, 1993 The Regents of the University of California.

OpenLDAP Copyright 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

ドキュメントの更新

このガイドのタイトルページには、次の識別情報が含まれています。

- バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変わります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版を使用していることを確認するには、次の URL に移動 してください。

http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができます。 詳細は、**HP** 営業担当者までご連絡ください。

次の表は、Configuration Management 2.1x リリースで追加された新機能の一覧です。

章	バージョン	変更点
2	2.10	32 ページ、「Client Configuration Manager のインストール」 Windows Vista での配布に関するその他の手順が追加されました。
4	2.10	65 ページ、「グループ タイプ」その他のデフォルト グループ タ イプ、「全 TPM 対応デバイス」と「全 Windows Vista デバイ ス」が追加されました。
4	2.10	58 ページ、「[デバイス] タブからの管理エージェントの配布」 Windows Vista にエージェントを配布する際の注意が追加されま した。
8	2.10	181 ページ、「OS イメージの準備と取得」がWindows Vista サ ポートに関する変更点を含んで更新されました。
8	2.11	200 ページ、「Embedded Linux OS イメージ」noexec オプション を指定しないでマウントする場合の注意が追加されました。
8	2.10	205 ページ、「カスタム WinPE Service OS のビルド」新しいセ クションです。
9	2.10	213 ページ、「 Publisher の使用」が Windows Vista サポートに 関する変更点を含んで更新されました。

ス I III Onent Configuration Manager 2.1X て迫加られのに利む	た新機能	され;	で追加は	2.1x	Manager	guration	Config	Client	HP	表 1
--	------	-----	------	------	---------	----------	--------	--------	----	-----

サポート

次の HP Software Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトでは、HP Software が提供する製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ情報が掲載されています。

HP Software オンライン ソフトウェア サポートでは、お客様自身が問題を解決するのに有益な 情報を提供します。ビジネスを管理するのに必要な、対話型技術サポート ツールにアクセスする、 素早く効率的な方法を提供しています。サポートを受けるお客様は、サポート サイトを使って 以下のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- **HP** サポート連絡先の確認
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

サポート エリアのほとんどでは、HP Passport ユーザーとして登録し、サインインすることが 必要です。

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

目次

1	ご紹介	
	対象	19
	要約	19
	Client Configuration Manager の概要	21
	Basic ライセンスの機能	22
	Premium ライセンスの機能	23
	Client Configuration Manager コンソール	25
	管理エージェント	26
	Configuration Management Administrator Publisher	27
	Image Preparation Wizard	
	Settings Migration Manager	
	ヘルプの表示	

システム要件	29
プラットフォーム サポート	29
サーバー	29
データベース	30
ターゲット デバイス	30
Client Configuration Manager $\mathcal{O} \not\prec \lor \neg \lor \land \lor \neg \lor$	32
管理エージェントの手動インストール	39
シン クライアントでの 管理エージェントのインストール	
Embeded Linux	39
Windows XPe	
Windows CE	
OS 配布用の PXE の設定	42

3	はじめに 45 ログイン
4	管理
	 一般
	 過去のジョブ

グループ	管理	 64
		G A

一般	64
グループ タイプ	65
グループ	66
グループの作成	68
管理エージェントのグループへの配布	68
管理エージェントのグループからの削除	69
グループに対するソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索	69
グループに対するパッチ適合性の探索	70
グループに対するアプリケーション利用状況データの探索	70
電源管理	71
グループの削除	71
グループの詳細	71
[グループの詳細] ウィンドウのタスク	74
スタティック グループでのデバイスの追加と削除	74
グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除	75
グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期	75

グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除	76
グループへのパッチの配布	76
現在のジョブ	77
過去のジョブ	77
ソフトウェア管理	78
一般	78
ソフトウェア	79
ソフトウェアの配布	
グループ エンタイトルメントの追加	81
サービスのインボート	
$\psi - \psi \chi \partial \chi \partial \chi \partial \chi$	
CCM からのソフトリエアの削除	
ファドウェアの叶和	
- 光山のショブ 過去のジョブ	86
())))))))))))))))))))))))))))))))))))	
一叔	
ハッナ パッチの <u></u> 和左	90
バッテの配扣	,
サービスのインポート	
サービスのエクスポート	
パッチの詳細	
現在のジョブ	95
過去のジョブ	96
OS 管理	97
一般	97
オペレーティング システム	
オペレーティング システムの配布	
ローカル サービスの起動(LSB: Local Service Boot)を使用した	
OS イメージの配布	104
PXE を使用した OS イメージの配布	104
サービス CD を使用した OS イメージの配布	105
クループ エンタイトルメントの追加	
サービスのインホート	
リーヒムのエクスかート	107
オ・・レーティング システムのフイノフリからの削除	107

OS の詳細	
現在のジョブ	110
過去のジョブ	110
ジョブ管理	111
一般	
現在のジョブ	
ジョブ コントロール	111
ジョブ ステータス	
ジョブの詳細	114
過去のジョブ	115

5	レポート	117
	検索オプション	118
	表示オプション	
	検索条件	119
	[レポート] ウィンドウ	119
	検索オプションを使用したフィルタの選択	
	[ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域	
	[データ フィルタ] 領域	121
	表示オプションを使用したレポート ビューの選択	123
	レポート ビューのタイプ	
	インベントリ管理レポート	
	パッチ管理レポート	
	利用状況管理レポート	
	HP ハードウェア レポートの表示	126
	[レポート] ウィンドウについて	
	Windows アクション バーの使用	
	レポート データからのフィルタの適用	
	ダイナミック レポート グループの作成	131

6	設定	133
	サポート	134

ログ ファイルのダウンロード	134
ライセンス情報の更新	135
コンソールへのアクセス	135
追加コンソール ユーザーの作成	
コンソール ユーザーの削除	
コンソール ユーザーの詳細の表示および変更	
コンソール パスワードの変更	
インフラストラクチャ	
インフラストラクチャ サーバーの管理	
インフラストラクチャ サービスの配布	
パッチ管理 - 設定	141
パッチ取得スケジュールの設定	
パッチ取得設定の設定	
OS 管理	145
ハードウェア管理	146
CMI の設定	147
TPM の設定	
レポート	149
データベース	149
利用状況の設定	
利用状況の収集	
利用状況収集フィルタの設定	
利用状況条件の定義	153
メンテナンス	154

7	ウィザード	157
	デバイス インポート ウィザード	158
	エージェント配布ウィザード	159
	エージェント削除ウィザード	160
	ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード	161
	パッチ適合性探索ウィザード	162
	アプリケーション利用状況収集ウィザード	162

電源管理ウィザード	
グループ作成ウィザード	
スタティック グループの作成	165
ダイナミック探索グループの作成	
ダイナミック レポート グループの作成	
リモート制御ウィザード	
ソフトウェア配布ウィザード	
サービス インポート ウィザード	170
サービス エクスポート ウィザード	170
ソフトウェア同期ウィザード	171
パッチ配布ウィザード	172
サービス エンタイトルメント ウィザード	173
ソフトウェア削除ウィザード	174
ユーザー作成ウィザード	175
OS 配布ウィザード	176
利用状況収集フィルタ作成ウィザード	177
インフラストラクチャ配布ウィザード	178
インフラストラクチャ削除ウィザード	179
OS イメージの準備と取得	
Windows OS $\cancel{4}$	181
手順1-参照マンンの準備	
子順 Z – 応谷ノアイルの作成 unattend xml(Windows Vista 配布の場合)の進備	184
Sysprep.inf の作成(非 Vista OS の場合のみ)	
手順 3 – Image Preparation Wizard の実行	
シン クライアントの OS イメージ	192
Windows XPe OS イメージ	
手順 1 – XPe 参照マシンの準備	
手順 2 – Image Preparation Wizard の実行	
Windows CE OS イメージ	

8

手順 1 – CE 参照マシンの準備	196
手順 2 – Image Preparation Wizard の実行	197
Embedded Linux OS イメージ	200
手順 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備	200
手順 2 – Image Preparation Wizard の実行	201
OS イメージのパブリッシュおよび配布	205
カスタム WinPE Service OS のビルド	205
前提条件	206
WinPE Service OS へのドライバの追加	208
カスタム WinPE Service OS のビルドと CM Image Capture/Deploy ISO の維持	寺208
詳細オプション	211

9	Publisher の使用	
	ソフトウェアのパブリッシュ	214
	Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ	214
	オペレーティング システム イメージのパブリッシュ	
	Vista OS の .WIM イメージをパブリッシュするための前提条件 subs お上び xml ファイルについて	
	isubs やまつ ismi シティル ビンマ く	
	OS イメージのパブリッシュ	
	HP Softpaq のパブリッシュ	
	BIOS 設定のパブリッシュ	
	BIOS 設定ファイルの作成	
	パブリッシュされたサービスの表示	
	CM Administrator Agent Explorer	

10Application Self-service Manager の使用......231

Application Self-Service Manager へのアクセス	231
Application Self-Service Manager の概要	232
グローバル ツールバー	233

メニューバー	
カタログ リスト	
サービス リスト	
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用	235
ソフトウェアのインストール	
カタログのリフレッシュ	
情報の表示	
ソフトウェアの削除	
履歴の表示	
バンド幅の調整	
ステータスの表示	
ユーザー インターフェイスのカスタマイズ	
全般オプション	241
サービス リスト オプション	
接続オプション	
CM システム トレイのアイコン	
[CM ステータス] ウィンドウ	

11Settings Migration	251
サポートされるアプリケーションと設定	252
設定テンプレートの作成	253
Settings Migration Utility の使用	255
設定のバックアップ 保管された設定およびファイル	256
設定の復元 OS 配布の間の Settings Migration	258260
File Rules	260
File Rules へのアクセス [File Rules] ダイアログ ボックス	261 262
アプリケーション サポートの注意点	263
Microsoft Office サポートの注意点 Microsoft Office	263

	Microsoft Access	265
	Microsoft Excel	265
	Microsoft Frontpage	266
	Microsoft InfoPath	267
	Office アシスタントの設定	268
	Office ショートカット バー	268
	Microsoft OneNote	268
	Microsoft Outlook	268
	Microsoft PowerPoint	270
	Microsoft Project	271
	Microsoft Publisher	271
	Microsoft Word	272
サオ	ペートされる他のアプリケーションと OS に関する注意点	.273
	ACT! 2000	273
	Adobe Acrobat	273
	Lotus Notes 5.X 6.X	274
	Microsoft Internet Explorer	275
	Microsoft NetMeeting	275
	Microsoft Outlook Express	275
	Netscape	276
	Norton AntiVirus	276
	Norton AntiVirus Corporate Edition	277
	Visio	277
	WinZip	278
	WordPerfect for Office 2000	279
	Dragon Naturally Speaking for WordPerfect	279
	Corel Utilities	279
	Corel Quattro Pro	280
	Corel WordPerfect	280
	データ転送	280
	Windows \mathcal{O} オプション	280
	デスクトップ ショートカット	280
	ダイヤルアップネットワーク	281
	フォルダ オプション	281
	ローカル プリンタ ログ	281
	マッピングされたネットワーク ドライブ	281
	マイドキュメント	281
	ネットワークおよび共有プリンタの設定	282
	ネットワーク設定	282
	タスク バーおよびクイック起動バー	282
	Windows アドレス帳	282
	コントロール パネル	282
	ユーザー補助オプション	283
		400

表示	. 283
インターネット オプション	. 283
キーボード	. 283
マウスの設定	. 283
電源管理	. 284
地域の設定	. 284
サウンド	. 284
タイムゾーン	. 284
	,

CCM コンソールにはどうやってアクセスしますか?	286
どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか?	286
コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか?	287
自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?	287
インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?	288
管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか ?	288
パッチ取得はどのようにして自動化できますか ?	289
パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか?	289
管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?	290
特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか?	290
ライセンス キーはどのようにして更新しますか?	291
OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか?	291
ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか?	292
コンソールを使用せずに管理エージェントをデバイスにインストールするには、 どのようにしますか?	292
Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか?	293
setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか?	293
全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか?	293
ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか?	294
デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか?	294
OS イメージを取得するには、どのようにしますか?	295

OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか?	295
OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか?	295
OS イメージを配布するには、どのようにしますか?	296
利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか?	296
サポートに連絡するには、どのようにしますか?	297

ログファイル	
エージェント配布の問題	
OS 配布の問題	
Application Self-Service Manager の問題	301
電源管理の問題	302

サポートされる言語	
ロケールの変更	
Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート	

索引	••••			••••	••••	••••	••••				••••	• • • • •	••••	••••	••••	••••	••••	••••	•••			•••	30	5
----	------	--	--	------	------	------	------	--	--	--	------	-----------	------	------	------	------	------	------	-----	--	--	-----	----	---



HP Client Configuration Manager (CCM) は、PC ソフトウェア設定管理ソ リューションです。OS イメージの配布、パッチの管理、リモート コントロール、 HP ハードウェアのドライバや BIOS の更新、ソフトウェアの配布、利用状況の 測定などの、ソフトウェアおよび HP ハードウェア管理機能すべてを、Web ベースの統合コンソールから提供します。

このガイドでは、CCM の紹介、製品コンポーネントのセットアップとインス トールの方法の説明、CCM コンソール、Publisher、Application Self-Service Manager および Image Preparation Wizard を使用するための詳細な情報と手 順の提供を行います。CCM の機能とコンポーネントの概要については、次のセ クションを参照してください。

• Client Configuration Manager の概要 (21ページ)



このガイドは、CCM のインストール、設定、および使用を行う管理者を対象に しています。

要約

第1章、ご紹介

この章では、CCMの概要および利用可能な機能およびコンポーネントを説明します。

第2章、Client Configuration Manager のインストール

この章では、CCM とそのコンポーネントをインストールし、設定する詳細な手順を説明します。

第3章、はじめに

この章では、開始方法、最初に行う操作、CCM コンソールの使用を開始する方 法など、CCM をすぐに使用するための手順を説明します。

第4章、管理

この章では、管理コンソールの[管理]タブとその各機能を詳しく説明します。

第5章、レポート

この章では、[レポート]タブを使用してレポートを作成および表示する方法を説 明します。

第6章、設定

この章では、CCM のインストール、コンソール アクセスやパッチ、ハードウェア、 レポートの設定について説明します。

第7章、ウィザード

この章では、CCM の各ウィザードの詳細な手順を説明します。

第8章、OS イメージの準備と取得

この章では、お使いの環境にあるデバイスに配布するため、オペレーティング システム イメージを準備し、取得する方法を説明します。

第9章、Publisher の使用

この章では、CCM Publisher の使用手順を説明します。

第10章、Application Self-service Manager の使用

この章では、管理エージェントとともにインストールされる Application Self-Service Manager の使用方法を説明します。

第11章、Settings Migration

この章では、Settings Migration Manager および Settings Migration Utility を使用したユーザー設定のバックアップおよび復元について説明します。

第12章、よく寄せられる質問

この章では、CCM およびそのコンポーネントを使用したときに利用できる一般 的な管理タスクに関する、よく寄せられる質問を紹介します。

第13章、トラブルシューティング

この章では、CCMの使用中に遭遇する一般的な問題を解決するための情報と手順を説明します。

付録 A、バイト文字のサポートについて

この付録では、2バイト文字のサポートに関して説明します。

Client Configuration Manager の概要

CCM には、Basic および Premium という、2 つの製品レベルがあります。このガ イドには、両方の製品レベルに関する情報が含まれています。次のセクションで、 各ライセンスで利用可能な CCM の機能を詳しく説明します。

- Basic ライセンスの機能 (22 ページ)
- Premium ライセンスの機能 (23 ページ)

次のセクションには、各 CCM コンポーネントに関する概要が含まれます。

- Client Configuration Manager $\exists \checkmark \lor \lor \neg \lor \lor$ (25 $\sim \lor$)
- 管理エージェント (26ページ)
- Configuration Management Administrator Publisher $(27 \sim \vec{v})$
- Image Preparation Wizard $(28 \sim \cancel{)})$
- Settings Migration Manager $(28 \sim :)$

次の図1では、サンプルの CCM 環境を説明しています。

図1 CCM の環境



Basic ライセンスの機能

Basic 製品レベル ライセンスは、次の管理機能を提供します。

ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ

BIOS 設定情報など、管理対象の HP デバイスに対して、ハードウェアおよ びソフトウェアのインベントリ収集が利用できます。デバイスで収集された インベントリ情報は、中央コンソールで表示できます。レポート ツールでは、 データを詳細にまたはグラフィック表示で表示します。簡単にフィルタ処理 をして、特定の条件にマッチするデバイスを表示できます。

ハードウェア警告のレポート

CCM Basic が管理するデバイスは、ファンが故障している、シャーシが開いている、などのハードウェア警告をクライアントデバイス上に、または中

央コンソールにレポーティングするように、中央で設定できます。HP Client Management Interface (CMI)を使用して、他のハードウェア コン ポーネントが影響を受ける前に、管理者は、修復する必要があるシステムを 確認できます。

• Softpaq 管理

ある環境のデバイスに自動的に適用できる Softpaq を取得します。また、 BIOS、デバイス ドライバまたは HP が提供するアプリケーションの更新に、 デバイスが Softpaq を必要とするかどうかを判断し、デバイスに Softpaq を 配布します。これらはすべて中央コンソールから行います。コンソールのレ ポート領域では、取得して適用可能などの Softpaq が、デバイスに適用され たか、まだ適用されていないか、に関する情報を提供します。

• BIOS 管理

CCM Basic では、BIOS の保護、デバイスでの起動順序の調節、Wake-on-LAN の有効化、または他の BIOS 設定の調節を行うため、パスワードを使 用できます。CCM は、環境の HP デバイスの現在の BIOS 設定を判断し、 希望の設定になるように BIOS 設定を更新できます。

• ProtectTools 管理

ProtectTools のセキュリティ設定を行います。

• リモート管理

管理者は、コンソールの統合リモートコントロール機能を使用して、問題 が発生したデバイスを管理できます。リモートコントロールの他に、電源 のオフ、デバイスの再起動や Wake-On-LAN などの、コンソール内蔵の電 源管理機能が備わっています。

• シン クライアント管理

Windows XPe、CE および Enbedded Linux を実行している HP シン クラ イアント デバイスヘオペレーティング システムおよびソフトウェアを配布 します。

Premium ライセンスの機能

Premium 製品レベルのライセンスでは、上で説明した、**Basic** ライセンスで利 用可能な全機能に加えて、次の追加機能が利用できます。

OS の配布

サポートされる Windows オペレーティング システムを PC クライアント デバイスに配布します。オペレーティング システムはベア メタル デバイス (既存のオペレーティング システムではなく)またはサポートされる既存 の Windows オペレーティング システムを現在実行しているデバイスに配布 できます。

• Settings migration

ユーザーの設定およびファイルは、マシンからマシンに移動できます。同じ デバイスでのインプレース移行では OS から OS へ移行できます。設定の移 行は、製品バージョンが異なってもサポートされます。たとえば、Office XP から Office 2003 へ設定を移行できます。

• ソフトウェアの配布

環境内の管理対象デバイスへパッケージ化されたソフトを配布します。ソフ トウェアは、ローカル接続またはリモート接続の PC に配布できます。デバ イスが、ネットワーク上にあるが、配布ジョブが実行されたときに電源がオ フになっている場合、配布プロセスの一部として、デバイスの電源をオンに することができます。

• Microsoft パッチ管理

CCM Premium は、環境内の Microsoft パッチを管理できます。パッチは、 Microsoft から自動的に取得します。取得の後、管理対象のデバイスは、 パッチの適合性を判断し、パッチがデバイスに配布可能になります。パッチ が配布された後、パッチが対応しているセキュリティ脅威からデバイスが保 護されていることが、定期的に確認されます。

• インベントリおよびソフトウェア利用状況の収集

ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ収集に加えて、CCM Premium は、ソフトウェア利用状況を収集できます。利用状況の情報を使 用して、ライセンスの適合性を判断したり、環境でどのソフトウェアライセン スが必要であるかを判断できます。管理者は、CCMの利用状況管理追跡、 レポート機能を使って、ソフトウェアライセンスの数が多すぎないか、不 十分ではないか、判断できます。

• リモート コンテンツ管理

リモート オフィスをよりよく推進するため、CCM Premium は、リソース を提供するインフラストラクチャ サーバーを配布できます。これにより、 クライアント デバイスは、速度がより遅いワイド エリア ネットワーク接続 からリソースを取得する代わりに、よりローカルなソースからそのリソース を取得できます。

Client Configuration Manager コンソール

CCM コンソールは、メインとなる Web インターフェイスです。これを使って、 デバイス、ソフトウェア、オペレーティング システムおよびパッチの管理だけ でなく、これらの管理対象デバイスをベースにレポートを作成、表示できます。

下の図に表示された CCM コンソール領域を確認してください。

図 2	CCM	コンソ	ール領域
-----	-----	-----	------

🌘 👰 OpenView Client C			
管理 したし	31		- {
 デバイス管理 感グループ管理 ソオウェア管理 	デバイス管理 		-)
		ったくてのデパイスは教育すること、デパイス教育したシャンを説明します。このたシャンの制体で、エージェントの足 2017年を見ず、1979年1日をイナンロンについては、日本部分シールパーを分離してくなっい。	
	1123-1230 1122 - 新聞対象デバイスのパスポート - 新聞エージェントの記者 - 現在のジュブを表示 - 通信のジョブを表示	しまート - 管理対象デバイスの知道 - 管理対象デバイスの教徒	-
	 (明治) <	ジョブ ・ 単独のジョブ:8	

凡例

- **α** コンソール タブ コントロールの上部に位置する一連のタブで、3 つのメイン コンソール 領域を移動できます
- **b** ワークスペース タブ 各セクション内に表示されるタブ
- c コンテンツ コンソール タブ内で利用可能なセクション
- **d ワークスペース** コンテンツが表示される主要領域

コンソールの [レポート] タブは、[管理] タブや [設定] タブとは、レイアウトが 多少異なります。[検索] オプションと [表示] オプションが、左に表示され、レ ポート クエリの結果が、右のワークスペースに表示されます。次の図は、[レ ポート] タブ ウィンドウの例です。

図3 [レポート]タブ



管理エージェント

管理エージェントを使用して、CCM にインポートされたデバイスを管理します。 管理者は、管理エージェントをデバイスに配布してから、そのデバイスまたはデ バイスのグループにソフトウェアやパッチのエンタイトルメント設定とインス トールを行います。

Application Self-Service Manager

管理エージェントがデバイスに配布されると、Application Self-Service Manager がインストールされ、そのデバイスにエンタイトルメントが設定 されたソフトウェアをユーザーが管理できるようになります。

詳細については、**231** ページの「Application Self-service Manager の使用」 を参照してください。

ソフトウェアのインストール

管理対象デバイスにソフトウェアをインストールする方法は2つあります。

 ユーザーは、Application Self-Service Manager からエンタイトルメントが 設定されたソフトウェアを選択して、ユーザーの判断でインストールします。 詳細については、**231**ページの「Application Self-service Manager の使用」 を参照してください。

2 管理者は、CCMから直接、管理対象デバイスにソフトウェアのエンタイト ルメントを設定したり、ソフトウェアを配布します。エンドユーザーとの 対話は必要ありません。詳細については、78ページの「ソフトウェア管理」 を参照してください。

Configuration Management Administrator Publisher

Publisher は、CCM データベースへソフトウェア、オペレーティング システム のイメージ、BIOS 設定または HP Softpaq をパブリッシュするために使用します。 その後、ソフトウェアサービスのエンタイトルメント設定を行い、お使いの環境 の管理対象デバイスに配布できます。

サービスは、ソフトウェア ライブラリ、パッチ ライブラリまたは OS ライブラリの任意のエントリです。サービス インポート デッキまたは エクスポート デッキには、ある特定のサービスをインストールするの に必要なコンポーネント(ファイルおよびフォルダ構造など)をすべ て格納しています。

Publisher は、ソフトウェア サービスの選択と設定を行うデバイスにインス トールする必要があります。Publisher をインストールするには、CCM インス トール CD にある Configuration Management Administrator インストール ファイルを使用できます。または、管理対象デバイスへの配布のため、ソフト ウェア ライブラリで利用可能な CM Administrator Publisher サービスを使用 できます。

詳細については、213ページの「Publisherの使用」を参照してください。

 Configuration Management Agent Explorer Agent Explorer は、CM Administrator のコンポーネントで、Publisher と 一緒にインストールされます。Agent Explorer は、トラブルシューティン グや問題解決の支援に利用できますが、HP サポートから直接指示を受けて から使用してください。

Image Preparation Wizard

Image Preparation Wizard は、デバイス上でオペレーティング システムをロー カルに準備して取得します。このウィザードは、CCM CD-ROM から利用可能な、 Image Preparation Wizard CD ISO の一部です。

詳細な方法については、181ページの「OS イメージの準備と取得」を参照して ください。

Settings Migration Manager

CCM サーバー上で Settings Migration Manager を使用して、管理対象デバイ ス上のアプリケーションやオペレーティング システム用のユーザー設定を取得 するためのテンプレートを定義します。

定義したら、Settings Migration Utility サービスを管理対象デバイスへ配布し ます。ユーティリティを使用して、CCM サーバー上で定義された設定テンプ レートに基づいて、設定のバックアップと復元を行います。

詳細については、251 ページの「Settings Migration」を参照してください。

ヘルプの表示

ウィンドウの右上角にある **[ヘルプ]** ご ボタンをクリックすると、CCM オンラ イン ヘルプが表示されます。

コンソールの他に、Publisher、Application Self-Service Manager および Image Preparation Wizard でも、このガイドの情報に基づいたそれぞれのオン ライン ヘルプが利用できます。

2 Client Configuration Manager のイン ストール

この章では、HP CM Client Configuration Manager およびそのコンポーネント をインストールおよび設定する方法を説明します。次の各セクションでは、 CCM、Publisher および 管理エージェントの具体的なインストール方法と要件 を説明しています。

- システム要件 (29 ページ)
- Client Configuration Manager $\mathcal{O} \not\prec \vee \not\prec \vdash \neg \mathcal{V}$ (32 $\neg \neg \not \lor$)
- Publisher のインストール (36 ページ)
- 管理エージェントの手動インストール (39ページ)

システム要件

 デバイスに対して CCM で行うソフトウェア、パッチ、およびイン ベントリの管理は、最大 10,000 台までとすることをお勧めします。

プラットフォーム サポート

CCM サーバーおよびターゲット デバイスでサポートされるプラットフォームの 詳細については、このリリースに付属のリリース ノートを参照してください。

サーバー

- 最低 2GHz CPU のデュアル プロセッサ構成の専用サーバー
- 4 GB *O* RAM

データベース

- ローカルにインストールされているか、CCM サーバーからリモートにアク セス可能な、Microsoft SQL Server 2000 SP3 以上(SQL Server Personal Edition は、テストまたはデモンストレーション目的にのみ推奨します)。
- SQL Server は、混在モード認証を使用するように設定する必要があります。
- Windows 2000 Server に CCM をインストールしている場合、ローカルシステムに最新の Microsoft Data Access Component をインストールしておきます(これは、SQL Server にリモートでアクセスするのに必要です)。詳細は www.microsoft.com を参照してください。

ターゲット デバイス

- 管理対象の HP シン クライアント デバイスには、Windows CE、XPe、または Embedded Linux をインストールしておく必要があります。
- ファイルと印刷の共有を有効にします。
- Active Directory の一部でない Windows XP を実行するターゲットデバイ スについては、簡易ファイルの共有を無効にする必要があります。
- TPM 対応システムでは、Infineon Driver version 2.00 以降が必要です。

CCMは、管理対象デバイスとの通信に、複数のTCPポートを使用します。 企業または個人向けのファイアウォールソフトウェアを使用している 場合、これらのポートを除外する必要があります。

クライアント デバイス: クライアント デバイスに個人向けファイア ウォールがインストールされている場合、受信トラフィックに対して次 のポートを除外します。

• TCP 3463

次のポートを除外して、管理エージェントのリモート配布を可能にします。

- TCP 139 および 445
- UDP 137 および 138

このポートに加えて、次のプログラムファイルをファイアウォールから 除外します。

- C:\Program Files\Novadigm\RadUIShell.exe
- C: ¥Program Files ¥Novadigm ¥Radexecd.exe
- C:\Program Files\Novadigm\nvdkit.exe
- C: ¥Novadigm ¥Management Agent ¥nvdkit.exe

CCM サーバー:企業ファイアウォールがインストールされている場合、 次のポートをサーバー上の **TCP** トラフィックについて除外する必要があ ります。

3460、3464、3465、3466、3467、3468、3469、3470 および 3480

Windows XPE シン クライアント デバイスには、Sygate ファイア ウォールがプレインストールされています。CCM が動作できるように Sygate を設定する必要があります。

- 1 管理者として Windows XPE ヘログオンします。
- システムトレーの Sygate アイコンを右クリックして、[Advanced Rules...]を選択します。
- 3 [一般] タブで
 - 説明 [Allow CCM All] を追加します。
 - [Allow this traffic] を選択します。
- 4 [アプリケーション] タブで、ブラウズボタンを使用して、
 C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥CM¥Agent から次のアプリケーションを追加します。
 - Nvdkit
 - Radconct
 - Radpinit
 - Radexecd
 - Radstgrq
- 5 各項目の隣のチェックマークで、各項目が選択されていることを 確認します。
- 6 [OK] をクリックして、新しいルールを保存します。
- 7 [OK] をクリックして終了します。
- 8 システムトレーの [Enhanced Write Filter (EWF)] アイコンを 右クリックして、[commit] を選択します。再起動するようにとい う指示が表示されます。これで、変更がフラッシュメモリに書き 込まれます。

Client Configuration Manager のインストール

次のセクションでは、CCM のインストールと設定に必要な手順を説明します。 手順1と2はこの順序で完了する必要があります。

- 1 インストール前 データベースのセットアップ (33ページ)
- 2 Client Configuration Manager のインストール $(33 \, \stackrel{\scriptstyle \sim}{\scriptstyle \sim} \stackrel{\scriptstyle \sim}{\scriptstyle \rightarrow} \stackrel{\scriptstyle \sim}{\scriptstyle \rightarrow})$
- 3 Publisher のインストール (36 ~~-ジ)

タスク1 インストール前 - データベースのセットアップ

CCM をインストールする前に、最初に SQL Server のデータベースをセット アップする必要があります。これには、CCM に使用する SQL Server に、付属 のデータベース ファイル (CCMDB Data.MDF) をアタッチします。

CCM データベースをアタッチするには

- 1 CCM メディアから、データベース フォルダを SQL Server がアクセスでき る場所にコピーします。
- SQL Server Enterprise Manager を開いて、目的の SQL Server の下(た とえば、ローカル)で[データベース]をクリックして強調表示します。
- 3 [ファイル] メニューから、[アクション] > [すべてのタスク] > [データベー スのアタッチ] をクリックします。
- 4 コピーしたデータベース フォルダに移動して、CCMDB_Data.MDF を選択 します。
 - データベースのアタッチメントを設定して、データベースのオーナー名 を sa(または、データベース管理者が割り当てた適当な名前)とし、 CCMDB としてアタッチします。

Windows 認証を使用している場合、データベースのオーナー名は sa 以外でもかまいません。

 SQL Server 名、admin ユーザーの ID およびパスワードが、CCM の インストールの間に必要となります。

これでデータベースがアタッチされました。次のセクションでは、CCMの インストールについて詳しく説明します。

タスク 2 Client Configuration Manager のインストール

お使いの環境にある専用サーバーに CCM をインストールします。

CCM をインストールする前に、最初に SQL Server のデータベースを セットアップする必要があります。データベースのセットアップ手順 は前のセクションを参照してください。

CCM をインストールするには

1 CCM メディアの hpccm.exe をダブルクリックします。

[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

- 2 [次へ] をクリックします。 [エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- ライセンス契約を読んで承諾し、[次へ]をクリックします。
 [ユーザー情報]ウィンドウが表示されます。
- 4 ユーザー情報およびライセンスファイルの場所を入力して、[次へ]をク リックします。

ライセンスファイルの名前はlicense.nvdです。ライセンスファイルの名前がこれと異なる場合は、そのファイルの名前をlicense.nvdに変更します。

[ODBC 接続の設定] ウィンドウが開きます。

5 CCM データベースへの ODBC DSN 接続を設定します。SQL Server 名、 ユーザー アカウント、およびユーザー パスワードを入力して、[次へ] をク リックします。

[ターゲット ドライブ] ウィンドウが開きます。

- ターゲットのインストール ドライブを選択して、[次へ] をクリックします。
 [プロキシ設定] ウィンドウが開きます。
- 7 インターネットにアクセスするのに、インターネットプロキシを使用する 必要がある場合、[はい]をクリックして、[プロキシの詳細]と[高度なプロ キシ設定]を表示します。使用する必要がない場合、デフォルトの[いいえ] を承諾し、手順 10 を続けます。
- 8 必要な場合、必要な [プロキシの詳細]と [高度なプロキシ設定] に入力して、
 [次へ] をクリックします。

[CCM サーバー ホスト名] ウィンドウが開きます。

- 9 このサーバーに接続しているクライアントコンピュータで使用されるホスト名を入力します。
 - 通常、このホスト名はネットワーク管理者により、たとえば CCM.acmecorp.comのように、スタティックDNSエントリとし てセットアップされます。これにより、クライアントコンピュー タは、コンピュータ名やIPアドレスが変更された場合でも、CCM サーバーへのアクセスを続けることができます。

10 [次へ] をクリックします。

[アプリケーションをインストールする準備ができました] ウィンドウが表示 されます。

- 11 インストール設定を変更する場合は、[**戻る**] をクリックします。インストー ルの準備ができたら、[**次へ**] をクリックします。
- 12 CCM がインストールされます。[閉じる] をクリックして、アプリケーション を終了します。
- 13 Windows Vista イメージを、CCM によって取得および配布する場合、 CCM サーバーに 2 つのユーティリティをコピーする必要があります。これ らのユーティリティは Windows Vista メディアおよび WAIK (Windows Automated Installation Kit)のデフォルトのインストール ディレクトリに あります。
 - C:¥Novadigm¥OSManagerServer¥OSM¥SOS¥winpe¥に
 ¥utilities¥Program ファイルを作成します。
 - b bootsect.exe を Windows Vista メディアの ¥boot から
 C:¥Novadigm¥OSManagerServer¥OSM¥SOS¥winpe¥utilities¥Program
 Files¥ にコピーします。
 - c imagex.exe を、C:¥Program Files¥Windows AIK¥Tools¥x86から C:¥Novadigm¥OSManagerServer¥OSM¥SOS¥winpe¥utilities¥Program Files¥にコピーします。

Client Configuration Manager コンソールの起動

CCM をローカルで起動する場合、[HP OpenView Client Configuration Manager Console] デスクトップ アイコンをダブルクリックします。

または、お使いの環境にある任意のデバイスから Web ブラウザを使用して、 CCM コンソールにアクセスできます(Microsoft Internet Explorer 6 以上が必 要です)。

• http://OVCCMhost:3480/CCM に移動します。

ここで、*CCMhost* は、**CCM** がインストールされているサーバーの名前です。 [ログイン] ページで、ユーザー名とパスワードを入力し、**[サインイン]**をク リックします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。 Windows 2003 Server に関する注意 Windows 2003 Server をインストールしたデバイスで CCM へのローカルなアクセスができるようにするには、そのデバイスの [ローカル エリア ネットワーク(LAN) 設定]で[ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない] をオンにする必要があります。

[レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、Java Runtime または Virtual Java Machine が必要です。詳細は、 http://java.com/ja/index.jsp を参照してください。

Client Configuration Manager の削除

サーバーから CCM を削除するには、CCM インストール プログラム (hpccm.exe)を使用します。

CCM を削除するために Windows コントロール パネル アプレット [プログラム の追加と削除] を使用する場合、一部のファイルやフォルダがサーバー上に残る ので、ディレクトリ C:¥Novadigm、および最初のインストール後に追加または 変更されたファイルを手動で削除する必要があります。

サーバーから CCM を削除するには

- 1 CCM サーバーの hpccm.exe をダブルクリックします。
- 2 [**削除**] を選択して [**OK**] をクリックします。

CCM がサーバーから削除されます。

タスク3 Publisher のインストール

ソフトウェアを CCM にパブリッシュ元となる場所に Publisher をインストール します。

製品 CD に含まれるインストール ファイルの他に、CCM ソフトウェア ライブ ラリでは、管理対象デバイスへの配布に Publisher サービス、CM Administrator Publisher が使用できます。これらの方法のいずれかを使用して、

次のセクションで説明するように Publisher をインストールします。

 インストールプログラムを使用して Publisher をインストールするには (37ページ)
Software Publisher サービスを使用して Publisher をインストールするには (37ページ)

インストール プログラムを使用して Publisher をインストールするには

- Publisher をインストールするデバイスで、CCM メディアの RadAdmin ディ レクトリに移動し、Radadmin42i_CCM.msi をダブルクリックします。
 [ようこそ] ウィンドウが表示されます。
- インストールを開始するには、[次へ]をクリックします。
 [エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 3 ライセンス契約を読んで承諾し、[次へ]をクリックします。
- 4 CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。 デフォルトのポート 3464 は変更しないでください。
- 5 [次へ] をクリックします。
 [アプリケーションをインストールする準備ができました] ウィンドウが表示 されます。
- 6 [インストール] をクリックしてインストールを開始します。
- 7 インストールが完了したら、[完了]をクリックします。

Software Publisher サービスを使用して Publisher をインストールするには

- 管理エージェントを配布して、ターゲット デバイスを管理します。詳細は、 58ページの「[デバイス] タブからの管理エージェントの配布」を参照して ください。
- 2 Software Publisher サービスに対するエンタイトルメントをデバイスに設定 します。最初にグループにそのデバイスを追加してから、エンタイトルメン トを割り当てます。詳細については、64ページの「グループ管理」を参照 してください。
- 3 CCM ソフトウェア ライブラリで利用可能な CM Administrator Publisher サービスを配布します。ソフトウェア配布方法については、78 ページの「 ソフトウェア管理」を参照してください。

配布してから、Publisher を使用して、ソフトウェアや HP Softpaq、BIOS 設定、OS イメージ サービスをパブリッシュできます。

Publisher へのアクセス

• [スタート] メニューを使用して Publisher にアクセスします。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP OVCM Administrator] > [CM Adminitrator Publisher]

CCM のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログ インします。デフォルトでは、ユーザー名は admin、パスワード は secret です。

Publisher に関する詳細は、**213** ページの「**Publisher** の使用」、または **Publisher** のオンライン ヘルプを参照してください。

管理エージェントの手動インストール

ネットワークに常時接続されているとは限らないデバイスを管理するために、管理エージェントを手動でインストールします。CCM メディアには、必要なコン ポーネントをインストールするための個別のファイルが含まれています。

管理エージェントがインストールされた後、クライアント デバイスは CCM データベースに自動的に追加されます。

管理エージェントはシン クライアント デバイスには配布できないので、 手動でインストールする必要があります。インストールの指示については、39ページの「シン クライアントでの 管理エージェントのインストール」を参照してください。

管理エージェントを手動でインストールするには

- コマンドラインを使用して、CCM メディアの RadAgent ディレクトリに 移動します。
- 2 setup.cmd host と入力します。この場合の host は CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名です。
- **3 Enter** キーを押します。

管理エージェントがインストールされ、デバイスは CCM を使用した管理の 準備ができました。

シン クライアントでの 管理エージェントのインストール

ネットワークに常時接続されているとは限らないデバイスの他に、管理するシン クライアントデバイスにも管理エージェントを手動でインストールする必要が あります。

Embeded Linux

CCM 管理エージェントのインストールには、/mnt ファイル システム上に最低 3 MB の空き領域が必要です。シン クライアント モデルおよび関連するイメー ジには、エージェントをインストールする十分な領域を持たないものがあります。 現在のところ、32 MB のフラッシュメモリしか持たないモデルでは、エージェン トをローカルにインストールできません。後述の NFS 共有からの実行に関する 注意および OS の配布に Local Service Boot (LSB) を使用する際の制限を参照 してください。

現在のモデル

- モデル T5525:256MB のフラッシュ メモリ。エージェントをローカルに インストールできます。
- モデル T5515:32 MB および 128 MB イメージをサポートします。128 MB イメージを使用して、エージェントをローカルにインストールできます。
- モデル T5125:32 MB のフラッシュ メモリ。エージェントをローカルに インストールできません。

Embedded Linux に Management Agent をインストールするには

- 1 ターゲットのシン クライアント デバイスに root としてログインします。
- 2 /mnt/opt/OVCM という名前の新しいディレクトリを作成します。
- 3 CCM メディアの /ThinClient/Linux ディレクトリにある ThinClient.tar の内容を /mnt/opt/OVCM にコピーします。

デバイスのモデルによっては、/tmp または別のマシンでこれらのファイル を展開する必要があります。tar ファイルと展開された内容を両方とも格納 する十分なディスク領域がないモデルもあるからです(約7~8 MBの空き 領域が必要です)。展開した後は、ThinClient.tarを削除できます。

4 カレントディレクトリを /mnt/opt/OVCM に変更して、次のように入力し インストールを実行します。

./install -i CCM_Server

この場合の *CCM_Server* は CCM サーバーのホスト名または IP アドレスです。 管理エージェントがインストールされます。

 これらのデバイスでは出荷時に、DNS サーバーとの連絡や登録の機能が 備えられていません。そのため、このデバイスには ping を実行できない 場合があります。また、ファクトリーイメージに作成された hosts ファ イルには、デフォルトのホスト名として 'localhost.localdomain' が、ま たエイリアスとして(実際に)割り当てられたホスト名が使用されてい ます。結果として、管理エージェントはそのデバイスを localhost.localdomain として登録します。割り当てられたホスト名を反 映するため、hosts ファイルでの順序を変更して、127.0.0.1 エントリの リストの最初に、割り当てられたホスト名を移動できます。 これらのデバイスの管理には、BIOS に有効なシリアル番号とマシン UUID が含まれている必要があります(アセット タグの設定も推奨し ます)。これらの設定を行わないと、OS の配布が正しく実行されない 場合があります。

32 MB のフラッシュ メモリしかないモデルを使用している場合、管理エージェン トをローカルにインストールできません。また、OS イメージを配布するための [ローカル サービスの起動] オプションは使用できないので、そのためには PXE を使用する必要があります。

NFS 共有からリモートにエージェントを実行するには

- インストール スクリプトを更新して、MEDIA_RAM_ROOT および INFRA_MEDIA_ROOT 変数が NFS ディレクトリを指すように変更します。
- ディレクトリ /mnt/opt/OVCM を作成し、インストール スクリプトをこの 場所に置き、インストール パッケージの残りの部分(thinclient.tar) を NFS ディレクトリに置きます。
- 3 上の手順4で説明したようにインストールを実行します。

Embedded Linux から管理エージェントを削除するには

Embedded Linux から管理エージェントを削除するには、**uninstall** スクリプト を使用します。

- 1 Embedded Linux デバイスに root としてログインします。
- 2 /tmp/OVCM/IDMSYS に移動します。
- ./uninstall と入力して、Enter キーを押します。
 管理エージェントが削除されます。

Windows XPe

Windows XPe に管理エージェントをインストールするには

- Windows XPe シン クライアント デバイスから CCM メディアにアクセスします。
- 2 CCM メディアで、SystemDrive: ¥ThinClient ¥XPE に移動します。
- **3 setup.exe** をダブルクリックします。
- 4 インストールの指示に従います。

5 IP アドレスとポート番号の入力を要求されたら、CCM サーバーの IP アド レスとポート番号を入力します。

管理エージェントがインストールされます。

Windows XPE から管理エージェントを削除するには

Windows XPE から管理エージェントを削除するには、インストール プログラ ム setup.exe を使用します。

- 1 setup.exe をダブルクリックします。
- 2 [削除]を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

管理エージェントが削除されます。

Windows CE

Windows CE に管理エージェントをインストールするには

- Windows CE シン クライアント デバイスから CCM メディアにアクセスします。
- 2 CCM メディアで、SystemDrive:¥ThinClient¥WinCE に移動します。
- **3 radskman.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力して、[OK] をクリック します。

管理エージェントがインストールされます。

Windows CE から管理エージェントを削除するには

 Windows のコントロールパネルアプレット [プログラムの追加と削除] を 使用して、管理エージェントを Windows CE から削除します。

OS 配布用の PXE の設定

PXE を使用して、オペレーティング システム イメージの配布を行う場合、次の 手順を使用して、DHCP サーバーおよび TFTP サーバーを設定します。 CCM は、TFTP サーバーおよび DHCP サーバーがお使いの環境にすで に存在することを前提としています。これらは、CCM メディアには含 まれていません。

OS 配布用に PXE を設定するには

- DHCP サーバーが、ブートファイル(DHCP オプション 067)およびブートサーバー(DHCP オプション 066)を使用するように設定します。
 - CCM で使用されるブート ファイルは rombl.0 です。
 - ブート サーバーは、TFTP サーバーを実行している IP アドレスを指し ている必要があります。
- **TFTP** サーバーがブート ファイルを提供するように設定します。
 - CCM CD-ROM の ¥OSManagement¥PXE¥ ディレクトリの内容を TFTP サーバーにコピーします。
 - 新しくコピーされた ¥linux.cfg ディレクトリで、ファイルをデフォルトでお使いの CCM サーバーを参照するように編集します。この設定ファイルは、サーバーのホスト名ではなく IP アドレスを使用する必要があります。デフォルトの設定ファイルの例は次のとおりです。

DEFAULT bzImage

APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ip=dhcp ISVR=192.168.1.11 ISVRPORT=3469

上の例では、CCM サーバーの IP アドレスは 192.168.1.11 であり、OS 管理用に使用されるポート番号は 3469 です。

 PXE は DHCP ブロードキャスト、マルチキャスト、または UDP プロトコルを使用し、ブロードキャストを受信します。ブロード キャスト トラフィックがサブネット間で制限されている場合、
 PXE サーバーを各サブネットに置き、ブロードキャストを有効に するか(これはオプションにない場合があります)、DHCP ヘル パー機能を使用して DHCP ブロードキャストトラフィックを通過 させる必要があります。この状況は、標準の DHCP サーバーの状 況と似ているので、ネットワーク管理者はおそらく十分に理解して いると思われます。

PXE 業界標準に関する情報は、次を参照してください。 ftp://download.intel.com/design/archives/wfm/downloads/ pxespec.pdf

3 はじめに

CCM のインストールと設定が完了し、Web ベースのコンソールを使用して、 Windows クライアント環境の管理を始める準備ができました。次のセクション では、CCM の使用を始め、開始する必要がある重要なタスクを紹介します。

- ログイン (45ページ)
- クイックスタートタスク(46ページ)

ログイン

デスクトップ アイコンを使用して、または CCM サーバーへのネットワークア クセスが可能な環境で任意のデバイスからブラウザを使用して、CCM にアクセ スします。

 http://OVCCMhost:3480/CCM に移動します。この場合の CCMhost は、 CCM がインストールされているサーバーの名前です。

[ログイン] ページで、ユーザー名とパスワードを入力し、[サインイン] をク リックします。デフォルトでは、ユーザー名は admin、パスワードは secret です。

パスワードの変更方法やユーザーの追加方法は、133ページの「設定」を参照してください。

ウィザードを実行したり通知を表示するときに、CCM コンソールが別のブラウザインスタンスを開く場合があります。これらのウィザードや通知にアクセスするには、必ずブラウザのポップアップブロック設定で「許可されたサイト」に CCM を設定します。

セキュリティのため、CCMは、20分間操作を行わないと、自動的に 現在のユーザーをログアウトさせます。その後、コンソールの使用を 続けるには、再ログインする必要があります。

クイック スタート タスク

このセクションで説明するクイック スタート タスクを使用して、ただちに Windows クライアント環境の管理を始めます。

▶ タスクには、Premium ライセンスを必要とするものがあります。

これらのタスクを完了すると以下のことが行えます。

- デバイスを CCM にインポートして、管理エージェントを配布することにより、 デバイスを管理できます。
- インベントリやパッチ管理に必要なスケジュールを設定できます。
- ソフトウェアのパブリッシュやパッチの取得を開始する場所がわかります。
- デバイス グループを作成して、そのグループのデバイスにソフトウェアおよびパッチを配布できるようになります。
- お使いの環境内の全管理対象デバイスについてレポートを作成する場所がわかります。

以下のセクションでは、これらのタスクについて説明し、追加情報については関 連セクションを紹介します。

- 1 デバイスのインポート (47ページ)
- 2 管理エージェントの配布 (47 ページ)
- 3 スケジュールの設定(48ページ)
- 4 ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得(49ページ)
- 5 グループの作成 (50ページ)
- 6 ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布 (50 ページ)
- 7 レポートの生成と表示 (51ページ)



タスク1 デバイスのインポート

インベントリ情報を収集したり、ソフトウェアおよびパッチを配布するため、最 初に、お使いの環境のデバイスを CCM に認識させるのに、CCM ヘデバイスを インポートする必要があります。

- [デバイス管理]の[一般] タブから、[インポート]をクリックして、デバイスインポート ウィザードを起動します。
- 158ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

ほとんどのタスクは、[現在のジョブ] タブおよび [過去のジョブ] タブまたは [ジョブ管理] セクションでモニタできるジョブを生成します。

デバイスがインポートされたら、ソフトウェア、パッチ、およびインベントリを 管理するため、管理エージェントの配布を行います。

タスク2 管理エージェントの配布

デバイスがインポートされたら、管理エージェントを配布します。

- [デバイス管理] の [一般] タブから、[配布] をクリックして、エージェント 配布ウィザードを起動します。
- 159 ページのウィザードの手順に従って、インポートしたデバイスに管理 エージェントを配布します。



ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管 理共有(C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理 者の資格情報は、CCM コンソールによる管理エージェントの配布の間に指 定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の 手順ではローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。詳細は、 Microsoft のサポート Web サイトを参照してください。

デバイスの管理を開始したので、インベントリの収集、パッチの適合性スキャン、 およびパッチの取得の スケジュールの設定を行います。

タスク3 スケジュールの設定

インベントリおよびパッチ取得のスケジュールを開始するには、[ソフトウェア/ ハードウェア インベントリ ウィザード] タブおよび [設定] タブを使用します。

インベントリ スケジュールを設定するには

- デバイス管理領域の[デバイス] タブから、管理対象デバイスを選択します (または、グループ管理の[グループ] タブからグループを選択します)。
- [インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタンをクリックして、[ソフトウェ ア/ハードウェア インベントリの探索] を選択し、ソフトウェア/ハード ウェア インベントリ ウィザードを起動します。
- 161ページのウィザードの手順に従って、ユーザーのデバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。

パッチ取得のスケジューリングおよび設定を行うには

- [設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得の設定および スケジューリングを行います。
 - [スケジュール] タブを使用して、パッチ取得のスケジュールを入力します。
 - [設定] タブを使用して、必要な Windows パッチおよび HP Softpaq 取 得の設定を入力します。



Microsoft パッチ管理には Premium レベルのライセンスが必要です。

パッチ適合性探索スケジュールを設定するには

- [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブから、管理対象デバイスを選択します。
- [インベントリの収集] 2 ツールバー ボタンをクリックして、[パッチ適合性の探索] を選択し、パッチ適合性探索ウィザードを起動します。
- 162ページのウィザードの手順に従って、該当するデバイスとグループに対するパッチ適合性スケジュールを作成します。

スケジュールを設定したら、ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得を行う ことができます。

タスク4 ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得

管理対象のデバイスにソフトウェアやパッチを配布する前に、ソフトウェア ラ イブラリおよびパッチ ライブラリにソフトウェアやパッチを格納する必要があ ります。

- CM Administrator Publisher を使用して、CCM データベースにソフト ウェアをパブリッシュします。
 - ソフトウェア サービスの設定およびパブリッシュを行う側のマシンで Publisher を起動します。詳細は、Publisher のオンライン ヘルプ また は「第9章、Publisher の使用」を参照してください。
 - ソフトウェアおよびオペレーティング システムのパブリッシュ には、Premium レベルのライセンスが必要です。Basic ライセン スでは、HP Softpaq または BIOS 設定のパブリッシュができます (Basic ライセンスでのソフトウェアおよび OS イメージのパブ リッシュは、シン クライアント デバイスに限られます)。
- HP または Microsoft からパッチを取得して、パッチ ライブラリに格納します。
 - [管理] タブの [パッチ管理] セクションで、[取得] をクリックします。
 パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。
 CCM は、前の手順「スケジュールの設定」で設定した取得スケジュールに従って、パッチを自動的にダウンロードします。

パフォーマンスの問題を避けるため、最初はパッチを、評価のため非プ ロダクション環境にある CCM サーバーに取得します。

各ライブラリでソフトウェアおよびパッチが利用可能になると、グループの作成 を行い、配布用のソフトウェアおよびパッチのエンタイトルメントを設定します。

タスク5 グループの作成

ソフトウェアまたはパッチを配布するには、ターゲット デバイスを含むグルー プを作成してから、ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメントをそのグ ループに設定します。

- [グループ管理]の[一般]タブから、[新しいスタティック グループの作成] をクリックします。グループ作成ウィザードが起動します。165 ページの ウィザードの手順に従って、スタティック グループを作成します。
- CCM はまた、発見されたデバイス(探索グループ)または選択されたインベントリ条件(レポートグループ)に基づいて、動的なデバイスグループもサポートします。これらのグループは、グループ作成ウィザードを使用しても作成できます。詳細は、64ページの「グループ管理」、および117ページの「レポート」を参照してください。

グループが作成されたら、そのグループのデバイスについて ソフトウェアまた はパッチのエンタイトルメント設定と配布を行います。

タスク6 ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布

[グループ管理] セクションの [グループ] タブで、グループの説明をクリックして [グループの詳細] ウィンドウを開きます。ここから、ソフトウェアまたは パッチのエンタイトルメント設定および配布ができます。

ソフトウェアおよびパッチを配布するには、Premium レベルのライセン スが必要です。Basic ライセンスでは、BIOS 設定および HP Softpaq の 配布ができます。

ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- [グループの詳細]の[ソフトウェア]タブを使用して、ソフトウェアのエンタイトルメントを設定します。
 - [ソフトウェアエンタイトルメントの追加] 2 ツールバー ボタンをク リックして、ソフトウェア サービスを選択し、そのグループで利用でき るようにします。エンタイトルメントが設定されたソフトウェアは、[ソ フトウェア] タブ リストに表示され、Application Self-Service Manager のエンドユーザーが利用できますが、自動的に配布されることはありま せん。これにより、管理対象ソフトウェア カタログを作成でき、ユー ザーは、いつどのオプションのソフトウェアを配布するかを決定できます。
 - — ソフトウェアを配布するには、配布するソフトウェアを選択して、[ソフ
 トウェアの配布]
 [●] ツールバー ボタンをクリックします。ソフトウェ

ア配布ウィザードが開きます。169 ページのウィザードの手順に従って、 そのグループのデバイスにソフトウェアを配布します。配布されたソフ トウェアは、エンド ユーザーのデバイスに自動的にインストールされます。

パッチのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- [グループの詳細]の [パッチ] タブを使用して、パッチのエンタイトルメント 設定と配布を行います。
 - [パッチ エンタイトルメントの追加] 2 ツールバー ボタンをクリックして、 パッチを選択し、そのグループで利用できるようにします。エンタイトル メントを設定したパッチが、[パッチ] タブ リスト内に表示されます。
 - パッチを配布するには、配布するパッチを選択して、[パッチの配布] ツールバー ボタンをクリックします。パッチ配布ウィザードが開きます。 172 ページのウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスに パッチを配布します。

パッチの適合性の強制は、パッチ配布ウィザードを使用して設定でき ます。

 エンタイトルメントを設定したパッチは、Application Self-Service Manager カタログに表示されません。

CCM を使用して、ソフトウェアおよびパッチの配布を行いました。次の「レポートの生成と表示」セクションの指示に従って、レポートの作成について学びます。

タスク7 レポートの生成と表示

[レポート] タブを使用し、管理対象デバイスの情報に基づいて、レポートの生成 と表示を行います。

デバイスレポートを生成するには、117ページの「レポート」の指示に従います。

手早くレポートの例を生成するには、[インベントリ情報] 領域の[管理対象 デバイスを表示] をクリックして、管理エージェントがインストールされて いる全デバイスのリストを表示します。

デバイスのリストが生成されると、左のオプションを使用して、またはデバ イスカラムの詳細をクリックして、追加のフィルタを適用できます。 レポートが生成されると、[新しいダイナミックレポートグループの作成] シールバー ボタンをクリックして、そのレポートにデバイスのダイナミック グ ループを作成します。グループ作成ウィザードが起動します。165 ページのウィ ザードの手順に従って、レポートグループを作成します。

4 管理

[管理] タブには、環境を管理するのに使用するツールが備えられています。次の セクションでは、ユーザーがコントロールできる管理領域について説明します:

- デバイス管理(54ページ)
- グループ管理(64ページ)
- ソフトウェア管理 (78ページ)
- パッチ管理(87ページ)
- OS 管理 (97 ページ)
- ジョブ管理 (111ページ)

デバイス管理

[デバイス管理] セクションを使用して、デバイスのインポート、管理エージェントの配布、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモートコントロール、アプリケーション利用状況の収集、および全管理対象デバイスに基づいたレポートの表示ができます。

デバイス管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- 一般 (54 ページ)
- デバイス (55 ページ)
- 現在のジョブ(63ページ)
- 過去のジョブ (63 ページ)

一般

[一般] タブを使用して、デバイスの追加、管理エージェントの配布、現在および 過去のエージェント配布ジョブの表示、および管理対象デバイスに関するレポー トの表示ができます。

ワークスペースの[要約] セクションには、データベース内のデバイスの数、管 理対象デバイス(管理エージェントがインストールされているデバイス)の数、 および現在のジョブの合計数が表示されます。

デバイスをインポートするには

[共通のタスク] 領域で [インポート] をクリックします。デバイス インポート ウィザードが起動します。

158 ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイスを CCM に追加します。

管理エージェントを配布するには

• [共通のタスク] 領域で [配布] をクリックします。エージェント配布ウィ ザードが起動します。

159ページのウィザードの手順に従って、データベースにあるデバイスに管 理エージェントを配布します。 リモートデバイスに管理エージェントを配布するには、管理共有へのア クセスが必要です。Windows XP には簡易ファイルの共有(SFS)とい うセキュリティ機能が備えられており、これらの共有へのアクセスをブ ロックします。ワークグループの一部である Windows XP デバイスでは、 SFS はデフォルトで有効になっています。また、Active Directory ドメ インに参加するデバイスでは、SFS は自動的に無効となります。ター ゲットデバイスが Windows XP を実行しており、Active Directory ドメ インに参加していない場合、SFS をオフにして、管理エージェントの インストールを許可する必要があります。次の Microsoft サポート情報 の記事は、SFS の設定方法に関して詳しく説明しています。

http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;EN-US;q304040

管理エージェントは、シンクライアントデバイスヘリモートで配布できません。CCMメディアの¥ThinClientディレクトリにあるインストールプログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

デバイス

[デバイス] タブには、CCM にインポートされた全デバイスの表が表示されます。

CCM がインストールされると、ホスト サーバーは自動的にデバイス リストに追加されます。このデバイス定義は、CCM が必要としており、 削除できません。

新しくインポートされた(7日以内にインポートされた)デバイスは、デバイス 名の右に、カッコ付きの「新規作成」という単語"(新規作成)"が表示される ので識別できます。



管理エージェントが配布されるまでは、デバイス情報の一部しか利用 できません。

[デバイス] ツールバーを使用して、デバイスのインポート、管理エージェントの 配布または削除、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプション の管理、デバイスのリモート コントロール、アプリケーション使用状況の探索、 およびデータベースからのデバイスの削除ができます。 デバイス リストのカラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表 の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプ したりできます。

お使いの環境にあるコンピュータ名に 15 文字を超える名前がある場合、 CCM を使用して管理エージェントの配布またはグループの作成を行 うと、予期しない結果になる場合があります。コンピュータ名は 15 文字以下にすることを推奨します。詳細は、次の Microsoft サポート 情報記事を参照してください。

http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;enus;188997

デバイスのリストを絞り込むには、[検索]機能を使用します。最初の検索ボックスには、常にコンソールの現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが表示されます。2番目のボックスには、クエリをカスタマイズするために使用する検索パラメータを指定します。

クエリ結果を表示すると、**[フィルタ結果]** *∭* が、表の一番下に表示されます。

ツールバー ボタン	説明
8	データのリフレッシュ - デバイス リストのリフレッシュ
-	管理対象デバイスのインポート – デバイス インポート ウィ ザードの起動
1	管理エージェントの配布 – エージェント配布ウィザードの起動
	管理エージェントの削除 – エージェント削除ウィザードの起動
<u>₽</u>	インベントリの収集
	ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 – ソフトウェア/ ハードウェア インベントリ ウィザードの起動
	パッチ適合性の探索 - パッチ適合性探索ウィザードの起動
	アプリケーション利用状況の探索 - アプリケーション利用状況 収集ウィザードの起動
٩	電源管理 - 電源管理ウィザードの起動

表2 [デバイス] ツールバーのタスク

ツールバー ボタン	説明
ø.	リモート制御 - リモート制御ウィザードの起動
*	データベースからデバイスの削除 - デバイス リストからのデバ イスの削除

次のタスクが [デバイス] タブから実行できます。

- デバイスのインポート (57 ページ)
- [デバイス] タブからの管理エージェントの配布 (58 ページ)
- 管理エージェントの削除(58ページ)
- ソフトウェア/ハードウェアインベントリの探索(59ページ)
- パッチ適合性の探索(59ページ)
- アプリケーション利用状況の探索 (59 ページ)
- リモート制御(60ページ)
- 電源管理(61ページ)
- デバイスの削除(61ページ)
- デバイスの詳細(61ページ)

デバイスのインポート

デバイス インポート ウィザードでは、名前または IP アドレスによるデバイス の手動インポートや、Active Directory または別の LDAP 準拠ディレクトリ内、 あるいはネットワーク ドメインに含まれるデバイスの探索ができます。

 CCM に1つ以上のデバイスをインポートするには、[管理対象デバイスの インポート] - ペールバーボタンをクリックします。デバイスインポート ウィザードが起動します。

158 ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイスを CCM に追加します。

[デバイス] タブからの管理エージェントの配布

エージェント配布ウィザードを使用して、管理エージェントをユーザー環境にあ るデバイスに配布します。

管理エージェントを Windows Vista のデバイスに配布します。

ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管 理共有(C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理 者の資格情報は、CCM コンソールによる管理エージェントの配布の間に 指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の 手順ではローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。詳細は、 Microsoft のサポート Web サイトを参照してください。

管理エージェントを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、管理するデバイスを選択 します。
- 2 [管理エージェントの配布] 響 ツールバー ボタンをクリックして、エージェン ト配布ウィザードを起動します。
- 3 159 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスに管理エージェントを配布します。

管理エージェントの削除

CCM データベースにあるデバイスから管理エージェントを削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。

管理エージェントを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、エージェントを削除する デバイスを選択します。
- 2 [管理エージェントの削除] ¹ ツールバー ボタンをクリックして、エージェン ト削除ウィザードを起動します。
- 3 160 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスから管理エー ジェントを削除します。

ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、CCM データ ベースにあるデバイスに関するインベントリを探索します。

ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索する デバイスを選択します。
- [インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタンをクリックして、[ソフトウェ ア/ハードウェア インベントリの探索] を選択し、ソフトウェア/ハードウェ アインベントリ ウィザードを起動します。
- 3 161ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてインベン トリを探索します。

パッチ適合性の探索

パッチ適合性探索ウィザードを使用して、CCM データベースにあるデバイスに 対する適合性を探索します。

パッチ適合性の探索と強制を行うには

- 最初のカラムのチェックボックスをオンにしてパッチ適合性探索の対象と するデバイスを選択します。
- 2 [インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタンをクリックして、[パッチ適合 性の探索] を選択し、パッチ適合性探索ウィザードを起動します。
- 3 162 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてパッチ 適合性を探索します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適合性レポートを表示します。

アプリケーション利用状況の探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、CCM データベース内の デバイスについてアプリケーション利用状況を探索します。ウィザードは、収集 エージェントをインストールします。収集エージェントは、作成し有効にした フィルタが指定する利用状況のデータを返します。さらに、必要な場合には、プ ライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。詳細は、149 ページの[設定] タブの「レポート」セクションを参照してください。 利用状況データは、個々のデバイスに対して1度だけ返されます。利用状況 データを反復して収集できるのは、グループに対してだけです。グループに対す る利用状況データの収集は、70ページの「グループに対するアプリケーション 利用状況データの探索」を参照してください。



▶ アプリケーション利用状況データを収集するには、Premium レベルのラ イセンスが必要です。

アプリケーション利用状況を探索するには

- 1 最初のカラムのチェックボックスをオンにして、アプリケーション利用状 況探索の対象とするデバイスを選択します。
- 2 「インベントリの収集] 🔩 ツールバー ボタンをクリックして、「アプリケー ション利用状況の探索]を選択し、アプリケーション利用状況収集ウィザー ドを起動します。
- 3 162ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてアプリ ケーション利用状況を探索します。
- 4 [レポート]タブを使用して、選択したデバイスに関する利用状況レポートを 表示します。

リモート制御

リモート制御ウィザードを使用して、任意のデバイスとのリモート セッション を開始します。ウィザードにより、RDP または VNC のいずれかをインストー ルし、有効にしているデバイスに接続できます。

🝆 VNC を使用するには、Internet Explorer 用の Sun Java プラグインを インストールする必要があります。詳細は、 http://java.com/ ja /index.jsp を参照してください。

リモート セッションを開始するには

- リストからデバイスを選択して、**[リモート制御]** ᄰ ツールバー ボタンをク 1 リックし、リモート制御ウィザードを起動します。
- 2 168 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてリモー トセッションを開始します。

管理対象デバイスにインストールしている VNC Server は、ポート 5800 で動作する VNC Java アプレットをサポートする必要があります。これ を確認するには、ブラウザのウィンドウを開いて、

「http://hostname:5800」と入力します。アプレットがインストール されている場合、TightVNC のログイン ページが開きます。

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動したりする には、電源管理ウィザードを使用します。

 管理するデバイスを選択して、[電源管理] ④ ツールバー ボタンをクリックし、 電源管理ウィザードを起動します。

163 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスに対して電源管 理ジョブを作成します。

デバイスの削除

CCM データベースからデバイスを削除するには、[デバイス] ツールバーを使用 します。

CCM からデバイスを削除するには

- 最初のカラムのチェックボックスをオンにして、削除するデバイスを選択 します。
- 2 [**デバイスの削除**] ³ ツールバー ボタンをクリックして、CCM からデバイ スを削除します。

デバイスの詳細

[デバイス] タブでデバイス名をクリックすると、[デバイスの詳細] ウィンドウが 開きます。[デバイスの詳細] ウィンドウには、選択したデバイスに基づく設定モ デルが表示されます。

[デバイスの詳細] ウィンドウを使用して、以下を行います。

- デバイスのプロパティの表示
- デバイス グループのメンバーシップの表示と変更
- エンタイトルメントの表示

- レポートの要約の表示
- 管理エージェントの配布
- デバイス管理ジョブの作成

以下の領域が、[デバイスの詳細] ウィンドウから利用できます。

一般

[一般] タブは、デバイスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定 タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブは、デバイスのプロパティを表示します。管理エージェントが 配布されるまでは、デバイス情報の一部しか利用できません。

グループ

[グループ] タブは、現在のデバイスが所属する全グループを表示します。

OS

[OS] タブは、デバイスのグループ メンバーシップに基づいて、デバイスにエン タイトルメントが設定されたオペレーティング システムをすべて表示します。 付属のツールバーを使用して、OS イメージを配布します。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、エンタイトルメン トが設定されたソフトウェアをすべて表示します。ツールバー ボタンを使用して、 現在のデバイスにソフトウェアを配布したり、デバイスからソフトウェアを削除 したりします。

パッチ

[パッチ] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、エンタイトルメントが 設定されたパッチをすべて表示します。ツールバーを使用して、現在のデバイス ヘパッチを配布します。



パッチは、配布された後に削除できません。

レポート

[レポート] タブには、表示しているデバイスに固有のレポートの要約が表示され ます。詳細なレポートを表示するには、メイン CCM コンソールの [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ]は、アクティブなデバイス管理ジョブまたはスケジュールされた デバイス管理ジョブをすべて表示します。デバイス管理ジョブは、個々のデバイ スを対象とし、CCM データベースのデバイスに対して、管理エージェントの配 布や削除、またはソフトウェアの管理に使用できます。

カラムの見出しをクリックしてソート順を変更したり、表の上部にあるナビゲー ションボタンを使用して特定のセクションへジャンプしたりできます。

ジョブ コントロールおよび ジョブ ステータスに関する情報は、111 ページの ジョブ管理の「現在のジョブ」セクションを参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したデバイス管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックしてソート順を変更したり、表の上部にあるナビゲー ションボタンを使用して特定のセクションへジャンプしたりできます。

完了したジョブは完了の1分後に過去のジョブリストに移動されます。

グループ管理

[グループ管理] セクションを使用して、デバイス グループの作成と管理を行い ます。デバイス グループの作成は、管理を容易にし、管理対象デバイスにソフ トウェアおよびパッチを配布するのに必要です。

グループ管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- 一般 (64 ページ)
- グループ (66 ページ)
- 現在のジョブ (77 ページ)
- 過去のジョブ (77 ページ)

一般

[一般] 領域を使用して、新しいグループの作成、既存のグループの管理、および 現在および完了したグループ管理ジョブの表示を行います。

グループには、管理対象デバイスおよび管理対象ではないデバイスを含めること ができます。

新しいスタティック グループを作成するには

[共通のタスク] 領域で、[新しいスタティック グループの作成] をクリックします。グループ作成ウィザードが起動します。

165 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の 新しいデバイス グループを作成します。

新しいダイナミック探索グループを作成するには

[共通のタスク] 領域で、[新しいダイナミック探索グループの作成] をクリックします。グループ作成ウィザードが起動します。

165ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイス探索グループを作成します。

新しいダイナミック レポート グループを作成するには

[レポート] タブを使用して、最初にクエリを定義し、次に [ダイナミックレポート グループの作成] ツールバー ボタンをクリックして、グループ作成ウィザードを開始します。詳細については、131 ページの「ダイナミックレポート グループの作成」を参照してください。

次のセクションでは、CCM 内で利用可能な様々なタイプのグループについて説 明します。

グループ タイプ (65 ページ)

グループ タイプ

CCM は、デバイスの管理に以下のグループ タイプを使用します。

内部

内部グループは **CCM** が提供します。たとえば、全デバイス グループには、デ フォルトではインポートされた全デバイスが含まれています。

スタティック

個々のデバイスを選択して、スタティック グループを作成します。スタティッ ク グループにデバイスを追加したり、スタティック グループからデバイスを削 除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用して、グループ メンバーシッ プを手動で変更する必要があります。

探索

探索グループには、グループ作成ウィザードの間に設定したパラメータに従って、 外部ソース(LDAP、ネットワーク探索)に由来する、管理対象デバイスまた は管理対象でないデバイスの動的なリストが含まれています。探索されたデバ イスは、自動的に CCM デバイス リストに追加されます。

レポート

レポート クエリで返されたデバイスのリストからレポート グループを作成します。 レポート グループは、グループ管理ジョブを使用して、自動的に更新されます。 詳細については、131 ページの「ダイナミック レポート グループの作成」を参 照してください。

デフォルトでは、CCM には以下のレポート グループがあります。

全 Windows Vista デバイス

- 全 Windows XP Professional デバイス
- 全 Windows 2000 Professional デバイス
- 全 TPM 対応デバイス

これらのグループは、毎日更新され、ダイナミック グループの要件に合致した 新しい管理対象デバイスが自動的に追加されます。

グループ

[グループ] タブには、作成された全グループが表示されます。新しく作成された (7日以内に作成された) グループは、グループ名の右に、カッコ付きの新規作 成という単語"(新規作成)"が表示されます。

- グループに特有の情報を表示するには、グループの説明リンクをクリックします。
- グループリストをソートするには、カラムの見出しをクリックします。
- グループ内のデバイスについてインベントリ、パッチ、および電源管理ジョ ブを作成するには、ツールバーボタンを使用します。
- デバイスのリストを絞り込むには、[検索]機能を使用します。最初の検索 ボックスには、常にコンソールの現在のセクションで利用可能なカラムの見 出しが表示されます。2番目のボックスには、クエリをカスタマイズするた めに使用する検索パラメータを指定します。クエリ結果を表示すると、
 [フィルタ結果] が、表の一番下に表示されます。

作成したグループは、デバイスのインベントリ、場所、または指定した他の条件 に基づいて、どのデバイスがどのソフトウェアまたはパッチを受け取るかを判断 できます。デバイスを追加する前に、必ずグループの作成を計画してください。

ツール バー ボ タン	説明
6	リフレッシュ - グループ リストのリフレッシュ
	新しいグループの作成 – グループ作成ウィザードの起動
4	管理エージェントの配布 - エージェント配布ウィザードの起動
	管理エージェントの削除 – エージェント削除ウィザードの起動

表3 [グループ] ツールバーのタスク

ツール バー ボ タン	説明
<u>A</u>	インベントリの収集
	ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 - ソフトウェア/ ハードウェア インベントリ ウィザードの起動
	パッチ適合性の探索 – パッチ適合性探索ウィザードの起動
	アプリケーション利用状況の探索 - アプリケーション利用状況 収集ウィザードの起動
٩	電源管理 - 電源管理ウィザードの起動
×	グループの削除 – グループ リストからのグループの削除

以下のタスクが [グループ] タブから実行できます。

- グループの作成(68ページ)
- 管理エージェントのグループへの配布 (68ページ)
- 管理エージェントのグループからの削除(69ページ)
- グループに対するソフトウェア/ハードウェアインベントリの探索(69ページ)
- グループに対するパッチ適合性の探索 (70ページ)
- グループに対するアプリケーション利用状況データの探索 (70ページ)
- 電源管理(71ページ)
- グループの削除 (71ページ)
- グループの詳細 (71ページ)
- [グループの詳細] ウィンドウのタスク (74 ページ)
- スタティック グループでのデバイスの追加と削除 (74ページ)
- グループでのソフトウェアエンタイトルメントの追加と削除(75ページ)
- グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期(75ページ)
- グループでのパッチエンタイトルメントの追加と削除(76ページ)
- グループへのパッチの配布 (76ページ)

グループの作成

スタティック グループを作成するには

 [新しいグループの作成] 2 ツールバー ボタンをクリックして、[新しいス タティック グループの作成] を選択します。グループ作成ウィザードが起動 します。グループは、管理対象デバイスおよび管理対象ではないデバイスの 両方を作成できます。

165 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の 新しいスタティック デバイス グループを作成します。

ダイナミック探索グループを作成するには

[新しいグループの作成] ジールバーボタンをクリックして、[新しいダイナミック探索グループの作成] を選択します。グループ作成ウィザードが起動します。

165ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいダイナミック探索グループを作成します。

管理エージェントのグループへの配布

エージェント配布ウィザードを使用して、エージェントをグループに配布します。

デバイスのグループに管理エージェントを配布するには

- 最初のカラムのチェックボックスをオンにして、管理するグループ、また は管理エージェントを配布するグループを選択します。
- 2 [管理エージェントの配布] 望 ツールバー ボタンをクリックして、エージェン ト配布ウィザードを起動します。
- 3 159 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループに管理エージェントを配布します。
 - 管理エージェントの配布には、デバイスの認証情報(管理者権限を持 つユーザー名およびパスワード)が必要です。エージェントをグルー プに配布するには、そのグループ内の全デバイスが、同じ認証情報を 共有している必要があります。

管理エージェントは、シンクライアントデバイスヘリモートで配布できません。CCMメディアの¥ThinClientディレクトリにあるインストールプログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

管理エージェントのグループからの削除

エージェント削除ウィザードを使用して、デバイスのグループからエージェント を削除します。

デバイスのグループから管理エージェントを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、エージェントを削除する グループを選択します。
- 2 [管理エージェントの削除] ² ツールバー ボタンをクリックして、エージェン ト削除ウィザードを起動します。
- 3 160 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループ内の全デバイス から管理エージェントを削除します。

グループに対するソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、デバイスのグ ループに対してインベントリを探索します。

デバイスのグループに対してソフトウェア/ハードウェア インベントリを探索す るには

- 1 最初のカラムのチェックボックスをオンにして、インベントリを探索する グループを選択します。
- [インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタンをクリックして、[ソフトウェ ア/ハードウェア インベントリの探索] を選択し、ソフトウェア/ハードウェ アインベントリ ウィザードを起動します。
- 3 161 ページのウィザードの手順に従って、選択した各グループ内のデバイス についてインベントリを探索します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するインベントリレポートを表示します。

グループに対するパッチ適合性の探索

パッチ適合性探索ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してパッチ適 合性を探索します。

デバイスのグループに対してパッチ適合性を探索するには

- 最初のカラムのチェックボックスをオンにして、パッチ適合性の探索の対象とするグループを選択します。
- [インベントリの収集] 2 ツールバー ボタンをクリックして、[パッチ適合 性の探索] を選択し、パッチ適合性探索ウィザードを起動します。
- 3 162ページのウィザードの手順に従って、選択したグループ内のデバイスについてパッチ適合性を探索し、強制します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するパッチ適合性レポートを表示します。

グループに対するアプリケーション利用状況データの探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、CCM データベース内の デバイスについてアプリケーション利用状況を探索します。ウィザードは、収集 エージェントをインストールします。収集エージェントは、作成し有効にした フィルタが指定する利用状況のデータを返します。さらに、必要な場合には、プ ライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。詳細は、149 ページの[設定] タブの「レポート」セクションを参照してください。

アプリケーション利用状況データを収集するには、Premium レベルのラ イセンスが必要です。

アプリケーション利用状況を探索するには

- 1 最初のカラムのチェックボックスをオンにして、アプリケーション利用状 況探索の対象とするグループを選択します。
- 2 [インベントリの収集] 4/2 ツールバー ボタンをクリックして、[アプリケーション利用状況の探索] を選択し、アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。
- 3 162 ページのウィザードの手順に従って、選択したグループについてアプリ ケーション利用状況を探索します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したグループに関する利用状況レポートを 表示します。

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電 源管理ウィザードを使用します。

 管理するグループを選択して、[電源管理] (1) ツールバー ボタンをクリックし、 電源管理ウィザードを起動します。

163ページのウィザードの手順に従って、選択したグループに対して電源管理ジョブを作成します。

グループの削除

[グループ] ツールバーを使用して、CCM からグループを削除します。

CCM からグループを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するグループを選択 します。
- 2 [グループの削除] ³ ツールバー ボタンをクリックして、CCM からグルー プを削除します。

グループの詳細

グループ名をクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。このウィン ドウには、選択したグループに基づく設定モデルが表示されます。

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、グループのプロパティの表示、デバイ スのメンバーシップの表示と変更、エンタイトルメントの表示または変更、レ ポートの要約の表示、またはグループ管理ジョブの作成を行います。次の領域が 利用可能です。

図5 [グループの詳細] ウィンドウ



一般

[一般] タブは、グループに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定 タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブは、グループの名前およびタイプを表示します。

グループ タイプ

スタティック:[グループの詳細]の[デバイス] セクションを使用して、手動 でデバイスのメンバーシップを更新します。

レポートおよび探索:グループメンバーシップを更新するには、[現在のジョブ] タブのジョブ制御を使用して、探索ジョブを実行します。

内部:グループメンバーシップは変更できません。

[保存]をクリックして、変更をコミットします。
デバイス

[デバイス] タブに表示されたデバイスは、そのグループの現在のメンバーです。

- スタティック グループのデバイス メンバーシップは手動で編集する必要が あります。
- [現在のジョブ] タブのジョブ コントロールを使用して、ダイナミック レ ポートまたは探索グループのメンバーシップ リフレッシュ スケジュールを 変更します。

OS

[OS] タブに表示されたオペレーティング システムのイメージは、グループにエン タイトルメントが設定されています。ツールバー ボタンを使用して、グループ 固有の OS エンタイトルメント設定および配布のタスクを完了します。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブに表示されたソフトウェアは、グループにエンタイトルメン トが設定されています。ソフトウェア エンタイトルメントの追加または削除は、 既存のデバイス メンバーすべておよび将来グループに追加されるデバイスに影 響します。

ツールバーボタンを使用して、エンタイトルメントの追加や削除、ソフトウェ アの同期、またはグループのデバイスでのソフトウェアの配布や削除を行います。

ソフトウェア エンタイトルメントを削除しても、グループ内のデバイ スからソフトウェアが自動的に削除されることはありません。ソフト ウェアを削除するには、ターゲット デバイスを選択し、[ソフトウェ アの削除] ボタンを使用します。ソフトウェアの削除後、エンタイト ルメントを削除することで、そのソフトウェアを使用できないように できます。

パッチ

[パッチ] タブには、グループに対してエンタイトルメントを持っているすべての パッチが表示されます。

ツールバーボタンを使用して、グループに対するパッチエンタイトルメントの 追加や削除、またはグループのデバイスへのパッチの配布を行います。



パッチは、配布されたらデバイスから削除できません。

レポート

[レポート] タブでは、グループ別のレポートの要約が表示されます。詳細なレ ポートを表示するには、メイン CCM コンソールの [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] タブには、そのグループについて現在アクティブなジョブ、また はスケジュールされているジョブがすべて表示されます。ツールバー ボタンを 使用して、利用可能なジョブを管理します。

[グループの詳細] ウィンドウのタスク

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、次のタスクを完了します。

- スタティック グループでのデバイスの追加と削除 (74ページ)
- グループでのソフトウェアエンタイトルメントの追加と削除(75ページ)
- グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 (75 ページ)
- グループでのパッチエンタイトルメントの追加と削除(76ページ)
- グループへのパッチの配布 (76ページ)

スタティック グループでのデバイスの追加と削除

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、スタティック グループのメンバー シップを更新します。

スタティック グループにデバイスを追加するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイスの追加] 鬹 をクリックします。
- 3 開いたウィンドウで、グループに含めるデバイスを選択して、[**デバイスの** 追加]をクリックします。

スタティック グループからデバイスを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**[デバイス]** タブをクリックします。
- 2 そのグループから削除するデバイスを選択して、[**デバイスの削除**]

 響をクリックします。

グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除

グループのデバイスに対してソフトウェアのエンタイトルメントを追加または削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにソフトウェアのエンタイトルメントを設定するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 [エンタイトルメントの追加] 認 をクリックします。[ソフトウェア エンタ イトルメント] ウィンドウが開きます。
- 3 グループにエンタイトルメントを設定するソフトウェアを選択して、[エン タイトルメントの追加]をクリックします。

グループからソフトウェアのエンタイトルメントを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- そのグループに対するエンタイトルメントを削除するソフトウェアを選択して、[エンタイトルメントの削除] 10

グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期

グループのデバイスに対してソフトウェアを配布、削除または同期するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにソフトウェアを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 配布するソフトウェアを選択して、[**ソフトウェアの配布**] ⁽¹⁾ ツールバー ボ タンをクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスにソフトウェアを配布するには、169ページ のウィザード「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従います。

グループからソフトウェアを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- グループ内の管理対象デバイスから削除するソフトウェアを選択して、[ソ フトウェアの削除] シッールバーボタンをクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除するには、174 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」の手順に従います。

ソフトウェアを同期するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 [ソフトウェアの同期] ツールバーボタンをクリックして、ソフトウェア同期ウィザードを起動します。エンタイトルメントが設定された全ソフトウェアがグループのメンバーにインストールされ、新しいグループメンバーはエンタイトルメントを設定したソフトウェアを受け取ります。
- 3 171 ページのウィザードの手順に従って、そのグループのソフトウェア同期 スケジュールを設定します。

グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除

グループのデバイスに対してパッチのエンタイトルメントを追加または削除する には、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループに対しパッチのエンタイトルメントを設定するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- [エンタイトルメントの追加] ¹ ツールバー ボタンをクリックします。
 [パッチ エンタイトルメント] ウィンドウが開きます。
- 3 グループにエンタイトルメントを設定するパッチを選択して、[エンタイト ルメントの追加] をクリックします。

エンタイトルメントを設定していないパッチだけが、[パッチエン タイトルメント] ウィンドウに表示されます。エンタイトルメント がすでに設定されたパッチは表示されません。

グループからパッチ エンタイトルメントを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- エンタイトルメントを削除するパッチを選択して、[エンタイトルメントの 削除] 10 ツールバー ボタンをクリックします。

グループへのパッチの配布

グループのデバイスにパッチを配布するには、[グループの詳細] ウィンドウを使 用します。

グループにパッチを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 配布するパッチを選択して、[パッチの配布] や ツールバー ボタンをクリックします。パッチ配布ウィザードが開きます。
- 3 172 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスに パッチを配布します。



現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなグループ管理ジョブまたはスケジュールされた グループ管理ジョブをすべて表示します。グループ管理ジョブは、特定のグルー プを対象にし、そのグループのデバイスに配布されたソフトウェアの管理、およ び作成したダイナミックレポートまたは探索グループのデバイスのリフレッ シュを行います。

カラムの見出しをクリックしてソート順を変更したり、表の上部にあるナビゲー ション ボタンを使用して特定のセクションへジャンプしたりできます。

ジョブ コントロールおよび ジョブ ステータスに関する詳細は、111 ページの「 現在のジョブ」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したグループ管理ジョブをすべて表示します。ジョブの ステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。



ソフトウェア管理

ソフトウェア サービスおよびソフトウェア管理ジョブを管理するには、[ソフト ウェア管理] セクションを使用します。ソフトウェアは、管理対象デバイスのグ ループにエンタイトルメントが設定されてから、CCM を使用して管理者によっ て配布されるか、Application Self-Service Manager を使用してエンド ユー ザーによってインストールされます。

ソフトウェア管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- 一般(78ページ)
- ソフトウェア (79ページ)
- 現在のジョブ (86 ページ)
- 過去のジョブ (86 ページ)

ソフトウェアを配布するには、Premium レベルのライセンスが必要です。 Basic ライセンスでは、BIOS 設定および HP Softpaq の配布だけが可能 です。

一般

[一般] タブを使用して、ソフトウェアのパブリッシュ、管理対象デバイスへのソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布、現在および過去のソフトウェア管理ジョブの表示、ソフトウェアの詳細およびレポートの要約の表示の方法を 学びます。

[要約] セクションには、CCM データベースで現在利用可能なソフトウェア サー ビスの数および現在のソフトウェア管理ジョブの数が表示されます。

ソフトウェアをパブリッシュするには

 Publisher を使用して、ソフトウェアを CCM にパブリッシュします。パブ リッシュされたソフトウェアは、ソフトウェア ライブラリに表示されます。

ソフトウェア サービスの選択および設定を行う側のマシンに Publisher を インストールします。インストールの指示については、36 ページの 「Publisher のインストール」を参照してください。ソフトウェアを CCM にパブリッシュする方法の詳細は、「第9章、Publisherの使用」を参照してください。

ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 [共通のタスク] 領域で [**配布**] をクリックします。ソフトウェア配布ウィ ザードが起動します。
- 2 169ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェア のエンタイトルメント設定および配布を行います。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブには、CCM にパブリッシュされたソフトウェアがすべて表示されます。

付属のツールを使用して、ソフトウェアデータのリフレッシュ、管理対象デバ イスへのソフトウェアの配布、またはライブラリからのソフトウェアの削除を行 います。また、ソフトウェアをソフトウェア ライブラリからインポートしたり、 ソフトウェア ライブラリへエクスポートしたりできます。

CCM には、デフォルトで以下のソフトウェア サービスがあります。

- CCM_Publisher -<Bkmk Name=SoftwareOS_Publisher>CM Administrator Publisher</Bkmk=SoftwareOS_Publisher>. Publisher の別 のインストール方法。このサービスを使用して、ソフトウェアの取得および パブリッシュ、OS イメージ、BIOS 設定、または HP Softpaq のパブリッ シュを行う元のデバイスへ Publisher を配布します。
- CCM_TPM_ENABLEMENT-TPM Enablement.このサービスは、[設定] タ ブの [ハードウェア管理] セクションで設定した内容を使用して、互換性の ある HP デバイスの TPM チップの使用および所有権を初期化します。設定 オプションについては、148ページの「TPM の設定」を参照してください。 このサービスをインストールすると、以下のタスクが実行されます。
 - BIOS での TPM チップの有効化
 - ― 指定された BIOS 管理者パスワードの設定
 - TPM の所有権および所有者のパスワードのセットアップ
 - ― 緊急復旧トークンおよびパスの初期化
 - パスワードリセットトークンとパス、およびバックアップアーカイブ パスの設定

TPM Enablement サービスが配布された後、デバイスは、ユーザー レベル の初期化を実行できます(初期化は、エンド ユーザーが **HP ProtectTools Security Manager** インターフェイスを使用して行います)。

TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要 があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプ レインストールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロー ドまたは購入する必要があります。詳細は、ご使用のデバイス モ デルの HP ドキュメントを参照してください。

- CCM_SMM Settings Migration Manager。このサービスは、個々のデバ イスのユーザー設定のバックアップおよび復元を可能にする、Settings Migration Manager Utility をインストールします。Settings Migration Manager の使用法の詳細については、251 ページの「Settings Migration」 を参照してください。
- これらのデフォルトのサービスは、ソフトウェア ライブラリから削除で きません。

ツールバー ボタン	説明
8	データのリフレッシュ ー ソフトウェア ライブラリのリフレッ シュ
٩	ソフトウェアの配布 - ソフトウェア配布ウィザードの起動
5	グループ エンタイトルメントの追加 - サービス エンタイトル メント ウィザードの起動
	サービスのインポート – サービス インポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート - サービス エクスポート ウィザード の起動
*	ソフトウェアの削除 - ライブラリからのソフトウェアの削除

表4 [ソフトウェア] ツールバーのタスク

以下のタスクが [ソフトウェア] タブから実行できます。

- ソフトウェアの配布 (81ページ)
- グループエンタイトルメントの追加(81ページ)

- サービスのインポート (81ページ)
- サービスのエクスポート (82ページ)
- CCM からのソフトウェアの削除 (82 ページ)
- ソフトウェアの詳細(83ページ)

ソフトウェアの配布

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、ソフトウェアをグループまたはデバイ スに配布します。

ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 配布するソフトウェアを選択して、[ソフトウェアの配布] (シールバーボ タンをクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。
- 2 169ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行います。

グループ エンタイトルメントの追加

ライブラリで利用可能なソフトウェアは、デバイスのグループにエンタイトル メントを設定できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ エンタイトル メントを追加するソフトウェアを選択します。
- 2 [グループ エンタイトルメントの追加] ¹ ツールバー ボタンをクリックして、 サービス エンタイトルメント ウィザードを起動します。
- 3 173ページのウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイ スのグループに、選択したソフトウェアのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

CCM は、ソフトウェア サービスをソフトウェア ライブラリにインポートでき ます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、**CCM** サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります(デフォル トでは C:¥Novadigm¥ChangeControl)。 テスト環境を構築してある場合、サービスのインポートは便利です。テスト環境 で特定のサービスを承認したら、CCM プロダクション サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、 サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環 境のソフトウェア ライブラリにインポートして、ソフトウェアを管理対象デバ イスに配布します。

サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]** *(* ツールバー ボタンをクリックして、サービス インポート ウィザードを起動します。
- 2 170ページのウィザードの手順に従って、サービスをソフトウェア ライブ ラリにインポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされたソフトウェア サービスは、CCM サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされた サービスは、(たとえば、テスト環境内の)他の CCM サーバー ライブラリへ のインポートに利用できます。

サービスをエクスポートするには

- 最初のカラムのチェックボックスをオンにして、サービスとしてエクス ポートするソフトウェアを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]** 🚰 ツールバー ボタンをクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。
- 3 170 ページのウィザードの手順に従って、そのサービスを CCM サーバーマ シンの ChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

CCM からのソフトウェアの削除

CCM データベースからソフトウェアを削除するには、[ソフトウェア] ツール バーを使用します。

ソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するには

- 1 削除するソフトウェアを選択します。
- 2 [**ソフトウェアの削除**] ³ ツールバー ボタンをクリックします。

ソフトウェアの詳細

ソフトウェア名をクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェア サービス プロパティ の表示、エンタイトルメントの表示や変更、ソフトウェアの配布や削除、または レポートの要約の表示を行います。

図6 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウ

ンフトウェアの言葉社	?
OpenView Settings Migration Manager	_
→数 ブロパティ グルーブ デバイス レポート	
情報	I
レントウェアの詳細 ウィンドウで、ソフトウェアのブロバティやエンタイトルメントの表示や変更、グループや管理対象デバイスへのソフトウェア の配布が可能です。	
共通のタスク	I
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
 ソフトウェアの配布 シロトウェアの一切りました。 	
 ・ グループ エンタイトルメントの表示/編集 	
 デバイス エンタイトルメントの表示 レポートの要約の表示 	
要約	I.
 エンタイトルメントを持っているグループ:1 	
• エノダイトルメントを持っているナハイス:4	

一般

[一般] タブは、ソフトウェアに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の 設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、カタログ グループや管理機能など、ソフトウェアの詳細を変更します。

ソフトウェア カテゴリ

ソフトウェアのカテゴリを入力します。ソフトウェア カテゴリは、ソフト ウェア ライブラリに表示され、ソート オプションとして利用できます。

 カタログの表示
 管理対象デバイスのカタログにこのソフトウェアを表示するかどうかを選択します。カタログにソフトウェアを表示すると、エンドユーザーは、その ソフトウェアをインストールまたは削除できます。 再起動の設定

ソフトウェアがインストールされた後、管理対象デバイスを再起動するかど うか、およびエンドユーザーに確認するかどうかを選択します。

- インストール コマンド ライン
 ソフトウェアがデバイスに配布された後に実行するコマンド。
- アンインストール コマンド ライン
 ソフトウェアがデバイスから削除された後に実行するコマンド。



グループ

[グループ] タブには、選択されたソフトウェアについてエンタイトルメントが設定されているグループがすべて表示されます。ツールバーボタンを使用して、 各グループ内の管理対象デバイスにおけるソフトウェアのエンタイトルメントまたはインストール状態を変更します。

- 追加のグループにエンタイトルメントを設定するには、[ソフトウェア エン タイトルメントの追加] 20 ツールバー ボタンをクリックします。
- グループからエンタイトルメントを削除するには、[ソフトウェア エンタイトルメントの削除] 10 ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、選択したソフトウェアを配布するには、グループを選択し、
 [ソフトウェアの配布] ジ ツールバー ボタンをクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。169 ページのウィザードの手順に従って、
 選択したソフトウェアを配布します。
- 特定のグループからソフトウェアを削除するには、最初にグループを選択し、
 [ソフトウェアの削除] ジッールバーボタンをクリックします。ソフトウェア削除ウィザードが起動します。174ページのウィザードの手順に従って、
 グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除します。
- デバイスのグループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、最初にグループを選択して、[インベントリの収集] シールバーボタンをクリックし、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]を選択します。ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードが起動します。161 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのグループのパッチ適合性の探索と強制を行うには、グループを選択して、[インベントリの収集] 望 ツールバー ボタンをクリックし、[パッチ適合性の探索と強制] を選択します。パッチ適合性探索ウィザードが起動

します。162ページのウィザードの手順に従って、パッチ適合性の探索と強 制を行います。

- デバイスのグループのアプリケーション利用状況の探索を行うには、グループを選択して、[インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタンをクリックし、 [アプリケーション利用状況の探索] を選択します。アプリケーション利用状況収集ウィザードが起動します。162 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスのグループの電源をオン、オフ、または再起動するには、グループ を選択して、[電源管理] ④ ツールバーボタンをクリックします。電源管理 ウィザードが起動します。163ページのウィザードの手順に従って、デバイ スを管理します。

デバイス

[デバイス] タブには、選択されたソフトウェアについてエンタイトルメントが設 定されているデバイスがすべて表示されます。リストの一番上のツールバーを使 用して、特定のデバイスでソフトウェアを配布または削除します。

- 特定のデバイスに、選択したソフトウェアを配布するには、デバイスを選択し、
 [ソフトウェアの配布] ジ ツールバー ボタンをクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。169 ページのウィザードの手順に従って、
 選択したソフトウェアを配布します。
- 特定のデバイスからソフトウェアを削除するには、最初にデバイスを選択し、
 [ソフトウェアの削除] ジャールバーボタンをクリックします。ソフトウェア削除ウィザードが起動します。174ページのウィザードの手順に従って、
 グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除します。
- デバイスのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、 最初にデバイスを選択して、[インベントリの収集] 望 ツールバー ボタンを クリックし、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索] を選択します。 ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードが起動します。161 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのパッチ適合性の探索と強制を行うには、デバイスを選択して、
 [インベントリの収集] 望 ツールバー ボタンをクリックし、[パッチ適合性の 探索と強制]を選択します。パッチ適合性探索ウィザードが起動します。162 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適合性の探索と強制を行います。
- デバイスのアプリケーション利用状況の探索を行うには、デバイスを選択して、 [インベントリの収集] 望 ツールバー ボタンをクリックし、[アプリケーション

利用状況の探索]を選択します。アプリケーション利用状況収集ウィザードが 起動します。162ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利 用状況データを探索します。

デバイスの電源をオン、オフ、または再起動するには、デバイスを選択して、
 [電源管理] (1) ツールバーボタンをクリックします。電源管理ウィザードが起動します。163 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

レポート

[レポート] タブには、表示しているソフトウェアに固有のレポートの要約が表示 されます。詳細なレポートを表示するには、メイン CCM コンソールの [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ]は、現在アクティブなソフトウェア管理ジョブまたはスケジュー ルされたソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。CCM データベースの管 理対象デバイスで、ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布または削 除するには、ソフトウェア管理ジョブが使用されます。

カラムの見出しをクリックしてソート順を変更したり、表の上部にあるナビゲー ション ボタンを使用して特定のセクションへジャンプしたりできます。

ジョブ コントロールおよび ジョブ ステータスに関する詳細は、111 ページの「 現在のジョブ」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビ ゲーションボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。



パッチ管理

パッチ、HP Softpaq およびパッチ管理ジョブを管理するには、[パッチ管理] 領 域を使用します。

取得したパッチと HP Softpaq は、管理対象デバイスのグループにエンタイトル メントが設定され、CCM を使用して、管理者によって配布されます。また、エン タイトルメントを設定したパッチと Softpaq は、設定した適合性スケジュール に基づいて、自動的に配布されます。141 ページの「パッチ管理 – 設定」を参 照してください。Publisher を使用してパブリッシュされた Softpaq は、ソフト ウェア ライブラリに格納されています。一方、取得した Softpaq はパッチ ライ ブラリに格納されています。

パッチ管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- 一般 (89ページ)
- パッチ (90 ページ)
- 現在のジョブ (95 ページ)
- 過去のジョブ (96 ページ)

Microsoft パッチ管理には Premium レベルのライセンスが必要です。

Microsoft Update Catalog: OS とサービス パックの最低要件

CCM のパッチ管理で利用する Microsoft Update Catalog および Windows Update テクノロジに必要な OS とサービスパックの最低要件については、 Microsoft の Web サイトを参照してください。このマニュアルを作成している 時点で、サポートされる OS のバージョンおよび言語は、以下の Microsoft Update ホームページのリンクで確認できます。

http://update.microsoft.com/microsoftupdate/v6/default.aspx

より新しいセキュリティ パッチをインストールするために、新しい Microsoft セキュリティ パッチが必要なので、エージェント マシンに Windows インストーラー バージョン 3.1 が必要です。

Microsoft 自動更新に関する重要な情報

自動更新は、Windows の機能で、必要なパッチをユーザーがスキャンできます。 自動更新は、パッチのダウンロードおよびインストールも行えます。この機能では、 現在、以下の設定オプションが使用できます。

- 1 更新を自動的にダウンロードするが、インストールは手動で実行する。
- 2 更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない。
- 3 自動更新を無効にする。

自動更新と CCM パッチ管理は、基本の Windows コンポーネント、Windows Update Agent (WUA) を使用してデバイスをスキャンし、更新をインストール します。WUA が別のパッチ管理製品によって使用中になる問題を回避するには、 パッチ管理を使用するときに自動更新を以下のように設定して更新を配布および インストールします。Microsoft は、この問題を修正する予定です。

[自動更新を無効にする]オプションを使用することをお勧めします。

これらのオプションに関連する影響を理解してください。

自動更新を[更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストール を実行しない]に設定する場合、エージェントが更新をスキャンおよびインス トールしている間、ユーザーは自動更新のダウンロードプロセスを開始できま せん。自動更新プロセスが手動で開始されると、管理対象デバイスで更新のダ ウンロードとインストールに失敗することがあります。この動作はパッチ管理 特有のものではありません。別のパッチ管理製品が WUA を使用しようとして、 WUA がすでに使用中だった場合も同様です。このマニュアルを作成している時 点で、関連する Microsoft サポート情報の記事は以下のとおりです。

- Microsoft KB 記事 910748、http://support.microsoft.com/kb/910748
- Microsoft KB 記事 931127、http://support.microsoft.com/kb/931127
- ウィルス スキャナをインストールして有効にしている場合は、「Microsoft KB 記事 922358」を参照してください。この記事では、ウイルス スキャン で %Windir%¥SoftwareDistribution フォルダを除外する必要があることを 説明しています。Microsoft のこのドキュメントは特定の Microsoft パッチ 管理テクノロジに言及していますが、Windows Update Agent の同じ制限 事項が、Windows Update Agent テクノロジを利用する CCM パッチ管理を 使用している企業にも該当します。Microsoft KB 記事 922358、 http://support.microsoft.com/kb/922358 を確認してください。
- 自動更新を[自動更新を無効にする]に設定する場合、CCM は自動更新がサポートする製品をサポートしないので、使用可能な更新がまったく通知されないことがあります。

WUA は、Windows の自動更新サービスを使用します。これは、ターゲット デバイスで [自動] または [手動] に設定する必要があります。自動更新は、必要に応じて WUA によって起動されるまで停止状態です。

自動更新の詳細については、次の Microsoft の記事を参照してください。

「Windows XP での自動更新の構成方法および使用方法」このマニュアルを作 成している時点で、URL は http://support.microsoft.com/kb/306525 です。

「Windows 2000 で自動更新を設定する方法と使用する方法」このマニュアルを 作成している時点で、URL は http://support.microsoft.com/kb/327850/です。

一般

[一般] タブを使用して、パッチの取得および配布、現在のおよび完了したパッチ管 理ジョブの表示、およびパッチ適合性の詳細とレポートの要約の表示を行います。

[要約] セクションでは、CCM データベースで現在利用可能なパッチの数および 現在のパッチ管理ジョブの数が表示されます。

パッチおよび Softpaq は、[設定] セクションで入力した情報に基づいて、HP および Microsoft から取得します。詳細については、141ページの「パッチ管理 – 設定」 を参照してください。

パッチを取得するには

- 1 [共通のタスク] 領域で **[取得]** をクリックします。
- パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。CCM は、 設定した取得スケジュールに従って、追加のパッチを自動的にダウンロード します。

パッチは、CCM コンソールからのみ管理対象デバイスに配布されます。 パッチは、Application Self-Service Manager のソフトウェア カタログでは 利用できません。

パッチを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で、[パッチの配布] をクリックして、パッチ配布ウィ ザードを起動します。
- 2 172ページの説明にあるように、ウィザードの手順に従って、選択したグ ループのデバイスにパッチを配布します。

パッチ ライブラリに示されたパッチは、管理対象デバイスに対してエンタイト ルメントの設定や配布が可能です。ライブラリには、[設定] タブの [パッチ管理] セクションで設定した取得設定に基づいて取得された、パッチおよび Softpaq が格納されています。

表5 [パッチ ライブラリ] ツールバーのタスク

ツール バー ボ タン	説明
3	データのリフレッシュ - パッチ ライブラリのリフレッシュ
4	パッチの配布 – パッチ配布ウィザードの起動
1	グループ エンタイトルメントの追加 - サービス エンタイトルメ ント ウィザードの起動
	サービスのインポート - サービス インポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート – サービス エクスポート ウィザードの 起動

以下のタスクが [パッチ] タブから実行できます。

- パッチの配布 (90 ページ)
- グループエンタイトルメントの追加(91ページ)
- サービスのインポート (91ページ)
- サービスのエクスポート (92ページ)
- パッチの詳細 (92 ページ)

パッチの配布

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、管理対象デバイスに配布できます。

パッチを配布するには

1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、配布するパッチを選択します。

- 2 [パッチの配布] ⁴ ツールバー ボタンをクリックして、パッチ配布ウィザード を起動します。
- 3 172 ページの説明にあるように、ウィザードの手順に従って、管理対象デバ イスにパッチを配布します。

グループ エンタイトルメントの追加

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、デバイスのグループにエンタイトル メントを設定できます。エンタイトルメントにより、パッチ配布ウィザードで設 定したスケジュールを使用して、パッチ適合性を強制できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを選択して、グループ エンタイトルメン ト用のパッチを選択します。
- [グループ エンタイトルメントの追加] 2 ツールバー ボタンをクリックして、 サービス エンタイトルメント ウィザードを起動します。
- 3 173 ページのウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバ イスのグループに、選択したパッチのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

CCM は、パッチ サービスをパッチ ライブラリにインポートできます。サービ スをインポートするには、サービス インポート デッキが、**CCM** サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります(デフォルトでは C:¥Novadigm¥ChangeControl)。

テスト環境を構築してある場合、サービスのインポートは便利です。テスト環境 で特定のサービスを承認したら、CCM プロダクション サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、 サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション パッチ ライブラリにインポートし、パッチを管理対象デバイスに配布します。

サービスをインポートするには

1 **[サービスのインポート] 2** ツールバー ボタンをクリックして、サービス インポート ウィザードを起動します。 2 170ページのウィザードの手順に従って、サービスをパッチ ライブラリに インポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされたパッチ サービスは、CCM サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たと えば、テスト環境内の)他の CCM サーバー ライブラリへのインポートに利用で きます。

サービスをエクスポートするには

- 最初のカラムのチェックボックスをオンにして、サービスとしてエクス ポートするパッチを選択します。
- [サービスのエクスポート] 2 ツールバー ボタンをクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。
- 3 170 ページのウィザードの手順に従って、そのサービスを CCM サーバーマ シンの ChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

パッチの詳細

パッチの説明をクリックして、[パッチの詳細] ウィンドウを開きます。[パッチ の詳細] ウィンドウを使用して、パッチ サービスのプロパティの表示、エンタイ トルメントの表示および変更、またはレポートの要約の表示を行います。次の領 域が利用可能です。

図7 [パッチの詳細] ウィンドウ

パッチの詳細		
MS06-002 - Windows Security Updates (KB908519)	-	
一般 プロパティ) グループ) デバイス) レポート		
情報	• [
このパッチの配布、パッチ エンタイトルメントの表示や変更を行うには、[パッチの詳細] ウィンドウを使用してください。		
共通のタスク	4	
管理		
 バッチのブロバティの表示 グループ エンタイトルメントの表示/編集 		
 デバイスエンタイトルメントの表示 		
■ レポートの要約の表示		
要約		
管理		
■ エンタイトルメントを持っているグループ:0		
● エンタイトルメントを持っているデバイス:0		

一般

[一般] タブは、そのパッチ サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。 その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブには、ブリテン番号、ブリテンの説明とタイプ、公開日と改訂日、 およびベンダー情報のリンクが表示されます。

グループ

[グループ] タブには、選択されたパッチについてエンタイトルメントが設定されて いるグループがすべて表示されます。ツールバーボタンを使用して、各グループ 内の管理対象デバイスでパッチのエンタイトルメントまたはインストール状態を変 更します。

- 追加のグループにエンタイトルメントを設定するには、[グループエンタイトルメントの追加] 20 ツールバーのボタンをクリックします。
- グループからエンタイトルメントを削除するには、[グループ エンタイトル メントの削除] 10 ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、選択したパッチを配布するには、グループを選択し、
 [パッチの配布] ¹ ツールバーボタンをクリックします。パッチ配布ウィ

ザードが起動します。172ページのウィザードの手順に従って、選択した パッチを配布します。

- デバイスのグループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、最初にグループを選択して、[インベントリの収集] ペシールバーボタンをクリックし、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]を選択します。ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードが起動します。161 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのグループのパッチ適合性の探索と強制を行うには、グループを選択して、[インベントリの収集] 望 ツールバー ボタンをクリックし、[パッチ適合性の探索と強制]を選択します。パッチ適合性探索ウィザードが起動します。162ページのウィザードの手順に従って、パッチ適合性の探索と強制を行います。
- デバイスのグループのアプリケーション利用状況の探索を行うには、グループを選択して、[インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタンをクリックし、 [アプリケーション利用状況の探索] を選択します。アプリケーション利用状況収集ウィザードが起動します。162 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスのグループの電源をオン、オフ、または再起動するには、グループ を選択して、[電源管理] ③ ツールバー ボタンをクリックします。電源管理 ウィザードが起動します。163 ページのウィザードの手順に従って、デバイ スを管理します。

デバイス

[デバイス] タブに表示されるデバイスは、選択したパッチに対してエンタイトル メントが設定されています。ツールバーボタンを使用して、特定のデバイスに パッチを配布します。

特定のデバイスに、選択したパッチを配布するには、デバイスを選択し、
 [パッチの配布] ひールバーボタンをクリックします。パッチ配布ウィザードが起動します。172 ページのウィザードの手順に従って、選択したソフトウェアを配布します。



パッチは、配布されたら削除できません。

 デバイスのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、 最初にデバイスを選択して、[インベントリの収集] 望 ツールバー ボタンを クリックし、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索] を選択します。 ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードが起動します。161 ページのウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェアイン ベントリを探索します。

- デバイスのパッチ適合性の探索と強制を行うには、デバイスを選択して、 [インベントリの収集] 望 ツールバー ボタンをクリックし、[パッチ適合性の探索と強制]を選択します。パッチ適合性探索ウィザードが起動します。 162 ページのウィザードの手順に従って、パッチ適合性の探索と強制を行います。
- デバイスのアプリケーション利用状況の探索を行うには、デバイスを選択して、 [インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタンをクリックし、[アプリケーション利用状況の探索] を選択します。アプリケーション利用状況収集ウィザードが起動します。162 ページのウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。
- デバイスの電源をオン、オフ、または再起動するには、デバイスを選択して、
 [電源管理] (1) ツールバーボタンをクリックします。電源管理ウィザードが起動します。163 ページのウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

レポート

[レポート] タブには、表示しているパッチに固有のレポートの要約が表示されます。 詳細なレポートを表示するには、メイン CCM コンソールの [レポート] タブを 使用します。

現在のジョブ

環境内のデバイスにセキュリティ パッチを配布するため、パッチ管理ジョブが 使用されています。[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされた ジョブのリストを表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、 ジョブの説明をクリックしてください。

ツールバーを使用して、現在スケジュールされているジョブまたはアクティブな ジョブを管理します。

ジョブ コントロールおよび ジョブ ステータスに関する詳細は、111 ページの「 現在のジョブ」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したパッチ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのス テータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

完了したジョブは完了の1分後に過去のジョブリストに移動されます。

OS 管理

[OS 管理] セクションを使用して、クライアント デバイスが使用するオペレー ティング システム (OS) を管理します。このセクションの領域で、OS の配布 やサービスのインポートとエクスポート、エンタイトルメント設定などのタスク を実行できます。

次のセクションでは、OS 管理の各タブについて説明します。

- 一般 (97 ページ)
- オペレーティングシステム (98ページ)
- 現在のジョブ (110ページ)
- 過去のジョブ (110ページ)

▶ CCM OS 管理には Premium レベルのライセンスが必要です。

一般

[一般] タブを使用して、オペレーティング システムのパブリッシュに関する情報の検索、オペレーティング システムの管理対象デバイスへのエンタイトルメント設定および配布、現在および過去の OS 管理ジョブの表示、およびオペレーティング システムの詳細やレポートの要約の表示を行います。

[要約] セクションでは、CCM データベースで現在利用可能なオペレーティング システム サービスの数および現在の OS 管理ジョブの数が表示されます。

OS イメージを取得してパブリッシュするには

OS イメージが OS ライブラリで利用可能になるには、OS イメージを CCM に パブリッシュする必要があります。Image Preparation Wizard を使用して OS イメージを取得し、Publisher を使用して CCM へパブリッシュします。

 Image Preparation Wizard を使用して、OS イメージの準備と取得を行い ます。イメージの準備および取得の詳細は、181ページの「OS イメージの 準備と取得」、または Image Preparation Wizard のオンライン ヘルプを参 照してください。 オペレーティング システム イメージを CCM にパブリッシュするには、 Publisher を使用します。パブリッシュされたオペレーティング システム サービスは、[オペレーティング システム] タブに表示されます。オペレー ティング システムのパブリッシュに関する詳細は、213 ページの 「Publisher の使用」、または Publisher のオンライン ヘルプを参照してくだ さい。

OS イメージを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で [配布] をクリックします。これで、OS 配布ウィザー ドが起動します。
- 2 176ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへオペレーティングシステムのエンタイトルメント設定および配布を行います。

ターゲット デバイスの要件や配布シナリオなど、オペレーティング システムの 配布に関する詳細は、99 ページの「オペレーティング システムの配布」を参照 してください。

オペレーティング システム

[オペレーティング システム] タブでは、CCM にパブリッシュされた利用可能な オペレーティング システムがすべて表示できます。

付属のツールを使用して、オペレーティング システム データのリフレッシュ、 管理対象デバイスへのオペレーティング システムの配布、またはライブラリか らのオペレーティング システムの削除を行います。また、オペレーティング シ ステム サービスをオペレーティング システム ライブラリからインポートしたり、 オペレーティング システム ライブラリへにクスポートしたりできます。

新しくパブリッシュされた(7日以内にパブリッシュされた)サービスは、説明 の右に、カッコ付きの新規作成という単語"(新規作成)"が表示され、識別が できます。

ツール バー ボ タン	説明
8	データのリフレッシュ - OS ライブラリのリフレッシュ
٨	オペレーティング システムの配布 – OS 配布ウィザードの起動

表 6 [OS ライブラリ] ツールバーのタスク

ツール バー ボ タン	説明
1	グループ エンタイトルメントの追加 - サービス エンタイトルメ ント ウィザードの起動
1	サービスのインポート - サービス インポート ウィザードの起動
	サービスのエクスポート - サービス エクスポート ウィザードの 起動
×	オペレーティング システムの削除 - オペレーティング システム のライブラリからの削除

以下のタスクが [オペレーティング システム] タブから実行できます。

- オペレーティングシステムの配布 (99ページ)
- ローカル サービスの起動(LSB: Local Service Boot)を使用した OS イ メージの配布 (104 ページ)
- PXE を使用した OS イメージの配布 (104 ページ)
- サービス CD を使用した OS イメージの配布 (105 ページ)
- グループエンタイトルメントの追加(106ページ)
- サービスのインポート (107 ページ)
- サービスのエクスポート (107 ページ)
- オペレーティングシステムのライブラリからの削除(107ページ)
- OS の詳細 (108 ページ)

オペレーティング システムの配布

オペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 配布するオペレーティング システムを選択して、[オペレーティング システムの配布]
 ツールバー ボタンをクリックします。OS 配布ウィザードが起動します。
- 2 176 ページのウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへオペレーティ ングシステムのエンタイトルメント設定および配布を行います。

オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。 配布モードを選択するには、145ページ、[設定] タブの [OS 管理] セクションを 参照してください。

配布シナリオおよび OS 配布のターゲット デバイス要件は、以下のセクション を参照してください。

配布シナリオ

お使いの環境のデバイスへのオペレーティング システムの配布は、いくつかの 要因により異なります。次の表は、複数の OS イメージ配布シナリオおよびデバ イスにオペレーティング システムを配布する手順を説明しています。

デバイスの状態	配布の手順
管理対象 (エージェントをインス トール済み)	 デバイスがすでに管理されている場合 デバイスをグループに追加 グループにオペレーティング システムのエンタイトルメン トを設定(エンタイトルメン ト設定がまだの場合) OS 配布ウィザードを使用して OS を配布 注意: OS 配布プロセスの間に LSB を使用する場合、PXE やサービス CD の準備は必要ありません。
非管理対象 (エージェントが未イン ストール)	非管理対象デバイスに OS がインス トールされている場合 ・ デバイスに管理エージェント を配布 ・ 上の管理対象デバイスに関す る手順を参照 非管理対象デバイスに OS がインス トールされて <i>いない</i> 場合 ・ OS がインストールされていな いデバイスへの OS の配布に ついては、下の手順を参照

表7 OS 配布シナリオ

配布の手順
 (ハードディスクの復旧など) デバ イスが以前管理されていた場合 グループメンバーシップおよ び OS エンタイトルメントが まだ有効です。PXE または サービス CD を使用して OS を配布 デバイスが以前管理されたことがない 場合 PXE またはサービス CD でデ バイスを起動 MAC アドレスの変化をデバイ ス名として使用し、デバイス が CCM に追加される 新しいデバイスを OS エンタ イトルメントを持つグループ に追加 注意: OS が全デバイス グループ にアタッチされている場合、OS は自動的にインストールされま す。複数の OS が全デバイスにア タッチされている場合、インス トールする OS を選択します。 デバイスが再起動され、サー ビス CD または PXE が OS の 配布を続けます。 注意: OS がインストールされて いないデバイスへの OS の配布に は、LSB は使用できません。

ターゲット デバイスの要件

ターゲット デバイスは、オペレーティング システムをインストール、置き換え、 または更新するワークステーションです。次の要件を満たす必要があります。

 Microsoft (Windows オペレーティング システムの場合)または CCM が配 布する OS の実行に関して、マシンのメーカーにより公表されているハード ウェアおよび BIOS の最低要件を満たす必要があります。

- ポリシー用に、マシンのモデル、メーカーおよび一意の識別子のレポートを 作成する場合、またはこれらを利用する場合、BIOS はシステム管理用の SMBIOS 仕様をサポートする必要があります。ターゲット デバイスが SMBIOS をサポートしていない場合、そのマシンでポリシーを指定するの に利用できる基準は MAC アドレスだけです。
- 英語、フランス語、またはドイツ語のキーボードを使用している。
- RAM が 128 MB 以上ある。
- ネットワーク (PXE) ブートを使用している場合、以下が必須です。
 - ブートサーバーから起動できる。このためには、ハードディスクの前に ネットワークから起動するように BIOS を設定しておく必要があります。
 - PXE をサポートするネットワーク インターフェイス カード(NIC) が ある。ネットワーク カードには PXE 対応のものがありますが、実際は、 ネットワーク ブート ROM を追加した PXE をサポートするだけです。 これらのカードに、ネットワーク ブート ROM が装備されている必要が あります。以前の 3Com カードには、ファームウェアの MBA 4.3 への アップグレードおよび PXE スタック バージョン 2.2 を必要とするもの があります。
 - Microsoft Sysprep を使用するには、ターゲット デバイスが、同じまた は互換性のある HAL (Hardware Abstract Layer) を参照マシンとし て装備していることを確認します。HAL.DLL のバージョンが同じマシ ンは、同じ HAL を共有しています。マシンの HAL の決定に関する詳 細は、次を参照してください。

http://support.microsoft.com/?kbid=237556

HAL.DLLをチェックできない場合、配布の成功を確認するため、テスト 環境でターゲット マシンにイメージを配布することを検討してください。

- IDE または SCSI (Adaptec のみ) ブート ドライブ インターフェイスを装備している必要があります。
- 参照マシンの ACPI 特性(HAL で表される ACPI と非 ACPI など)とブート ドライブ インターフェイスが一致する。
- 参照マシンで取得された HAL に示されている、プログラム可能割り込み コントローラの特性と互換性がある(高度なプログラム可能割り込みコント ローラ(APIC) HAL は APIC を持たないマシンでは動作しませんが、PIC (標準のオンボードプログラム可能割り込みコントローラ) HAL は、 APIC を持つマシンで動作します)。比較的新しい HP/Compaq コンピュー タは、多くの場合、APIC を備えています。
- NTFS および FAT32 ファイル システムをサポート。

- Windows XPe および CE のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュ ドライブを備えたターゲットマシンに配布できます。たとえば、256 MB のイメージは、256 MB または 512 MB のターゲット デバイスに配布できます。
- Embedded Linux のイメージは、サイズが同じフラッシュドライブを備えた ターゲットマシンにしか配布できません。たとえば、256 MB のイメージは、 256 MB のフラッシュドライブを装備したターゲットデバイスにしか配布 できません。
- OS イメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ディスクおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされます。次のシナリオは、イメージ配布プロセスで、影響を受けるパーティションと影響を受けないパーティションについて説明しています。
 - 2 つのパーティションを持つ1 台の HDD
 - ブートパーティションにはイメージが配布されます。2番目の パーティションは影響を受けません。
 - 1つのパーティションを持つ1台の HDD
 - ハードディスクにイメージが配布されます。既存のデータはすべて上書きされます。
 - 各1つのパーティションを持つ2台の HDD
 - 最初のハードディスクにイメージが配布されます。最初のハード ディスクの既存のデータはすべて上書きされます。2台目のハー ドディスクは影響を受けません。
 - 各2つのパーティションを持つ2台の HDD
 - 最初のハードディスクのブートパーティションにイメージが配布 されます。2番目のパーティションおよび2台目のハードディス クは影響を受けません。

シン クライアントの出荷イメージの配布

サポートされているシン クライアントのオペレーティング システム、Windows XP Embedded (XPe)、Windows CE、または Embedded Linux の出荷イメー ジを配布する場合、以下の点に注意します。

 イメージがデバイスに配布された後、デバイスの管理を始めるために管理 エージェントをインストールする必要があります。インストール方法につい ては、39ページの「シンクライアントでの管理エージェントのインス トール」製品マニュアルの「シンクライアントでの管理エージェントのイ ンストール」を参照してください。

ローカル サービスの起動(LSB: Local Service Boot)を使用した OS イメージの配布

ローカル サービスの起動により、CCM は、ネットワークから起動されていない デバイスの OS の管理を行います。

ローカル サービスの起動を使用するとき、既存のマシンは PXE 対応である必要 はありません。また、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を BIOS で ローカルに設定する必要はありません。

OS 配布の前提要件については、100ページの「配布シナリオ」を参照してください。

ローカル サービスの起動を使用して OS イメージを配布するには

- 1 配布用のイメージを選択して、[オペレーティング システムの配布] [●] ツー ルバー ボタンをクリックし、OS 配布ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル サービスの起動 (LSB)]を選択します。
- 3 これで、LSB ソフトウェアがターゲット デバイスにインストールされます。 次に選択した OS をインストールします。複数の OS イメージがデバイスに エンタイトルメント設定されている場合、インストールする OS を選択する プロンプトが表示されます。

PXE を使用した OS イメージの配布

PXEベースの環境により、CCM はネットワークから起動されるターゲット デバイスの OS の管理を行います。OS 配布の前提要件については、100ページの「配布シナリオ」を参照してください。

PXEの使用は、ネットワークから起動しているクライアントにブート イメージ を提供する DHCP サーバー、およびこれらのファイルを提供する TFTP サー バーの設定からなります。

 DHCP サーバーおよび TFTP サーバーは、OS 配布に PXE を使用する前に、 設定する必要があります。設定の指示は製品のドキュメントを参照してくだ さい。詳細については、42ページの「OS 配布用の PXE の設定」を参照し てください。

PXE が設定されている場合、ターゲット デバイスがネットワークから起動する、 またはプライマリブート デバイスとして PXE が有効になっていることを確認 してください。このような設定になるように必要な設定の調節を行います(たと えば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に ESC キーを押して、 設定内の起動順序を変更できます)。

これで、OS イメージを配布する準備ができました。

PXE を使用して OS イメージを配布するには

- 1 PXE が設定されていることを確認します。
- 2 配布用のイメージを選択して、**[オペレーティング システムの配布]** [●] ツー ルバー ボタンをクリックし、OS 配布ウィザードを起動します。
- 3 176 ページのウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル CD または PXE サーバー] を選択します。
- 4 ウィザードが終了したら、DHCP サーバーで指定した設定を使用して、ター ゲット デバイスが再起動されます。
- 5 OS イメージがターゲット デバイスに配布、インストールされました(複数のOS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、インストールする OS を選択するように表示されます)。

サービス CD を使用した OS イメージの配布

サービス CD を使用して、まだオペレーティング システムがインストールされ ていないターゲット デバイス (ベアメタル マシン)をローカルに起動します。

ファイル ImageDeploy.iso を使用してサービス CD を作成します。ファイルは、 CCM メディアの ¥OSManagement¥ISO¥DeploymentCD¥ ディレクトリにあり ます。

LSB は、まだ OS をインストールしていないデバイスには使用できないので、 OS 配布のためベアメタル マシンを起動するには、サービス CD または PXE サーバーのいずれかを使用する必要があります。

サービス CD は、ターゲット デバイスでローカルに作成し、利用可能でなけれ ばなりません。

OS 配布の前提要件については、100 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

サービス CD を使用して OS イメージを配布するには

- 1 ターゲットデバイスにサービス CD を挿入し、CD から起動します。
- 2 入力を要求されたら、CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名および ポート番号を入力し、Enter キーを押して続行します。たとえば、

「CCM.acmecorp.com:3469」または「192.168.1.100:3469」と入力します。 ポート 3469 は、OS のイメージングと配布用に予約されています。

- 3 デバイスは、CCM サーバーに接続され、MAC アドレスのバリエーション をデバイス名として使用して デバイス リストに追加されます。サービス CD が CCM サーバーに接続されると、「このマシンにローカル OS がない か、OS が無効です。」および「マシンは使用できず、管理者がポリシーを 指定して Wake On LAN を実行するまでシャットダウンされます。」とい うメッセージが表示されます。
- 4 CCM のコンソールで、[OS 管理] セクションを使用して、新しいデバイス をグループに追加します。
- 5 [OS 管理] セクションで、配布用のイメージを選択して、[オペレーティング システムの配布] 🦥 ツールバー ボタンをクリックし、OS 配布ウィザードを 起動します。
- ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル CD または PXE サーバー]を選択します。
- 7 ウィザードが完了したら、再びサービス CD を使用して、ターゲット デバ イスを再起動します。この再起動の間に、OS イメージが検出され配布され ます。イメージのサイズおよびネットワークのバンド幅により、これには 10~15 分かかる場合があります(複数の OS イメージがデバイスにエンタ イトルメント設定されている場合、どの OS をインストールするか選択する ように指示されます)。
- 8 イメージの配布が終了したら、ターゲットデバイスを再起動し、Windows を 起動します。Sysprep プロセスが、新しいイメージを起動し、初期化します。

グループ エンタイトルメントの追加

OS ライブラリで利用可能な **OS** イメージは、デバイスのグループにエンタイト ルメントを設定できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには

- 最初のカラムのチェックボックスを選択して、グループエンタイトルメント用の OS イメージを選択します。
- 2 [グループ エンタイトルメントの追加] 🔯 ツールバー ボタンをクリックして、 サービス エンタイトルメント ウィザードを起動します。
- 3 173 ページのウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバ イスのグループに、選択したイメージのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

CCM は、OS サービスを OS ライブラリにインポートできます。サービスを インポートするには、サービス インポート デッキが、CCM サーバーの ChangeControl ディレクトリ内にある必要があります。

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環 境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の CCM サーバーの ChangeControl ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、 サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環 境のソフトウェア ライブラリにインポートして、ソフトウェアを管理対象デバ イスに配布します。

サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]** *(* ツールバー ボタンをクリックして、サービス インポート ウィザードを起動します。
- 2 170ページのウィザードの手順に従って、サービスを OS ライブラリにイン ポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされた OS イメージは、CCM サーバーの ChangeControl ディレ クトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たとえば、 テスト環境内の)他の CCM サーバー ライブラリへのインポートに利用できます。

サービスをエクスポートするには

- 最初のカラムのチェックボックスを選択して、サービスとしてエクスポートする OS イメージを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]** ジールバー ボタンをクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。
- 3 170 ページのウィザードの手順に従って、そのサービスを CCM サーバーマ シンの ChangeControl ディレクトリにエクスポートします。

オペレーティング システムのライブラリからの削除

CCM データベースからソフトウェアを削除するには、[OS] ツールバーを使用 します。

オペレーティング システム ライブラリからオペレーティング システム サービ スを削除するには

- 1 削除する OS を選択します。
- 2 [オペレーティング システムの削除] 📈 ツールバー ボタンをクリックします。

OS の詳細

いずれかのオペレーティング システム サービスの詳細リンクをクリックして、 [OS の詳細] ウィンドウを開きます。[OS の詳細] ウィンドウで、OS のプロパ ティの表示、エンタイトルメントの表示や変更、レポートの要約の表示、または OS 管理ジョブの作成が可能です。次の領域が利用可能です。

図8 [OS の詳細] ウィンドウ



[OS の詳細] ウィンドウでは次の領域が利用可能です。

一般

[一般] タブは、その OS サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。その 他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。
プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、オペレーティング システム サービスの詳細を変 更します。

このオペレーティング システム サービスについて表示される説明。このフィールドは必須です。

- 連絡先
 この OS サービスに関する連絡先情報を保管する、オプションのフィールド。
- Web サイト

このサービスに関連する URL を入力する、オプションのフィールド。

[保存]をクリックして、変更をコミットします。

グループ

[グループ] タブのグループは、オペレーティング システムにエンタイトルメン トが設定されています。ツールバーを使用して、表示されたグループについて、 エンタイトルメントの管理、OS の配布、ソフトウェアおよびハードウェア イン ベントリの探索、パッチ適合性の探索および強制を行います。

- 追加のグループにエンタイトルメントを設定するには、[グループエンタイトルメントの追加] 20 ツールバーのボタンをクリックします。
- グループからエンタイトルメントを削除するには、[グループエンタイトル メントの削除] 100 ツールバー ボタンをクリックします。
- 特定のグループに、オペレーティングシステムを配布するには、グループ を選択し、[オペレーティングシステムの配布]
 ツールバーボタンをク リックします。OS 配布ウィザードが起動します。176ページのウィザード の手順に従って、選択した OS を配布します。

デバイス

[デバイス] タブのデバイスは、オペレーティング システムにエンタイトルメントが設定されています。ツールバーを使用して、特定のデバイスに OS を配布します。

 特定のデバイスにオペレーティングシステムを配布するには、デバイスを 選択し、[オペレーティングシステムの配布] シッールバーボタンをクリッ クします。OS 配布ウィザードが起動します。176ページのウィザードの手 順に従って、選択した OS を配布します。

レポート

[レポート] タブでは、そのオペレーティング システム サービスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン CCM コン ソールの [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] は、現在アクティブな OS 管理ジョブまたはスケジュールされた OS 管理ジョブをすべて表示します。CCM データベースの管理対象デバイスで、 オペレーティング システム サービスのエンタイトルメント設定および配布を行 うには、OS 管理ジョブを使用します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部に あるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよび ジョブ ステータスに関する詳細は、111 ページの「 現在のジョブ」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了した OS 管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部に あるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。



ジョブ管理

[ジョブ管理] セクションを使用して、現在のジョブおよび過去のジョブをすべて 表示し、管理します。要約情報で、現在アクティブな管理ジョブおよびスケ ジュールされている管理ジョブの合計数が表示されます。

ジョブ管理のタブについては、次のセクションで説明しています。

- 一般 (111ページ)
- 現在のジョブ (111ページ)
- 過去のジョブ (115 ページ)

一般

[一般] タブを使用して、現在および過去の全ジョブの表示、およびアクティブな ジョブおよびスケジュールされているジョブの合計数を表示します。

現在のジョブ

[現在のジョブ]は、アクティブなまたはスケジュールされた全ジョブのリストを 表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をク リックしてください。

ツールバー ボタンを使用して、現在スケジュールされているジョブ、またはア クティブなジョブを管理します。次のセクションでは、使用できるジョブ コン トロールと詳細ウィンドウについて説明します。

- ジョブ コントロール (111 ページ)
- ジョブステータス (112ページ)
- ジョブの詳細 (114ページ)

ジョブ コントロール

既存のジョブを管理するには、ジョブリストの一番上にあるジョブコントロールを使用します。各コントロールに関する説明は、下の表を参照してください。

表8 ジョブ コントロール

アイ コン	説明
	ジョブの開始
Þ	無効になったり一時停止されたジョブのリジューム
Ш	現在アクティブ、開始を待機中、または停止を待機中のジョブの一 時停止。ジョブのステータスは一時停止に設定されます。
	現在アクティブまたは一時停止のジョブの停止。ジョブのステータ スは無効化に設定されます。
	ジョブのスケジュール再設定
×	ジョブの削除

ジョブ ステータス

各ジョブに関する情報は、[ステータス] カラムを参照します。次の表は、各ジョ ブ ステータス メッセージを説明しています。

表9 ジョブステータス

アイ コン	ステータス	説明
8	エラーで終了	ジョブは完了したが、いくつかエラーが発生し た。詳細は、ジョブの説明をクリックします。
0	成功	ジョブは、エラーもなく正常に終了した。
0	現在アクティブ	ジョブが現在実行中。
•	一時停止	ジョブは現在、一時停止。
0	開始を待機中	ジョブは、スケジュールされ、実行を待機中。
0	停止を待機中	ジョブは現在、停止のプロセスの途中。
8	失敗	ジョブが正常に終了しなかった。
	無効化	ジョブが停止または一時停止された。

各ジョブの管理にジョブ コントロールを使用するとき、予想される結果を確認 するには、次の表を参照してください。

表 10 ジョブ ステータスと予想されるジョブ コントロールのアクション

	▶ 開始	▶ リジューム	□□ 一時停止	■ 停止	■ スケジュー ル再設定	業 削除
▲ エラーで 終了	ステータスが 現在アクティ ブに変化	なし	ステータスが 無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブ の削除
⊘ 成功	ステータスが 現在アクティ ブに変化	なし	ステータスが 無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブ の削除
● 現在アク ティブ	なし	なし	ステータス が一時停止 に変化	ステー タスが 停止を 待機中 に変化	更新を適用	なし
一時停止	なし	ステータス が一時停止 ステータス の前の状態 に変化	なし	ステー タス 停 此 を 横 代 で 化	更新を適用	なし
③ 開始を待 機中	ステータスが 現在アクティ ブに変化	なし	ステータスが 無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブ の削除
●停止を待機中	なし	なし	ステータス が一時停止 に変化	なし	更新を適用	なし
	ステータスが 現在アクティ ブに変化	なし	ステータスが 無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブ の削除
■ 無効化	なし	ステータス が無効化ス テータスの 前の状態に 変化	なし	なし	更新を適用	ジョブ の削除

ジョブ コントロールは、[現在のジョブ] タブにあるジョブにしか利用できません。 これには、現在アクティブなジョブおよび反復スケジュールを設定したジョブが 含まれます。[過去のジョブ] タブにある完了したジョブはコントロールできない ので、再び実行する必要がある場合は再作成します。

ジョブに関する詳細は、[説明] カラムのリンクをクリックしてください。新しい ウィンドウが開き、それぞれの ジョブの詳細が表示されます。

ジョブが一時停止されても、ジョブのアクション(配布、収集など)は、 現在対象となっているデバイスについては続行されます。アクションが 完了すると、ジョブは、リジュームされるまで他のデバイスでは実行さ れません。

ジョブの詳細

ジョブの説明リンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、そのジョブに 特有の情報が表示されます。ジョブ タイプに応じて、[ジョブの詳細] ウィンド ウに下で説明するタブが表示されます。

図9 [ジョブの詳細] ウィンドウ

Sec. 10	100	= 24.6 m
> 7	$\neg a$)=王刹田
~ =	////	/ 日十小田

- Reporting De	vice Synchronization					
デバイス						
情報				_	_	_
IH TE						
この探索ジョブ	で見つかったデバイスII オ	ま下記のとおりで	す。ダイナミック ディスカバリ	リグループの場合、	このリストは現在のグルー	・ブ メンバーシップ
名文味していま	90					
見つかったデ	バイス					
** . <u>F</u> rz	7	l⇔t` ,		拾索しけた。	u k	
£%:)/∩//		180		1Km 9C.		
R				10 項目 💌 🖹	◀ 1-0項目(共に0項目)	3) 💽 🕨 🕅
<i>u</i>						
♥ デバイス	モデル	₽ アドレス	オペレーティング シス	サービス バッ	エージェントのステー	前回の変更
デバイス	モデル	₽ アドレス	オペレーティング シス テム	サービス バッ ク	エージェントのステー タス	前回の変更

詳細

[詳細] タブには、すべてのジョブ情報が表示されます。

ターゲット

[ターゲット] タブには、ジョブが作成された全デバイスが表示されます。

サービス

[サービス] タブには、そのジョブのターゲット デバイス用の全ソフトウェア、 パッチ、またはオペレーティング システムが表示されます。

ジョブ メッセージに関する詳細は、299 ページの「トラブルシューティング」 を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]には、完了した管理ジョブがすべて表示されます。ジョブのス テータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。



5 レポート

[レポート] インターフェイスを使用して、お使いの環境にあるデバイスやソフト ウェアに関する詳細なレポートを設定、表示します。[レポート] インターフェイ スには、次の領域があります。

- 検索オプション (118ページ)
- 表示オプション (118ページ)
- 検索条件 (119ページ)
- [レポート] ウィンドウ (119 ページ)

図 10 [レポート] インターフェイス



 [レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、Java Runtime または Virtual Java Machine が必要です。詳細は、 http://java.com/ja/index.jsp を参照してください。

検索オプション

[ディレクトリ/グループフィルタ]または[データフィルタ]領域を使用して、現在の表示でアクセスしているデータセットに1つ以上のフィルタを適用します。 適用するフィルタは、レポートの上に検索条件として表示されます。

ディレクトリ/グループ フィルタ

 ディレクトリ/グループエントリをクリックして、そのレベルまで現在の データセットをフィルタします。この領域の使用方法に関する詳細は、120 ページの「検索オプションを使用したフィルタの選択」を参照してください。

データ フィルタ

 この領域を使用して、現在のデータセットに適用するフィルタを生成または 選択します。この領域の使用方法に関する詳細は、120ページの「検索オプ ションを使用したフィルタの選択」を参照してください。

表示オプション

[表示オプション] 領域を使用して、現在のセッションおよび表示をコントロール します。

レポート ビュー

 [レポートビュー]は、現在のデータセットを表示するレポートウィンドウ および各ウィンドウに関連する初期設定(最小化や最大化、各ウィンドウの 項目数など)の定義を行います。Reporting Server に初めてアクセスすると、 デフォルトのビューが適用されます。現在のビューは、グローバルツール バーの右に表示されます。

[レポート ビュー] 領域を使用して、レポート ビューの変更やカスタマイズ を行います。詳細については、**123** ページの「表示オプションを使用したレ ポート ビューの選択」を参照してください。

検索条件

検索条件は、[レポート] ウィンドウの上に表示され、検索コントロールのいずれ かを使用してデータセットに適用されたフィルタの一覧を表示します。

 フィルタを削除するには、検索条件リストのフィルタ名の左にある X をク リックします。

デバイス フィルタ

デバイスフィルタは、デバイス関連の情報を含むレポートに適用されます。

レポート固有のフィルタ

レポート固有のフィルタは、特定のレポートビュー内で利用可能なデータにだ け適用されるフィルタです。たとえば、デバイス別利用状況、利用状況関連フィ ルタを適用し、製品別利用状況データを表示してから、1つの製品名を選択した 場合、レポート固有のフィルタが、選択した条件に基づいてそのレポートに適用 されます。

[レポート] ウィンドウ

[レポート] ウィンドウには現在のビューが表示されます。

- ウィンドウのタイトルバーにある [最小化] □ をクリックして、レポート ウィンドウを折りたたみます。
- ウィンドウのタイトルバーにある [最大化] Ⅲ をクリックして、レポート ウィンドウを展開します。

[レポート] ウィンドウのアクション バー アイコンの使用に関する詳細や、レ ポート内の項目の詳細のブラウズ、ソート、および表示については、127 ページ の「[レポート] ウィンドウについて」を参照してください。

各ウィンドウには**アクション バー**があります。アクション バーには、ツールが 含まれており、現在の [レポート] ウィンドウにより、デバイスのグループの作成、 CSV ファイルの作成、Web クエリ リストの作成やグラフィック ビューへの切 り替えができます。詳細については、128 ページの「Windows アクション バー の使用」を参照してください。



検索オプションを使用したフィルタの選択

[検索オプション] 領域には、Reporting Server 内のデータセットにフィルタを 適用する方法が 2 つあります。以下が可能です。

- [ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域からグループ エントリを選択します。
 これにより、結果はグループ エントリ レベルに制限されます。
- [データフィルタ] 領域を使用して、フィルタを作成または適用します。これにより、結果は適用した固有のフィルタに制限されます。
- 図 11 [検索オプション]領域

検索オブション
ディレクトリ/グルーブ フィルタ
E 🛗 Zone: HP
Zone Access Points
- S Network
🔁 🔚 Configuration
Devices
🔁 🔚 Chassis
🛨 🛅 Groups
E Cervices
🗄 🔚 Administrators & Operators
E Categories
💼 🚱 History
テータフィルタ
🗉 🏪 インベントリ管理の関連情報
🖭 🏪 バッチ管理の関連情報

ディレクトリ/グループフィルタを選択したり、データフィルタを適用するときは、 フィルタが検索条件エントリに自動的に表示されます。

次のセクションで、[検索オプション]領域について説明します。

- [ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域(120ページ)
- [データ フィルタ] 領域 (121ページ)

[ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域

ディレクトリ/グループ フィルタを使用して、グループをブラウズします。グ ループ エントリをクリックすると、CCM は、そのエントリについて表示される レポート データを自動的にフィルタします。たとえば、販売グループ エントリ をクリックすると、レポート領域には、販売グループに関連するデバイスだけが 表示されます。

そのグループに対しさらにドリル ダウンするには、[ディレクトリ/グループ フィルタ] 領域内のイメージをクリックします。テキストをクリックすると、関 連するフィルタがデータに適用されます。

[ディレクトリ/グループフィルタ]領域のツリービューを展開すると、展開された分岐はルート分岐になります。

[データ フィルタ] 領域

[データ フィルタ] 領域は、いつでも検索コントロール(ウィンドウの左側にあ ります)として利用できます。これを使用して、現在のデータセットに適用する フィルタを選択します。フィルタは、適用されると、レポート ウィンドウの上 の検索条件リストに追加されます。

[データ フィルタ]領域を使用して、フィルタの選択および適用を行うには

- [データ フィルタ] 領域で、フィルタ グループを展開して、ツリー ビューを 表示し、サブグループを選択します。下の図に示した例では、[インベント リ管理の関連情報]、次に [ハードウェアの関連情報] が選択されました。
- ツリービューでフィルタを選択します。下の図に示した例では、[デバイスの関連情報]、次に[デバイスの分類]が選択されました。
- [フィルタ値] テキストボックスに、具体的な値を入力します。たとえば、 「*Notebook*」と入力します。複数の文字を表す*や、1文字を表す?や _(アンダースコア)などのワイルドカードを使用できます。
- 4 [適用]をクリックして、レポートにフィルタを追加します。フィルタを適用 すると、そのフィルタが、レポートウィンドウの上の検索条件リストに追 加されます。
- [リセット] ボタンは、[フィルタ値] フィールドをクリアします。また、 フィルタ グループおよびフィルタの選択も、デフォルト値にリセット されます。

下の図は、Notebook デバイスだけにレポートを制限するのに使用されるデータ フィルタ エントリの例を示します。 図 12 レポートを Notebook デバイスに制限するため検索条件を適用



特別なフィルタ値文字とワイルドカード

検索文字列に特別な文字やワイルドカードを使用すると、適切なレコードを見つ けるのが容易になります。これらの特殊文字を、[フィルタ値] テキスト ボック スに入力するテキストとともに使用します。122 ページの表 11 は、各特殊文字 について説明しています。

文字	説明
*または%	特定のテキスト文字列の全レコードを返す。
	例:
	デバイスのベンダー フィルタ
	HP*は、全HPレコードを返す。
	%HP%は、HPを含む全レコードを返す。
?または_	任意の1文字を返す。
	例:
	デバイスの分類フィルタ
	Not?bookは、"Not"で始まり "book"で終わる全レコードを返す。
	Note_ook は、"Note" で始まり "ook" で終わる全レコードを返す。
!	フィルタを否定。!はテキスト文字列の前に置く必要があります。
	例:
	デバイスのベンダー フィルタ
	!HP* は、HP でないレコードを返す。

表 11 特殊文字とワイルドカード

表示オプションを使用したレポート ビューの選択

[表示オプション] 領域内で、[レポート ビュー] は、レポートページで表示する ウィンドウおよびその初期状態(最大化または最小化)を指定します。

図 13 [表示オプション] 領域

表示オブション
レポート ビュー
🛨 🔚 インベントリ管理レポート
🗉 🏪 バッチ管理レポート
💽 🔚 利用状況管理レポート

ビューを適用するには

- 1 [レポートビュー] 領域でビュー グループ リストを展開し、グループを選択 します。下の図では、[インベントリ管理レポート]、[ソフトウェア レポート] が展開されています。
- 2 次に、そのグループのビューを選択します。下の図は、[**管理対象サービス** レポート]に利用可能なレポートビューを示します。

ビューを選択すると、適切なレポートが表示されます。



図 14 ソフトウェア レポートの選択例

[戻る] ボタン 🕑 をクリックして、前のレポートウィンドウに戻ります。 次のセクションでは、レポートビューについて詳しく説明しています。

- レポートビューのタイプ(124ページ)
- HP ハードウェア レポートの表示 (126 ページ)

レポート ビューのタイプ

表示するデータのタイプにより、適切なレポート ビューを選択します。

- インベントリ管理レポート(125 ページ)
- パッチ管理レポート(125ページ)
- 利用状況管理レポート(125ページ)



インベントリ管理レポート

インベントリ管理レポートには、CCM の全デバイスに関するハードウェアおよ びソフトウェアの情報が表示されます。

パッチ管理レポート

パッチ管理レポートには、管理対象デバイスのパッチ適合性情報や、パッチおよび Softpag の取得情報が表示されます。

- 適合性レポート 管理エージェントは、CCM へ製品およびパッチの情報 を送ります。この情報は利用可能なパッチと比較され、管理対象デバイスの 脆弱性を削除するためパッチを必要とするかどうかが調査されます。適合性 レポートは、お使いの環境で検出されたデバイスに該当する情報しか表示し ません。
- 取得レポート 取得ベースのレポートは、ベンダーの Web サイトからの パッチ取得の成功および失敗を表示します。
- リサーチレポート リサーチベースのレポートは、ソフトウェアベン ダーのWebサイトから取得したパッチに関する情報を表示します。リサー チベースのレポートでは、フィルタバーが利用できます。

利用状況管理レポート

利用状況管理レポートには、利用状況収集エージェントがインストールされてい るデバイスの利用状況の情報が表示されます。アプリケーション利用状況収集 ウィザードを使用して、収集エージェントをインストールし、利用状況データの 収集を始めます。

- デバイスレポート 個々のデバイスまたはユーザー別に、収集した利用状況の情報を表示します。
- 月次利用状況レポート ベンダー、製品、またはアプリケーション別に、
 利用状況の情報を表示します。

利用状況管理レポートには、次のデータカラムが含まれる場合があります。

- 利用時間 アプリケーションが実行されている時間。
- **集中時** アプリケーションがアクティブなウィンドウである時間。

- 利用回数 ユーザーのデバイスでアプリケーションが実行された回数を追 跡します。
- **利用ステータス** 個々のアプリケーションまたはアプリケーションのグルー プについて、使用インスタンスと未使用インスタンスとの関係を表します。

収集エージェントが配布された後、利用時間の収集がただちに開始され ます。集中時の収集は、ユーザーが次回ログインしてから開始されます。

Program Files など、ほとんどの論理フォルダは、マシンに関連付けられており、個々のユーザーとは関連付けられていません。このため、利用状況管理レポート、デバイスレポート、ユーザー別利用状況レポートでは、[ユーザー名]カラムに[未定義]と表示される場合があります。

[設定] タブの [レポート] セクションで指定した 利用状況の設定によっては、利 用状況データの一部または全部が難読化される場合があります。

HP ハードウェア レポートの表示

[表示オプション] を使用して、HP ハードウェア レポートを表示します。これら のレポートには、互換性のある HP デバイスの HP Client Management Interface (CMI) が取得した簡易警告情報が含まれます。

HP ハードウェア レポートを表示するには

- 1 [表示オプション]領域で、[インベントリ管理レポート]を選択します。
- 2 [**ハードウェア レポート**]を選択します。
- 3 [HP 固有のレポート] を選択します。



- 4 HP 固有のハードウェア レポート ビューを選択します。レポートが右のペ インに表示されます。
- 5 選択したレポート ビューに基づいて具体的な警告タイプまたは BIOS 設定 を検索するには、レポートウィンドウの一番上に表示される追加のデータ フィルタ検索ボックスを使用します。

			デー	タフィルタ			
H/W 2	尊報の名前						
			通用	ሀቲታ 🍺			
Ξ			🗐 HP F	l/₩ 警報			
§ 🖪				15	5項目 🛩	1-1项目(共)	:1项目) 🛩 🕅
¥ ₩	デバイス名 🍾	前回の変更	名前	說明	カテゴリ	75-32	重大度
P	HP16293324192	2006-04-18 14:38:02	Chassis Fan Stall	Chassis Fan Speed	3: センサ	5: 前兆的な故障	25: 致命的故障

[レポート] ウィンドウについて

レポートページには、適用されたビューで指定されたウィンドウが表示されます。 下の図は、レポートページに[管理対象デバイス]および[管理対象サービス] レポートウィンドウを表示した例です。[管理対象デバイス]ウィンドウは最小 化され、[管理対象サービス]ウィンドウは最大化されて、レポートデータを表示しています。

図15 [レポート] ウィンドウの例



次のセクションで、[レポート] ウィンドウの機能およびオプションを説明します。

- Windows アクションバーの使用 (128 ページ)
- ダイナミックレポートグループの作成(131ページ)

Windows アクション バーの使用

各ウィンドウには、**アクション バー**があり、以下のようなアイコンが表示されています。

新しいダイナミックレポートグループの作成 – グループ作成ウィザードを 起動し(165ページ)、レポートで返されたデバイスを使用して、新しいグルー プを作成します。

グループ作成ボタンは、デバイスのリストを含むレポートにだけ表示 されます。

CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、レポート クエリのコン マ区切りのリストを作成します。

IQY にエクスポート – Microsoft Excel ファイルとして開いたり保存したり できる、レポート クエリの Web クエリ リストを作成します。ソース レポート へのライブ リンクが作成され、CCM からデータを直接取得することにより、 Excel のスプレッドシート内からレポート データをリフレッシュできます。

巡 グラフィック ビューに切り替え - レポート ビューをグラフィック モード に切り替えます。

図 16 [レポート] ウィンドウの例

Ξ	□ ■ ■ 管理対象デバイス									
i	3 😫						15 項目 👤 🕅 🔍 1 - 1 項目 (共に1 項			
難	前回の接続 ↓	CM Agent ID	CM Agent バージョ ン	デバイス	IP アドレス	MAC アドレス	オペレーティング システム	osのレベ ル		
P	2007-12-14 21:35:24	VMN2K3JP2	V510.20071018	VMN2K3JP2	16.157.133.68	000C2961C3BC	Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition Version 5.2.3790 [Build 3790]	Service Pack 2		

レポートの項目のブラウズ

レポートには、多くの項目が含まれる場合があります。[アクション バー] で、 ウィンドウ領域に表示する項目の数をカスタマイズできます。現在のウィンドウ 領域外のレコードまでブラウズするには、下の図に示すように [ブラウズ] ボタン またはドロップダウン リストを使用します。

ウィンドウあたりの最大項目数

このドロップダウンリストボックスを使用して、現在のウィンドウに表示する 項目の数を制限します。たとえば、最大 30 項目を選択した場合、現在のウィン ドウで 30 項目をスクロールできます。

[前ヘブラウズ] および [次ヘブラウズ] ボタン

ウィンドウあたりの最大項目数に、レポートの合計項目数より小さな値を選択し た場合、複数のウィンドウを通してブラウズできます。ブラウズボタンを使用 して、現在のレポートの最初、前、次、または最後のウィンドウに移動します。

特定のウィンドウへのブラウズ

利用可能なウィンドウのリストから、表示する項目の集合を選択します。たと えば、ドロップダウン リストから [1 - 15 of 46] を選択すると、1 ~ 15 の項目 が表示されます。

図 17 レポート表示の設定

8	l i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	b	Ç	d ç
Ξ	圓於理討愛式5472			
🚅 🖪 🔯		16 10		1 1 和目(#1:1 和目) 🖃 👂
· 제 - 레이지 (1977) - 레이지 (1977)				

凡例

- **α** 現在のソートフィールドおよび順序
- **b** ウィンドウあたりの最大項目数

c ブラウズ ボタン

d 現在の表示と合計数

カラムのソート

カラムの見出し名をクリックし、そのカラムを基準としてレポートの項目を昇順 または降順にソートします。

昇順と降順を切り替えるには、現在選択されているカラム(矢印で示されたもの) をクリックします。上向きの矢印は、アクティブなソートカラムを昇順で表示 します。下向きの矢印は、項目を降順で表示します。

たとえば、上の図は、[前回の接続] カラムを基準に降順にソートされたレポート を示しています。[前回の接続] カラムの見出しの右に下向きの矢印があることに 注意してください。

デバイスの要約の表示

[管理対象デバイス] レポートウィンドウで、項目の隣の[**詳細の表示**]²をクリックすると、そのデバイスの詳細が表示されます。

次の図で示すように [デバイスの要約] ウィンドウが開きます。標準のグローバ ルアイコンの他に、前のウィンドウに戻ることができる緑色の矢印アイコンが 表示されることに注意してください。

現在のレポートビュー:デバイスの詳細ビュー (MBEM ベース) デバイスの裏約 デバイス名 CM Agent パージョン 前回の接続 CCM2-1SC V511.20071220 ベンダー VMware, Inc. モデル クラス シリアル番号 VMware Virtual Platform Other VMware-56 4d 17 1c 75 c3 82 db-cf 25 87 d5 73 02 70 d0 BIOS のバージョン 6.00 GenuineIntel 1600MHz 1500 CPU 곳モリ (MB) オペレーティング システム os のレベル 言語 Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition Version 5.2.3790 [Build 3790] Service Pack 2 Chinese (Hong Kong SAR) HP BIOS 設定 HP HAW警告 HP HAW警告 (ブート イベント) ブロセッサ 物理ドライブ 論理ドライブ CD/DVD ドライブ グラフィック アダプタ ネットワーク アダブタ プリンタ ユーザー アカウント

図18 [デバイスの要約] ウィンドウ

ページの下にある見出しをクリックして、リストを展開します。たとえば、[**HP ハードウェア警報**]を展開すると、そのデバイスについてレポートされたハード ウェア警告のリストが表示されます。

デバイスの要約の内容は、最初の[レポート]ウィンドウにより異なります。

レポート データからのフィルタの適用

レポート内のハイパーリンクされたデータをクリックして、特定の条件でフィル タします。フィルタが適用され、[検索条件] に表示されます。

ダイナミック レポート グループの作成

ダイナミック レポート グループには、レポート クエリの結果として返されたデ バイスが含まれています。ダイナミック レポート グループを作成するには、最 初にレポート クエリにデバイスのリストを生成し、次に グループ作成ウィザー ドを使用します。

ダイナミック レポート グループを作成するには

- 1 レポートクエリを使用してデバイスのリストを生成します。たとえば、デフォルトの[レポート]ウィンドウから[管理対象デバイスを表示]をクリックします。
- デバイス リストをフィルタして、グループに含めるデバイスだけにします。 たとえば、[オペレーティング システム] カラムの Microsoft Windows XP Professional Version 5.1.2600 をクリックします。レポートは、Windows XP Professional のバージョン 5.1.2600 を使用する管理対象デバイスをすべ て表示します。フィルタを追加して、デバイス リストをさらにフィルタで きます。
- 3 グループに追加するデバイスのリストがある場合は、 [新しいダイナミックレポート グループの作成] ボタンをクリックして、グループ作成ウィザードを開始します。
- 4 165 ページのウィザードの手順に従って、デバイスのダイナミック グルー プを作成します。

ダイナミック レポート グループについて

 ダイナミックレポートグループのメンバーシップは、元のリストを作成する ため使用したクエリで定義された条件に合うデバイスに依存します。メン バーシップは、グループ作成ウィザードで指定したスケジュールに基づいて 更新されます。または、[グループの詳細] ウィンドウを使用して変更できます。

レポートグループで使用される条件を変更するには、新しいデバイスクエリを作成してから、グループ作成ウィザードを使用し、新しい条件で新しいグループを作成します。



[設定] セクションでは、サポートへの連絡、コンソール ユーザー アクセスの管理、 インフラストラクチャ サーバーの定義と設定、パッチ取得のスケジュールと設 定の管理、ハードウェアの管理、および ODBC の設定が行えます。

図19 [設定] タブのセクション



左のセクション コンテンツ領域にあるリンクをクリックして、各領域で利用可 能な設定オプションを表示します。次のセクションで、コントロールできる[設定] 領域を定義しています。

- サポート (134 ページ)
- コンソールへのアクセス (135 ページ)
- インフラストラクチャ (138 ページ)
- パッチ管理 (141ページ)
- OS 管理 (145 ページ)
- ハードウェア管理(146ページ)
- レポート (149ページ)



[サポート] セクションを使用して、サポート情報の検索、現在のサーバー ログ ファイルのダウンロード、およびライセンス情報の確認を行います。

ライセンス セクションでは、インストールしている CCM ライセンスのタイプ が Premium か Basic かを表示します。

図 20 [設定] タブの [サポート] セクション

サポート	
サポート	
サポート問い合わせ情報』は下記のとおり	ল্বে.
バージョン情報:	バージョン:02.11.000 ビルド日:20071219003134
電話:	http://www.hp.com/managementsoftware/contact_list
オンライン:	http://support.openview.hp.com/
トラブルシューティング Client Configuration Manager のトラブルシ	ューティングでは、次のオブションが使用可能です。
ログ ファイル :	🚯 現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード
ライセンス 現在のライセンス情報を確認するか、下語	2のライセンス情報を更新してください。
現在のライセンス:	製品レベル:Premium; ライセンスを受けているデバイス数:無制限; 期限切れ:なし。
必須フィールド *	

次のタスクが [サポート] 領域で完了できます。

- ログファイルのダウンロード (134 ページ)
- ライセンス情報の更新 (135 ページ)

ログ ファイルのダウンロード

弊社サポート センターに連絡すると、ログ ファイルの提供を求められる場合が あります。用意されているリンクを使用して、現在のサーバー ログ ファイルの 圧縮ファイルをダウンロードし保存します。

ログ ファイルをダウンロードするには

- [トラブルシューティング]領域で、[現在のサーバー ログ ファイルをダウン ロード]リンクをクリックします。新しいウィンドウが開きます。
- 2 ログファイルが準備できたら、[logfiles.zip をダウンロード] をクリックします。
- 3 表示メッセージに応じて [**保存**] をクリックし、圧縮ファイルをコンピュー タに保存します。
- 4 ファイルを保存する場所を指定して、[**OK**] をクリックします。
- 5 ログファイルがコンピュータにダウンロードされ、logfiles.zipという 1つの ZIP 形式ファイルで保存されます。

ライセンス情報の更新

CCM を使用するには、現在のライセンス情報が必要です。[ライセンス] セクションを使用して、この情報の表示および更新を行います。

新しいライセンスを適用するには

- 1 新しいlicense.nvd ファイルからテキストをコピーして、[**ライセンス データ**] テキスト ボックスに貼り付けます。
- 2 [保存]をクリックします。

更新されたライセンス情報が、[現在のライセンス]の後に表示されます。

コンソールへのアクセス

[コンソールへのアクセス] セクションを使用して、コンソール ユーザーを管理 します。管理ジョブには、ジョブを作成するため使用された ユーザー ID を表 示する、[作成者] フィールドが含まれます。これにより、どのコンソール ユー ザーが個々のジョブを作成したかを追跡できます。

デフォルトでは、コンソール ユーザーは admin の 1 人だけで、デフォルトのパ スワードは secret です。このコンソール ユーザー アカウントは削除できません。 また、現在アクティブなユーザー アカウントも削除できません。現在アクティ ブなアカウントを削除する必要がある場合、最初にログアウトして、別のユー ザーとしてログインしなおします。これで、以前にアクティブだったコンソール ユーザー アカウントを削除できます。

図 21 [コンソールへのアクセス] セクション

CMコンソールにアクセス	できるユーザーは下記のと	おりです。		
2ーザー			_	_
* 17-9-0 15		検索リゼット		
			10 項目 💌 🕅 🔌 1 - 1 項目(共に1 項	(日) 🔹 👂
3 🥰 💥				
》 😤 🕌 」 ユーザー ロ	↓ 表示名	説明	前回の変更	

次のセクションでは、コンソールユーザーの管理方法を説明します。

- 追加コンソール ユーザーの作成 (136 ページ)
- コンソール ユーザーの削除 (137 ページ)
- コンソール ユーザーの詳細の表示および変更 (137 ページ)
- コンソール パスワードの変更 (137 ページ)

追加コンソール ユーザーの作成

- [新しいユーザーの作成] ツールバー ボタン 🍄 をクリックして、ユーザー 作成ウィザードを起動します。
- 175 ページのウィザードの手順に従って、コンソール ユーザーを追加します。
 - ユーザー ID には、予約文字(アンダースコア"_"、スペース、 スラッシュ "/" または "¥")を含めることはできません。予約文 字は、ユーザー ID が生成されるときに自動的に削除されます。 たとえば、ユーザー ID として jdoe_1 を作成しようとすると、 jdoe1 が作成されます。

コンソール ユーザーの削除

 コンソール ユーザーを削除するには、最初にユーザーをリストから選択して、 [ユーザーの削除] ツールバー ボタン ※ をクリックします。

コンソール ユーザーの詳細の表示および変更

ユーザー ID をクリックして、コンソール ユーザーの詳細を表示します。 [ユーザーの詳細] ウィンドウから、表示名、説明、およびパスワードを変更でき ます。必ず[保存]をクリックして、変更を確定します。

nin		
44 40		
16載 このつらぜらに対して下記	つい (ニット) かたず 声し マイゼ ヨ い	
このユーリーにNOUIFill 必須フィールド*	WITH THE COURSE COURSE	
ユーザー ID:	admin	
表示名:*	Administrator	
11月 11	This user has complete access to the system.	
		保存」!
パスワードの変更		
パスワード・		
し バスワードの確認 :*		

コンソール パスワードの変更

コンソール ユーザーを作成するときに、コンソール アクセス パスワードが定義さ れます。パスワードを変更するには、[ユーザーの詳細] ウィンドウを使用します。

コンソール パスワードを変更するには

1 ユーザー ID をクリックして、[ユーザーの詳細] ウィンドウを開きます。

- 2 [パスワードの変更] セクションで、表示されたテキスト ボックスに新しい パスワードを入力して確認します。
- **3 [保存]** をクリックします。

インフラストラクチャ

[インフラストラクチャ] セクションを使用して、インフラストラクチャ サー バーを管理します。インフラストラクチャ サーバー グループにデバイスを追加 してから、インフラストラクチャ サービスを配布して、サーバーを定義します。

インフラストラクチャ サーバーを実装すると、管理対象デバイスにデータ キャッシング サービスを提供することにより、バンド幅を最適化し、ネット ワーク パフォーマンスを向上させることができます。

管理対象デバイスは、自動的に最も効率的な接続を使ってインフラストラクチャ サーバーを検出し、そのサーバーを使用してデータ転送タスクを行います。これ により、ネットワーク上でのパフォーマンスの向上とバンド幅の最適化が実現さ れます。

インフラストラクチャ サーバーは、オペレーティング システム イメージを除く、要求されたデータをすべてキャッシュします。

図 23 インフラストラクチャ サーバー

12.							_		
検索:	デバイス	■ 含む	•	模語	索 リセット				
3	1 1 5 5 💥					10項目 💽 🚺 📢 🗍	1-3項目(共に	3項目) 🔽 》	N
	デバイス	モデル	IP アドレス	オペレーティング システム	サービス パック	インフラストラクチャ のステータス	作成日時	前回の変 更	4
	win2k3jp2	VMware Virtual Platform	16.157.133.68	Windows Server 2003	Service Pack 2	インストール済み	2007-12-20 23:03:56	2007-12-25 11:35:41	
	win2k3jp2.asiapacific.hpqcorp.net	VMware Virtual Platform		Windows Server 2003	Service Pack 2		2007-12-20 22:55:12	2007-12-25 11:35:15	
	test						2007-12-20 23:07:14	2007-12-20 23:07:14	
0 (180)アイテムが選択されました								

[インフラストラクチャ サーバー] ツールバーには、お使いの環境のインフラス トラクチャ サーバーの定義および設定に使用できるボタンがあります。

表 12 [インフラストラクチャ サーバー] ツールバー ボタン

ツール バー ボ タン	説明
2	データのリフレッシュ ー リスト データのリフレッシュ
unda L	デバイスの追加 - インフラストラクチャ サーバー グループへの デバイスの追加
	インフラのグループからデバイスの削除 - インフラストラク チャ サーバー グループからのデバイスの削除
	インフラストラクチャ サービスの配布 - インフラストラクチャ 配布ウィザードの起動
	インフラストラクチャ サービスの削除 - インフラストラクチャ 削除ウィザードの起動
×	デバイスの削除 - デバイスの削除

インフラストラクチャ サーバーは、インフラストラクチャ サーバー グループに 追加されたデバイスで、インフラストラクチャ サービスがインストールされて います。

次のセクションでは、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定の方法を説 明しています。

- インフラストラクチャサーバーの管理(139ページ)
- インフラストラクチャサービスの配布(140ページ)

インフラストラクチャ サーバーの管理

インフラストラクチャ サーバーとして追加するデバイスを選択する場合、以下 の考慮事項があります。

- デバイスには、パブリッシュされたサービスを保管するのに十分な領域が必要です。
- デバイスには、高性能の高速ネットワークカード(データ転送速度 100 MB または1GB)が必要です。

 デバイスは、そのネットワークへのダウンロードトラフィックをローカラ イズするサブネット上に存在する必要があります。

ツールバーを使用して、インフラストラクチャ サーバー グループでのデバイス の追加および削除を行います。

インフラストラクチャ サーバーを追加するには

- [インフラストラクチャ] ツールバーで、[デバイスの追加] ¹ ツールバー ボ タンをクリックします。[CCM インフラストラクチャ サーバー グループ メンバーシップ] ウィンドウが開き、CCM にインポートされた全デバイス のリストが表示されます。
- 2 リストからデバイスを選択して、[**デバイスの追加]** をクリックします。

追加されたデバイスが、インフラストラクチャ サーバー リストに表示されます。

インフラストラクチャ サーバーを削除するには

- [インフラストラクチャ] ツールバーで、インフラストラクチャ サーバー グ ループから削除するデバイスを選択します。
- [インフラのグループからデバイスの削除] 1 ツールバー ボタンをクリック します。

そのデバイスがグループから削除されます。

インフラストラクチャ サービスがインストールされたインフラス トラクチャ グループからデバイスを削除する場合、サービスが削 除されるまで、インフラストラクチャ サーバーとして機能し続け ます。サービスを削除するには、[インフラストラクチャ サービス の削除] ツールバー ボタンを使用します。

デバイスを追加したら、インフラストラクチャ サービスの配布を開始できます。 各サーバーでリモート データ キャッシングを開始するには、このサービスが必 要です。

インフラストラクチャ サービスの配布

インフラストラクチャ サービスを配布して、インフラストラクチャ サーバー デ バイスでリモート サービスを有効にします。

インフラストラクチャ サービスを配布するには

- 左のカラムのチェックボックスを使用して、インフラストラクチャサー バーリストからデバイスを選択します。
- 2 [インフラストラクチャ サービスの配布] 4 ツールバー ボタンをクリック して、インフラストラクチャ配布ウィザードを起動します。
- 3 178 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスにインフラスト ラクチャサービスを配布します。

サービスがインストールされたら、管理対象デバイスは、インフラストラクチャ サーバーがローカル サブネットにあるか、CCM サーバーより「近くに」あるかを、 自動的に検出します。デバイスは、インフラストラクチャ サーバーからリソー スを受信します。

インフラストラクチャ サーバーのローカル キャッシュで利用できないリソース をデバイスが要求するたびに、データが CCM サーバーから取得され、インフラ ストラクチャ サーバーのダイナミック キャッシュに保存されて、クライアント デバイスに提供されます。

インフラストラクチャ サービスを削除するには

- 1 左のカラムのチェックボックスを使用して、インフラストラクチャ サー バー リストからデバイスを選択します。
- 2 [インフラストラクチャ サービスの削除] ¹ ツールバー ボタンをクリック して、インフラストラクチャ削除ウィザードを起動します。
- 3 179 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスからインフラス トラクチャ サービスを削除します。

パッチ管理 - 設定

[パッチ管理] セクションを使用して、パッチおよび HP Softpaq の取得、パッチ 取得スケジュールの設定、およびパッチ取得設定の指定を行います。

エンタイトルメントを持っているパッチは、パッチ適合性探索ウィザードを使用 して指定した適合性探索スケジュールに基づいて、自動的に配布されます。パッ チは、パッチ配布ウィザードを使用して即時に配布できます。

図 24 [設定] タブの [パッチ管理] セクション

パッチ管理	
スケジュール 設定	
パッチ取得スケジュール	
現在のスケジュール:	スケジュールは設定されていません
	▶ パッチを今すぐ取得
スケジュールの作成/更新 :	
実行:	×時間ごと ▼
間隔:	1 🔽 時間
開始日:	2007 🗙 12月 🗙 14 💌 時間 22 💌 : 50 💌
現在のサーバー時刻:	2007-12-14 22:49:41 東京 (標準時)
	保存」リセット

次のセクションでは、各 [パッチ管理] タブについて説明します。

- パッチ取得スケジュールの設定(142ページ)
- パッチ取得設定の設定(143ページ)

パッチ取得スケジュールの設定

[スケジュール] タブを使用して、パッチの取得またはパッチ取得スケジュール の設定を行います。

最新のパッチを効率的に取得するため、パッチ取得スケジュールを1日 に1度だけオフピーク時に実行するよう設定することを推奨します。

[現在のスケジュール]は、現在設定されているパッチ取得スケジュールを示します。

パッチを取得するには

- [パッチを今すぐ取得]をクリックして、現在のパッチ取得設定に基づき、 パッチを取得します。パッチがダウンロードされ、パッチライブラリに保 管されます。
- 「パッチ管理」の「パッチ」タブで取得したパッチを確認します。

パッチ取得スケジュールを設定するには

1 付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。

- ― 実行:時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定 します。
- 間隔:特定の間隔(時間、日、または週)を選択します。
- 開始日:ドロップダウンリストを使用して、パッチ適合性を探索する日 を選択します。
- [現在のサーバー時刻]は、CCM サーバーの現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、**[保存]**をクリックして、変更をコミットします。

[現在のスケジュール]の後に、新しいスケジュールが表示されます。

パッチ取得設定の設定

[設定] タブを使用して、取得する Windows パッチおよび HP Softpaq の取得設 定を設定します。パッチは、HP および Microsoft から取得します。Softpaq は、 HP インスタント サポート技術を活用して取得します。

必須のフィールドにはアスタリスク(*)が付いています。

図 25 パッチ取得の [設定] タブ

パッチ管理		2
スケジュール 設定		
パッチ取得設定		
取得するバッチ タイプの取得設定を	行ってください。 ブリテンは HP とサード パーティ ベンダー ソースの両方から取得されます。	
必須フィールド・		
Microsoft ブリテン		
有効化:	latu 🔽	
取得するブリテン :*	MS07* 例:MS06* または MS06*,MS06*	
取得する言語 :*	enja Ø: en jzt-/st enje,fr	
HP Softpaq		
有効化:	UU VĀ 💌	
接続の設定		
Proxy Server のアドレス:	wwproxychn.hp.com/8088 Ø : http://praxyserver.8080	
プロキシのユーザー ID :		
プロキシのパスワード:		
		保存 リセット

パッチ取得設定を行うには

- 1 [Microsoft ブリテン] 領域に入力します。
 - [有効] ドロップダウン ボックスで [はい] を選択して Microsoft ブリテン を取得します。
 - [取得するブリテン] テキスト ボックスに、各探索期間にダウンロードす るブリテンを入力します。ブリテンの範囲を指定するには、ワイルド カード文字を使用します(MS05*など)。複数のブリテン検索を同時 に行うには、コンマで区切ります(MS05*, MS06*など)。
 - [取得する言語] テキストボックスに、ダウンロードするパッチに利用可能な各言語バージョンの言語コードを入力します。次の表を使用して、 適切な言語コードを確認します。複数の言語コードはスペースを入れず にコンマで区切ります(en,fr,ja など)。コードは大文字と小文字を区別します。

表13 言語コード

言語 = コード	言語 = コード	言語=コード
アラビア語 = ar	フランス語 = fr	ノルウェー語(ブークモー ル)= no
中国語(香港特別行政区)= zh-hk	ドイツ語 = de	ポーランド語 = pl
中国語(簡体字)= zh-cn	ギリシャ語 = el	ポルトガル語(ブラジル)= pt-br
中国語(繁体字)= zh-tw	ヘブライ語 = he	ポルトガル語(ポルトガ ル)= pt-pt
チェコ語 = cs	ハンガリー語 = hu	ロシア語 = ru
デンマーク語 = da	イタリア語 = it	スペイン語 = es
オランダ語 = nl	日本語 = ja	スウェーデン語 = sv
英語 = en	日本語(NEC)=ja-nec	トルコ語 = tr
フィンランド語 = fi	韓国語 = ko	

2 [HP Softpaq] 領域に入力します。
- [有効] ドロップダウン ボックスで [はい] を選択して HP Softpaq を取得します。
- [HP システム ID] テキスト ボックスで、どのデバイス関連 HP Softpaq を取得するか決定します。これには、テキスト ボックスに HP システム ID のリストを入力するか、またはテキスト ボックスの右にある [データ の取得] ボタン ▼ をクリックして、CCM のデバイスに基づいたシステ ム ID のリストを自動的に作成します。
- 3 必要な場合は、[接続の設定]領域に入力します。
 - ブリテンの取得元の [プロキシ サーバーのアドレス] を入力します (http://proxyserver:8080/ など)。
 - パッチを取得するときに使用する [プロキシのユーザー ID] および [プロ キシのパスワード] を入力します。

パッチ取得は、基本認証で設定されたプロキシ サーバーからしか 行えません。

4 [保存]をクリックして、変更を適用します。

最初のパッチ取得は、長時間かかる場合があります。

OS 管理

[OS 管理] セクションを使用して、オペレーティング システム配布の設定 を行います。

図 26 [設定] タブの [OS 管理] セクション

OS 管理	2
情報	
os 配布のための下記の設定を行ってください。これらの設定は、すべての os 配布処理に使用されます。	
警告 :オペレーティング システムを配布すると、ターゲット デバイスのハード ディスクおよびパーティションの数によっては、既存のデー ダが上書きされることがあります。 無人モードを選択する場合は、新しいオペレーティング システムを配布する前に、 ターゲット デバイス 上の既存データをパックアップしてください。	
プロパティ	
os 配布モード:	
保存しりセット	

OS 配布モードを設定するには

- [設定] タブの [OS 管理] セクションで、[OS 配布モード] を選択します。
 - ユーザーに確認する(有人) 配布プロセスを続行するには、オペレー ティングシステムの配布中にユーザーが管理対象デバイスがある場所に いる必要があります。
 - ユーザーに確認しない(無人) オペレーティング システム配布の間 に、管理対象デバイスではダイアログ ウィンドウが表示されません。 ユーザーとの対話は必要ありません。
- オペレーティング システム イメージを配布すると、ターゲット デバイ スのハード ディスクおよびパーティションの数によっては、既存のデー タが上書きされることがあります。[ユーザーに確認しない(無人)]を 選択する場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、既存 のデータを必ずバックアップしてください。
- オペレーティングシステムの配布中に設定を移行する場合、オペレー ティングシステムをインストールする前にデバイスの設定をバックアッ プする際、パスワードを入力する必要があります。
- [保存]をクリックして、変更をコミットします。
- OS 配布モードを変更すると、すべての新規およびスケジュール済み OS 配布ジョブに影響を与えます。

ハードウェア管理

[ハードウェア管理] セクションを使用して、HP Client Management Interface (CMI) 警告オプションおよび Trusted Platform Module (TPM) を設定します。

次のセクションでは、利用可能なハードウェア設定オプションを説明します。

- CMIの設定(147ページ)
- TPM の設定 (148 ページ)

CMI の設定

CMI Softpaq は、CCM Agent 配布の一部として、各 HP ターゲット デバイス にインストールされます。HP Client Management Interface (CMI) は、企業 管理者や IT プロフェッショナルに、HP ビジネスクラス デスクトップ、ノート ブックおよびワークステーションに対する高レベルの管理システムを提供します。

CMI のハードウェア固有の情報が取得され、レポートに利用できます。[レポート] タブの [表示オプション] セクションで [HP 固有のレポート] レポート ビューを使用して、CMI ハードウェア関連レポートを作成します。 (CMI 関連 のレポート オプションを表示するには、[インベントリ管理レポート]、[ソフト ウェア レポート]、[HP 固有のレポート] の順で選択します)。

CMI に関する詳細は、次を参照してください。

http://h20331.www2.hp.com/Hpsub/cache/284014-0-0-225-121.html

[CMI] タブを使用して、HP CMI 設定を変更します。変更した設定は、管理対象のクライアントが次に CCM インフラストラクチャに接続したときに、有効になります。



CMI は、特定の HP デバイス モデルでしか互換性がありません。互換 性に関する情報は、デバイスの説明を参照してください。

クライアント警告のレポートを有効にするには

- [クライアント警告のレポート] ドロップダウン リストから [有効] を選択して、
 管理対象 HP デバイスから取得したクライアント警告についてレポートします。
 警告レポートはデフォルトでは無効になっています。
- レポートする最低の警告重大度をドロップダウンリストから選択します。

クライアント デバイスにクライアント警告を表示するには

- [クライアント警告の表示] ドロップダウン リストから [有効] を選択して、 管理対象 HP デバイスでのクライアント警告をオンにします。警告はデフォ ルトでは無効です。
- クライアントデバイスに表示する最低の警告重大度を選択します。
- 警告をクライアント デバイスに表示する秒数を入力します。デフォルトでは、
 警告は5秒間表示されます。

TPM の設定

[TPM] タブを使用して、互換性がある HP デバイスに Trusted Platform Module チップを設定します。CCM_TPM_ENABLEMENT サービスを配布して、TPM の所有権を初期化し、これらの設定を適用します。ソフトウェア配布に関する情 報は、81 ページの「ソフトウェアの配布」を参照してください。

TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があ ります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインス トールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロードまたは購入 する必要があるものがあります。詳細は、ご使用のデバイス モデルの HP ドキュメントを参照してください。

TPM は、HP ビジネス PC のマザーボードに取り付けられたハードウェア セキュ リティ チップです。これは、HP ProtectTools Embedded Security の一部です。 詳細は、次を参照してください。

http://h20331.www2.hp.com/hpsub/cache/292199-0-0-225-121.html

TPM を設定するには

- 1 BIOS Admin パスワードおよび TPM Owner パスワードを入力します。
- 2 緊急リカバリトークンおよびパスワードリセットトークンを入力します。
- 3 [再起動の設定]を選択します。TPM チップが有効になった後で、デバイス が再起動されます。この設定は、エンドユーザーが行う対話のレベルを決 定します。
 - **許可のみ** 再起動の後、ユーザーは有効化を許可する必要があります。
 - 一 許可または拒否 再起動の後、ユーザーは有効化を許可または拒否で きます。
 - **サイレント** ユーザーは、再起動の後に有効化の確認を求められません。
- 4 バックアップアーカイブ、緊急リカバリアーカイブ、およびTPMパス ワードリセットアーカイブのファイルパスを入力します。
- **5 [保存]** をクリックします。

レポート

[レポート] セクションのタブを使用して、データベースの ODBC 設定の変更、 利用状況データ収集の設定、および利用状況収集フィルタの管理を行います。

- データベース (149ページ)
- 利用状況の設定(150ページ)
- 利用状況の収集 (150 ページ)
- メンテナンス (154 ページ)

図 27 [設定] タブの [レポート] セクション

レポート		2				
データベース利用状況の言	設定 利用状況の収集 メンテナンス					
ODBC 設定						
下記の ODBC 設定を行ってください。これらの設定は Client Configuration Manager サーバーの ODBC DSN の設定と一致する必要があります。						
必須フィールド*						
ODBC DSN :	CCMDB					
odbc のユーザー ID :*	58					
ODBC のパスワード :						
	保有	アレセット				

データベース

[データベース] タブを使用して、ODBC の設定を行います。これらの設定は CCM サーバーの ODBC DSN の設定と一致する必要があります。

必須のフィールドにはアスタリスク(*)が付いています。

ODBC を設定するには

- 1 表示されるテキスト ボックスに DSN ユーザー ID およびパスワードを入力 します。
- 2 [保存]をクリックして、変更をコミットします。

利用状況の設定

[利用状況の設定] タブを使用して、利用状況収集のパラメータを設定します。必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。 利用状況データは、収集エージェントが配布されたときに収集されます。アプリ ケーション利用状況収集ウィザードを使用して、エージェントを配布し、データ の収集を始めます。

利用状況の設定は、収集スケジュールの間に既存のクライアントデバイスに適 用されます。

難読化は、収集エージェントを配布する前に有効にしておく必要があり ます。エージェントを配布してから有効にすると、レポートデータの一 部が、難読化された状態や難読化されない状態で表示されます。

利用状況データを難読化するには

- 1 ドロップダウンボックスを使用して、どの利用状況データ情報を非表示に するかを選択します。
 - ー コンピュータ コンピュータ関連の情報を非表示にします。コン ピュータ名はランダムな英数字列としてレポートされます。
 - ユーザー ユーザー固有の情報を非表示にします。ユーザー名は [AnyUser] としてレポートされます。
 - ドメイン ドメイン情報。ドメイン名は、ランダムな英数字列として レポートされます。
 - 利用状況 利用回数および利用時間を非表示にします。実行ファイルの利用時間および起動回数はすべてゼロとレポートされます。
- 2 利用状況レポート内で難読化する利用状況情報の隣にある[**有効**]を選択し ます。
- 3 [保存]をクリックして、変更をコミットします。

利用状況の収集

[利用状況の収集] タブを使用して、利用状況収集フィルタの作成および管理を行います。

図 28 [利用状況の収集] タブ

		6	
_			
よって、CCM 利用状況収集エー	-ジェントがレポートのために提供する利用状況デー	ータが決まります。	
		_	
ノセット			
	10 項目 💌 🔰 🕥 1 - 7 項目(共に7 項目) 🔍 》 🔰		
有効化	前回の変更	÷	
はい	2007-12-25 10:06:38		
Itu	2007-12-25 10:06:36		
Itu	2007-12-25 10:06:34		
はい	2007-12-25 10:06:32		
はい	2007-12-25 10:06:31		
はい	2007-12-25 10:06:28		
14.4			
	よって、CCM 利用状況取集工- まって、CCM 利用状況取集工- 「たっト 「は、」 「は、」 「は、」 「は、」 「は、」 「は、」 「は、」 「は、」	よって、CCM 利用状況収集エージェントがレポートのために提供する利用状況デー 「10.7月日 ▼	

アプリケーション利用状況データを収集するには、Premium レベルのラ イセンスが必要です。

利用状況収集フィルタは、利用状況収集エージェントがどの利用状況データをレ ポートに利用できるようにするかを決定します。利用状況収集エージェントがデ バイスに配布されると、全アプリケーションの全利用状況データが収集されロー カルに保存されます。作成して有効にした利用状況フィルタが、ローカルの利用 状況データのどれを CCM に送信するかを決定します。アプリケーション利用状 況収集ウィザードを使用して、収集エージェントを配布し、収集スケジュールを 指定します。

利用状況収集エージェントがすでに配布されているときにフィルタを有効にすると、 フィルタが指定し、収集してローカルに保存されていた利用状況データがすべて CCM にレポート用に送信されます。

たとえば、利用状況収集エージェントが5月に配布され、フィルタが Microsoft Word に対して有効になると、Microsoft Word の利用状況データすべてが、指 定したスケジュールに基づいて CCM へ送信されます。さらに6月に、 Microsoft Excel に対して新しいフィルタを作成し、有効にすると決めました。 次に利用状況データが CCM に送信されるとき、5月に初めて利用状況収集エー ジェントがインストールされた日から6月の現在の日付までの、収集されロー カルに保存されていた Excel 利用状況データもすべて送信されます。その後、 両方のアプリケーションについて、利用状況の送信が続きます。

利用状況データは、12 か月の間、管理対象デバイスでローカルに保存されます。

利用状況収集フィルタの設定手順は、次を参照してください。

- 利用状況収集フィルタの設定(152ページ)
- 利用状況条件の定義(153ページ)

利用状況収集フィルタの設定

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタ を作成します。既存のフィルタを変更するには、[フィルタの詳細] ウィンドウを 使用してください。

CCM にはデフォルトで、あらかじめ設定された収集フィルタが備えられています。 新しいフィルタを作成するモデルにこれらのフィルタを使用したり、ニーズに合 うようにこれらのフィルタを変更したりできます。

ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。利用状況情報がほしいアプリケーションについてだけ、データを収集するフィルタを作成するように、強く推奨します。

全アプリケーションについて利用状況データを収集するのは、避けてく ださい。

収集フィルタを作成するには

- 1 [利用状況] タブで、**[新しいフィルタの作成]** アールバー ボタンをクリックして、利用状況収集フィルタ作成ウィザードを起動します。
- 2 177 ページのウィザードの手順に従って、新しい収集フィルタを作成し有効 にします。

収集フィルタを有効にするには

- フィルタリストで、フィルタの説明の左にあるボックスをクリックし、有効にするフィルタを選択します。
- 2 [選択したアイテムの有効化] 🥯 ツールバー ボタンをクリックします。
- **3 [保存]** をクリックします。

既存のフィルタを変更するには

- 1 フィルタリストで、フィルタの説明リンクをクリックして、[フィルタの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [フィルタ条件]領域に、利用状況データを収集するときに使用する具体的な フィルタ条件を入力します。どの条件を選択するか決定するためのアドバイ スは、153ページの「利用状況条件の定義」を参照してください。
- 3 [保存] をクリックします。

利用状況条件の定義

利用状況収集エージェントは、ローカルの各実行可能ファイルのファイル ヘッ ダー情報を使用して、そのアプリケーションが定義されたフィルタ条件に適合す るか判断します。フィルタを定義するときに、ファイル ヘッダー情報を使用して、 どの条件を使用するか決定できます。

ファイル ヘッダー情報を決定するには

- 1 システムの実行可能ファイルを右クリックします。
- 2 ショートカットメニューから [**プロパティ**]を選択します。
- 3 [プロパティ] ウィンドウで [バージョン] タブをクリックします。

図 29 アプリケーションの [プロパティ] ウィンドウ

notepad.exeのプロパテ	4		? ×			
全般 バージョン情報	互換性 セキュリティ	概要				
ファイル バージョン: !	5.2.3790.1830					
≣兑 ^田 月:	Notepad					
著作権:	著作権: (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.					
詳細 項目: マイルバージョン 会社名 言語 止式アイル名 製品パージョン 製品パージョン 製品パージョン 製品パージョン	値: NOTEPi	4D.EXE	×			
	OK	キャンセル	道用(<u>A</u>)			

[項目名] および [値] 領域に含まれる情報を利用状況収集エージェントが使用して、 利用可能な利用状況データにフィルタを適用します([言語] および [内部名] の 各項目は、現在サポートされていないので除外されます)。



すべての実行可能ファイルが、ファイルヘッダーに格納された値をサポートし、正しく取得するわけではありません。

次の例は、特定のアプリケーションについて検索するフィルタの作成方法を説明 しています。

notepad.exe の利用状況データにフィルタを設定するには

- 1 利用状況収集フィルタ作成ウィザードを起動して、新しい利用状況フィルタ を作成します。
- 2 [プロパティ]の手順で、次のフィルタ条件を定義します。
 - 説明:Notepad
 - 有効:はい
 - ファイル/アプリケーション名: notepad.exe
- 3 利用状況収集エージェントを管理対象デバイスに配布します。管理対象デバイスへのソフトウェア配布に関する指示は、81ページの「ソフトウェアの 配布」を参照してください。

利用状況データが毎週 CCM に送信され、これには収集エージェントがイン ストールされている全デバイスに対する Notepad の利用状況データすべて が含まれます。

メンテナンス

[メンテナンス] タブは、CCM にレポート データが格納されているデバイスがす べて表示されます。[メンテナンス] タブ ツールバーを使用して、CCM データ ベースにはすでに存在しないデバイスのレポート データをクリーン アップします。

デバイスのレポート データを削除するには

- 1 [メンテナンス] タブで、CCM からレポート データを削除するデバイスを選 択します。
- 2 [レポートデータの削除] 💥 ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 レポート データが CCM から削除されます。

あるデバイスのレポート データが削除されると、そのデータはレポートの 生成に利用できなくなります。

アクティブに管理されているデバイスのレポート データを削除す る場合、レポート データの矛盾を避けるため、削除してから、そ のデバイスに管理エージェントを再配布します。

7 ウィザード

CCM を使用する際、多くの異なるウィザードを使用して、エージェントの配布、 デバイスの追加、グループの作成、およびその他の作業を行います。このセク ションでは、各ウィザードの個別の手順について説明します。

ウィザードには、コントロールパネルの複数の領域から起動できるもの があります。

- デバイス インポート ウィザード (158 ページ)
- エージェント配布ウィザード (159 ページ)
- エージェント削除ウィザード (160ページ)
- ソフトウェア/ハードウェアインベントリウィザード(161ページ)
- パッチ適合性探索ウィザード (162ページ)
- アプリケーション利用状況収集ウィザード (162 ページ)
- 電源管理ウィザード (163 ページ)
- グループ作成ウィザード (165 ページ)
- リモート制御ウィザード (168ページ)
- ソフトウェア配布ウィザード (169 ページ)
- サービス インポート ウィザード (170 ページ)
- サービス エクスポート ウィザード (170 ページ)
- ソフトウェア同期ウィザード (171ページ)
- パッチ配布ウィザード (172 ページ)
- サービスエンタイトルメントウィザード(173ページ)
- ソフトウェア削除ウィザード (174ページ)
- ユーザー作成ウィザード (175 ページ)
- OS 配布ウィザード (176 ページ)
- 利用状況収集フィルタ作成ウィザード (177 ページ)
- インフラストラクチャ配布ウィザード (178ページ)

インフラストラクチャ削除ウィザード(179ページ)

ウィザードを実行したり通知を表示したりするときに、CCM コンソー ルが別のブラウザインスタンスを開く場合があります。これらのウィ ザードや通知にアクセスするには、ブラウザのポップアップブロック 設定で[許可されたサイト]に CCM を設定します。

デバイス インポート ウィザード

デバイスインポートウィザードを使用して、CCM データベースでのデバイスの探索および追加を行います。デバイスは、インポートされると、エージェント配布ウィザードを使用して管理の対象とすることができます。

デバイス インポート ウィザードを使用してデバイスをインポートするには

- ウィザードを起動するには、[デバイス管理] セクションの [一般] タブにある [インポート] をクリックするか、[デバイス] タブの [管理対象デバイスのインポート] 望 ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 ドロップダウン ボックスから [デバイス ソース] を選択します。
 - 手動インポート 表示されたボックスに、デバイスのホスト名または IP アドレスのリストを入力するか貼り付けます。
 - LDAP/Active Directory Active Directory や他の LDAP 互換ディ レクトリ サービスからデバイスを自動的にインポートするには、LDAP ホスト、ポート、ユーザー ID、パスワード(必要な場合)、およびク エリする DN を入力します。 また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限 を選択します。
 - ドメイン インポートするデバイスのネットワークドメインをスキャンするには、ドメイン名(たとえば、ABCドメインの完全ドメインスキャンにはABCと入力)またはドメイン名の一部とワイルドカード文字(ABC*とすると、ABCで始まるドメインから全デバイスが返されます)を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン¥デバイス」という構文を使用します。たとえば、Sales¥WS*は、SalesドメインのWSで始まるデバイスだけを返します。 ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符(!)を使用します。

たとえば、Sales,!Sales¥WS* は、WS で始まるデバイスを除く、Sales ドメインの全デバイスを返します。

- 4 **[インポート]** をクリックします。
- 5 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。 インポートされたデバイスは、[デバイス] タブに表示されます。

エージェント配布ウィザード

エージェント配布ウィザードを使用して、CCM データベースのデバイスに管理 エージェントを配布します。

ウィザードを起動するには、[デバイス管理] の [一般] 領域から **[配布]** をクリッ クするか、[デバイス] 領域から、エージェントを配布するデバイスを先に選択して、 **[管理エージェントの配布]** 🚰 ツールバー ボタンをクリックします。

エージェント配布ウィザードは、[グループ管理] の [グループ] 領域から、[**管理** エージェントの配布] ⁴ ツールバー ボタンをクリックしても起動できます。

エージェント配布ウィザードを使用して管理エージェントを配布するには

- 1 ウィザードを起動するには
 - [デバイス管理] にある [一般] タブの [配布] をクリックします。
 - [デバイス管理] にある [デバイス] タブの [管理エージェントの配布]
 ツールバー ボタンをクリックします。
 - [グループ管理] にある [グループ] タブの [管理エージェントの配布]
 ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 利用可能なデバイスがすべて表示されます。管理エージェントを配布する各 デバイスを選択して、[次へ]をクリックします。デバイスのリストの範囲を 絞り込むには、[検索]機能を使用します。
- 4 選択したデバイスに関する必要な情報を入力して、[次へ]をクリックします。
- 5 ウィザードが完了したらすぐにエージェントを配布するには、[実行:今すぐ] を選択します。または、[実行:後で]を選択して、エージェント配布の日付 と時刻を入力します。
- **6 [次へ]**をクリックします。

- 7 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 8 エージェント配布ジョブが作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィ ザードを終了します。

エージェント削除ウィザード

CCM データベースにあるデバイスから管理エージェントを削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。

管理エージェントを削除すると、ソフトウェアやパッチを配布したり、 そのデバイスの最新のインベントリ情報を収集したりすることができ なくなります。管理対象でないデバイスは、グループまたは CCM か ら削除されるまで、それぞれのグループに存在し、配布済みのすべて のソフトウェアを保持します。

エージェント削除ウィザードを使用して管理エージェントを削除するには

- 1 [デバイス管理]の[デバイス]タブ、または[グループ管理]の[グループ]タ ブからウィザードを起動します。
- 2 管理エージェントを削除するデバイスまたはグループを選択して、[管理 エージェントの削除] 望 ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ウィザードが完了したらすぐにエージェントを削除するには、[実行:今すぐ] を選択します。または、[実行:後で]を選択して、エージェント削除の日付 と時刻を入力します。
- **5 [次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 7 エージェント配布ジョブが作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィ ザードを終了します。

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィ ザード

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、選択したデバ イスについてソフトウェアとハードウェア インベントリを探索する、インベン トリ監査ジョブを作成します。

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを使用してインベントリ を探索するには

- ウィザードは [デバイス管理] の [デバイス] タブまたは [グループ管理] の [グループ] タブから起動します。[インベントリの収集] [▲] ツールバー ボタン をクリックして、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索] を選択 します。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 ウィザードが完了したらすぐにインベントリを探索するには、[実行:今すぐ] を選択します。または、[実行:後で]を選択して、インベントリ探索の日付 と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、['x'時間ごと]、 ['x'日ごと]、または['x'週ごと]を選択して、ドロップダウン ボックスから [間隔]を選択します。

反復ジョブスケジュールオプション(['x' 日ごと] など)は、グ ループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 4 そのデバイスで [LAN で起動] を有効にするかどうかを選択します。ドロッ プダウンボックスで [はい] を選択すると、CCM は、必要な場合、デバイ スの電源をオンにしてインベントリを探索します。
- 5 要約情報を確認し、[**サブミット**] をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィザードを終 了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[現在のジョブ]タブを使用します。

パッチ適合性探索ウィザード

パッチ適合性探索ウィザードを使用して、選択したデバイスおよびグループに対 するパッチ適合性スケジュールを設定します。

パッチ適合性を探索するには

- ウィザードは [デバイス管理] の [デバイス] タブまたは [グループ管理] の [グループ] タブから起動します。[インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタ ンをクリックして、[パッチ適合性の探索] を選択します。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 ウィザードが完了したらすぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、[実行:今すぐ]を選択します。または、[実行:後で]を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、['x'時間ごと]、['x'日ごと]、または['x'週ごと]を選択して、ドロップダウンボックスから[間隔]を選択します。



- 4 そのデバイスで [LAN で起動] を有効にするかどうかを選択します。ドロッ プダウン ボックスで [はい] を選択すると、CCM は、必要な場合、デバイ スの電源をオンにします。
- 5 要約情報を確認し、[サブミット]をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成されました。[**閉じる**]をクリックして、ウィザードを終 了します。

終了したら、[レポート] タブを使用して、選択したデバイスまたはグループに関 する適合性レポートを表示します。

アプリケーション利用状況収集ウィザード

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、ターゲット デバイスまた はグループのアプリケーション利用状況データを収集します。アプリケーション 利用状況収集ウィザードは、ターゲット デバイスに収集エージェントをインス トールして、ユーザーが作成し有効にしたフィルタに基づいて利用状況データを 返します。詳細は、150ページの「利用状況の収集」を参照してください。

アプリケーション利用状況データを探索するには

- ウィザードは [デバイス管理] の [デバイス] タブまたは [グループ管理] の [グループ] タブから起動します。[インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタ ンをクリックして、[アプリケーション利用状況の探索] を選択します。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 ウィザードが完了したらすぐにジョブを実行するようスケジュールを設定するには、[実行:今すぐ]を選択します。または、[実行:後で]を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、 ['x'時間ごと]、['x'日ごと]、または ['x' 週ごと] を選択して、ドロップダウンボックスから [間隔] を選択します。

反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グ ループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

週ごとのアプリケーション利用状況データの収集を推奨します。

- 4 そのデバイスで [LAN で起動] を有効にするかどうかを選択します。ドロッ プダウン ボックスで [**はい**] を選択すると、CCM は、必要な場合、デバイ スの電源をオンにします。
- 5 要約情報を確認し、[**サブミット**] をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成されました。[**閉じる**]をクリックして、ウィザードを終 了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[現在のジョブ]タブを使用します。

電源管理ウィザード

選択したデバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動する には、電源管理ウィザードを使用します。 リモートからデバイスの電源をオンにするには、コンピュータに Wake-On-LAN 機能が内蔵されている必要があります。Wake-On-LAN は、 CCM サーバーが、ネットワーク上にパケットを送信して、管理対象デバ イスの電源をリモートからオンにできる、管理ツールです。デバイスに、 リモートの起動機能を有効にするよう BIOS を設定する必要があります。 詳細は、ハードウェアのドキュメントを参照してください。HP デバイ スの BIOS 設定は、CCM を使用して変更および配布できます。詳細は、 226 ページの「BIOS 設定のパブリッシュ」を参照してください。

Windows XPe デバイスで電源オフ機能を選択すると、電源がオフになる 前に、1度デバイスが再起動します。これは、XPe デバイスの内部 キャッシュをクリアするために必要な、通常の動作です。

リモートからデバイスの電源オン、オフ、および再起動を行うには

- [デバイス管理]の[デバイス]領域、または[グループ管理]の[グループ]領域から、ウィザードを起動します。[電源管理] ⁽¹⁾ ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 ドロップダウン リストから電源管理機能を選択します。選択したデバイス の電源オン、オフ、または再起動が行えます。
 - 起動 選択したデバイスの電源をオンにします
 - **停止** 選択したデバイスの電源をオフにします
 - **再起動** 選択したデバイスを再起動します
- 4 このジョブの実行スケジュールを設定します。ジョブをすぐに実行するよう にスケジュールを設定するには、[実行:今すぐ]を選択するか、[実行:後で] を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を設定します。反復スケジュール を設定するには、['x'時間ごと]、['x'日ごと]、または ['x' 週ごと] を選択して、 ドロップダウン ボックスから [間隔] を選択します。
- 反復ジョブスケジュールオプション(['x' 日ごと] など)は、グループ 関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 5 要約情報を確認し、[**サブミット**] をクリックします。

6 ジョブが正常に作成されました。[**閉じる**]をクリックして、ウィザードを終 了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[現在のジョブ]タブを使用します。

グループ作成ウィザード

データベースにある管理対象デバイスのグループに、ソフトウェアまたはパッチ を配布する必要があります。グループ作成ウィザードを使用して、指定したデバ イス、探索したデバイス、またはレポートクエリの一部として返されたデバイ スに基づき、デバイス グループを定義します。

グループ作成ウィザードの手順は、作成するグループのタイプにより異なります。 次のセクションで各タイプについて説明します。

- スタティック グループの作成 (165 ページ)
- ダイナミック探索グループの作成 (166 ページ)
- ダイナミックレポートグループの作成(167ページ)

スタティック グループの作成

スタティック グループを作成するには

- [グループ管理]の[一般] タブから [新しいスタティック グループの作成] を クリックするか、[グループ] タブから [新しいスタティック グループの作成] ツールバー ボタン ■ をクリックして、ウィザードを起動します。
- **2 [次へ]**をクリックして、グループの作成を開始します。
- など、グループにわかりやすい名前を入力します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 グループに含めたいデバイスを選択するには、該当する各デバイスの最初の カラムのボックスをチェックします。必要な場合、デバイスのリストの範囲 を絞り込むには、[検索]機能を使用できます。
- **6 [次へ]**をクリックします。

- 7 要約情報を確認します。選択したデバイスの数が、[デバイス数] 要約と一致 することを確認します。グループを変更する必要がある場合、[前へ] をク リックします。
- **8 [作成]** をクリックします。
- 9 グループが正常に作成されました。[**閉じる**]をクリックして、ウィザードを 終了します。

ダイナミック探索グループの作成

探索グループ メンバーシップは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に 発見されたデバイスをベースにしています。

ダイナミック探索グループを作成するには

- 1 [グループ管理]の[一般] タブから[新しい探索グループの作成]をクリック するか、[グループ] タブから[新しいグループの作成] ツールバー ボタン をクリックして、[新しいダイナミック探索グループの作成] を選択します。
- 2 [**次へ**]をクリックして、グループの作成を開始します。
- 3 Sales Domain Devices など、グループのわかりやすい名前を入力します。
- 4 **[次へ]**をクリックします。
- 5 探索ソースを選択します。
 - LDAP/Active Directory LDAP ホストおよびポート番号、ユー ザー ID、パスワード(必要な場合)、およびクエリする DN を入力し ます。

また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限 を選択します。

ドメイン - インポートするデバイスのネットワークドメインをスキャンするには、ドメイン名(たとえば、ABCドメインの完全ドメインスキャンにはABCと入力)またはドメイン名の一部とワイルドカード文字(ABC*とすると、ABCで始まるドメインから全デバイスが返されます)を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン¥デバイス」という構文を使用します。たとえば、SalesFWS*は、SalesドメインのWSで始まるデバイスだけを返します。ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符(!)を使用します。たとえば、Sales,!SalesFWS*は、WSで始まるデバイスを除く、Salesドメインの全デバイスを返します。

- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
 - 実行:時間、日、週など一定の間隔でダイナミック グループ メンバー シップを更新するかどうかを設定します。
 - **間隔**:特定の間隔(時間、日、または週)を選択します。
 - 開始日:ドロップダウンリストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。
 - [現在のサーバー時刻]は、CCM サーバーの現在の時刻を表示します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 要約情報を確認し、[作成]をクリックします。
- 10 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

探索グループは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバ イスを含むように作成されます。発見されたデバイスがすでに CCM の一部でな かった場合、自動的にデバイス リストに追加されます。このグループのデバイ ス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新され ます。

ダイナミック レポート グループの作成

レポート グループは、レポート クエリで返されたデバイスを使用して、作成さ れます。

ダイナミック レポート グループを作成するには

- [レポート] 領域のアクション バーからウィザードを起動します。[新しいダ イナミック レポート グループの作成] [■] をクリックします。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 グループの名前を入力して、[次へ]をクリックします。
- 4 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
 - ― 実行:時間、日、週など一定の間隔でダイナミック グループ メンバー シップを更新するかどうかを設定します。
 - 間隔:特定の間隔(時間、日、または週)を選択します。

- 開始日:ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。
- [現在のサーバー時刻]は、CCM サーバーの現在の時刻を表示します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[作成]**をクリックします。
- 7 レポートクエリの現在のデバイスを含む、レポートグループが作成されます。 このグループのデバイスメンバーシップは、設定したリフレッシュスケ ジュールに基づいて更新されます。
- 8 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

リモート制御ウィザード

リモート制御ウィザードを使用して、管理対象デバイスとのリモート セッショ ンを開始します。

リモート制御ウィザードを使用してリモート セッションを開始するには

- [リモート制御] 2 ツールバー ボタンをクリックして、[デバイス管理] の
 [デバイス] 領域からウィザードを起動します。[次へ] をクリックして、ウィ ザードを開始します。
- 2 利用可能なオプションからリモート制御方法を選択します。

Microsoft クライアント (RDP) - RDP (リモート デスクトップ プロト コル) は、Windows クライアント デバイスで利用可能なマルチチャンネル 対応のプロトコルです。RDP を使用して、RDP が有効なデバイス (Windows XP など) にリモートで接続できます。

VNC クライアント - VNC (仮想ネットワーク コンピュータ) は、オープン ソースのリモート制御アプリケーションです。VNC を使用して、VNC が インストールされ有効になっているクライアント デバイスにリモート接続 します。VNC を選択すると、[VNC Java ビューアポート] および [VNC リスンポート] を入力する必要があります。Windows デバイスにはデフォル ト値が提供されています (それぞれ 5800 および 5900) 。Embedded Linux シン クライアント デバイスでは、デフォルトのポートは通常 5801 および 5901 です。

3 リモート セッション ウィンドウの [画面サイズ] を選択します。

- 4 [接続] をクリックします。
- 5 リモート セッションが新しいウィンドウで開始されます。
- 6 [**閉じる**] をクリックして、ウィザードを終了します。

リモート セッションを終了したら、ウィンドウを閉じてデバイスとの接続 を解除します。

ソフトウェア配布ウィザード

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイス にソフトウェアのエンタイトルメント設定と配布を行います。

ソフトウェア配布ウィザードを使用してソフトウェアのエンタイトルメント設定 と配布を行うには

- [ソフトウェア管理]の[一般]領域で[配布]をクリックするか、[ソフトウェアの詳細]ウィンドウの[ソフトウェア]タブまたは[グループの詳細]ウィンドウで[ソフトウェアの配布] ⁽¹⁾ ツールバーボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 最初のカラムのボックスをチェックして、エンタイトルメント設定と配布を 行うソフトウェアを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 最初のカラムのボックスをチェックして、エンタイトルメントが設定され配 布の対象となるグループを選択します。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 ソフトウェア配布ジョブの実行スケジュールを設定します。ソフトウェアを 今すぐ配布するには [実行:今すぐ]を、ソフトウェア配布の日付と時刻を スケジュール設定するには [実行:後で]を選択します。反復スケジュール を設定するには、['x'時間ごと]、['x'日ごと]、または ['x' 週ごと] を選択して、 ドロップダウン ボックスから [間隔] を選択します。

反復ジョブスケジュールオプション(['x' 日ごと] など)は、グ ループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

8 [次へ] をクリックします。

- 9 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 10 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在のソフトウェア配布ジョブを表示します。
- 11 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

サービス インポート ウィザード

サービス インポート ウィザードを使用して、CCM サーバー マシンの ChangeControl ディレクトリからソフトウェア、パッチ、または OS ライブラ リヘサービスをインポートします。

サービス インポート ウィザードを使用してサービスをインポートするには

- [ソフトウェア管理]の[ソフトウェア]領域、[パッチ管理]の[パッチ]領域、 または [OS 管理]の[オペレーティング システム]領域から、[サービスのイ ンポート] ² ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 インポートするサービスを選択します。CCM サーバーの ChangeControl ディレクトリ内で利用可能なサービス デッキがすべてリストに表示されます。

各サービスのファイル名の4番目の部分に、そのソフトウェア、パッチ、ま たは OS のわかりやすい名前が含まれています。たとえば、 PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCAは、Orca ソフトウェア アプリ ケーション用のサービス デッキです。

- 4 要約情報を確認し、[インポート]をクリックします。
- 5 サービスがインポートされ、CCM ライブラリ内で利用可能になります。
- 6 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

サービス エクスポート ウィザード

サービス エクスポート ウィザードを使用して、CCM ソフトウェア、パッチ、 または OS ライブラリから、CCM サーバー マシンの ChangeControl ディレク トリへ、サービスをエクスポートします。 サービス エクスポート ウィザードを使用してサービスをエクスポートするには

- エクスポートするサービス(ソフトウェア、パッチ、またはOS)を選択します。
- 3 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 要約情報を確認し、[エクスポート]をクリックします。
- 5 サービスが、CCM サーバーの ChangeControl ディレクトリにエクスポートされます。
- 6 [**閉じる**] をクリックして、ウィザードを終了します。

各サービスのファイル名の4番目の部分に、そのソフトウェア、パッチ、また は OS のわかりやすい名前が含まれています。たとえば、 PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCAは、Orca ソフトウェアアプリケー ション用のサービス デッキです。

ソフトウェア同期ウィザード

ソフトウェア同期ウィザードを使用して、ソフトウェア同期ジョブを作成します。 このジョブは、ソフトウェアをインストールしていないグループメンバーに、エン タイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて自動的に配布します。また、 ソフトウェア同期ジョブは、新しいグループメンバーが全員、エンタイトルメン トが設定されたソフトウェアをすべて受信するようにします。

ソフトウェア同期ジョブを作成するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウの [ソフトウェア] タブで、[ソフトウェアの同期] ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 ソフトウェア同期ジョブの実行スケジュールを設定してください。すぐに ジョブを実行するようスケジュールを設定するには、[実行:今すぐ]を選択 します。または、[実行:後で]を選択して、ジョブの日付と時刻を設定します。 反復スケジュールを設定するには、['x'時間ごと]、['x'日ごと]、または['x' 週ごと]を選択して、ドロップダウンボックスから[間隔]を選択します。

反復ジョブスケジュールオプション(['x' 日ごと] など)は、グ ループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 3 [LAN で起動] ドロップダウン リストを使用して、グループのデバイスについて [LAN で起動] を有効にします。これにより、CCM は、必要なジョブアクションを実行するため、デバイスの電源をオンにできます。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]**をクリックします。
- 5 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

パッチ配布ウィザード

パッチ配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにパッ チのエンタイトルメント設定と配布を行います。

パッチ配布ウィザードを使用してパッチのエンタイトルメント設定と配布を行う には

- [パッチ管理]の[一般] タブで[配布] をクリックするか、[パッチ ライブラ リ] 領域の [パッチの詳細] または [グループの詳細] ウィンドウで [パッチの 配布] ⁴ ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 配布メソッドを選択します。

適合性の強制 – どのパッチがターゲットデバイスに適用可能か判断するには、この方法を選択します。適用可能なパッチのみがインストールされます。新しいパッチがデバイスにエンタイトルメント設定されると、このジョブが次回実行されるときに、そのパッチがインストールされます。継続的にパッチ適合性を強制するには、反復スケジュールを作成する必要があります。

手動選択 - ターゲットデバイスにパッチを配布するには、この方法を選択 します。パッチがデバイスに適用できない場合、ジョブはエラーにより終了 することがあります。反復適合性スケジュールを作成せずに、1度だけター ゲットデバイスにパッチを配布するには、この方法を使用します。

- 4 最初のカラムのボックスをチェックして、エンタイトルメント設定と配布を 行うパッチを選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。

- 6 最初のカラムのボックスをチェックして、エンタイトルメントが設定され配 布の対象となるグループを選択します。
- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 このジョブの実行スケジュールを設定します。すぐにジョブを実行するよう スケジュールを設定するには、[実行:今すぐ]を選択します。または、[実行:後で]を選択して、ジョブの日付と時刻を設定します。反復スケジュー ルを設定するには、['x'時間ごと]、['x'日ごと]、または['x'週ごと]を選択 して、ドロップダウンボックスから[間隔]を選択します。



- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 11 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在のパッチ配布ジョブを表示します。
- 12 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

サービス エンタイトルメント ウィザード

サービス エンタイトルメント ウィザードは、デバイスのグループにソフトウェア、 オペレーティング システム、およびパッチ サービスのエンタイトルメントを設 定します。

サービス エンタイトルメント ウィザードを使用してグループ エンタイトルメン トを追加するには

[パッチ管理]の[パッチ] タブ、または [OS 管理]の [オペレーティング システム] タブからウィザードを起動します。

- グループにエンタイトルメントを設定するパッチを選択して、[グループエンタイトルメントの追加] ジョツールバー ボタンをクリックします。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。

- 3 左のカラムのチェックボックスをクリックして、サービスへのエンタイト ルメントを受けるグループを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 要約情報を確認し、[サブミット]をクリックします。
- 6 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在のソフトウェア削除ジョブを表示します。
- 7 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア削除ウィザード

ソフトウェア削除ウィザードは、選択したデバイスまたはグループからソフト ウェアをアンインストールします。

ソフトウェア削除ウィザードを使用してソフトウェアを削除するには

- 1 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウまたは [グループの詳細] ウィンドウから、 削除するソフトウェアを選択します。
- 2 [**ソフトウェアの削除**] ⁽¹⁾ ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを 起動します。
- 3 [**次へ**]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ソフトウェア削除ジョブの実行スケジュールを設定します。ソフトウェアを 今すぐ削除するには [実行:今すぐ]を、ソフトウェア削除の日付と時刻を スケジュール設定するには [実行:後で]を選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、[**サブミット**] をクリックします。
- 7 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在のソフトウェア削除ジョブを表示します。
- 8 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

ユーザー作成ウィザード

ユーザー作成ウィザードは、コンソール ユーザーを追加します。

ユーザー作成ウィザードを使用して追加のコンソール ユーザーを作成するには

- [設定] タブの [コンソールへのアクセス] セクションで、[新しいユーザーの 作成] ⁴ ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 jdoe などを [ユーザー ID] に入力します。この ID を使用して、コンソール にログインします。
 - ユーザー ID には、予約文字(アンダースコア "_"、スペース、ス ラッシュ "/" または "¥")を含めることはできません。予約文字は、 ユーザー ID が生成されるときに自動的に削除されます。たと えば、ユーザー ID として jdoe_1 を作成しようとすると、jdoe1 が作成されます。
- 4 [表示名] を入力します。これは、管理ジョブの [作成者] フィールドに表示 される名前です。
- 5 オプションで、ユーザーの[説明]を入力します。
- 6 [パスワード] を入力して、[パスワードの確認] テキスト ボックスでパス ワード入力を確認します。
- 7 [作成] をクリックします。
- 8 ユーザーが正常に作成されました。

 ユーザー ID が同じユーザーがすでに存在する場合、新しいユー ザーを作成できません。

9 [**閉じる**] をクリックして、ウィザードを終了します。

新しいコンソール ユーザーがユーザーのリストに表示されます。コンソール ユー ザーのプロパティを変更または表示するには、ユーザー ID をクリックします。

OS 配布ウィザード

OS 配布ウィザードは、オペレーティング システムを管理対象デバイスに配布します。オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードを選択するには、145ページ、[設定] タブの [OS 管理] セクションを参照してください。

OS 配布ウィザードを使用してオペレーティング システムを配布するには

- [OS 管理] セクションの [一般] 領域または [オペレーティング システム] 領 域で、[オペレーティング システムの配布] [●] ツールバー ボタンをクリック して、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。

OS 配布用に作成されたグループは、グループ内の全デバイスが 同様の、互換性のあるハードウェアを持っているなど、基本的な ガイドラインに従う必要があります。

- 3 オペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布用のグ ループを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 このジョブで使用する OS 配布メソッドを選択します。
 - Local Service Boot (LSB): OS を配布するために LSB をインス トールする場合、このオプションを選択します。ローカル サービスの起 動を使用すると、既存のマシンは PXE 対応である必要がなく、各ター ゲット デバイスについて、起動の順序を BIOS でローカルに設定する必 要がないという利点があります。
 - ー ローカル CD または PXE サーバー: デバイスにオペレーティング シス テムをインストールするのに PXE サーバーまたはサービス CD を使用 する場合は、このオプションを選択します。
- 6 Premium ライセンスがインストールしてある場合、ユーザーデータと設定の移行を行うかどうかを選択する画面が表示されます。[はい]を選択すると、オペレーティングシステムと一緒に Settings Migration Utility が配布されます。オペレーティングシステムの配布の間に、Settings Migration Utility が起動し、ユーザーに設定をバックアップするように表示します。新しいオペレーティングシステムがインストールされた後、設定を復元するため、Settings Migration Manager サービスをデバイスに配布します。詳細は、251ページの「Settings Migration」を参照してください。

- OS 配布に無人モードを使用して、Settings Migration を選択した場合、 このプロセスも無人で実行されます。コンピュータ名およびパスワード といった、Settings Migration に必要な情報は、自動的に生成されます。 エンドユーザーは、Settings Migration Utility のオペレーティングシ ステムの移行からの復元機能を使用して、OS 無人配布の間に保管された 設定を復元します。
- 7 このジョブの実行スケジュールを設定します。OS を今すぐ配布するには [実行:今すぐ]を、OS 配布の日付と時刻をスケジュール設定するには [実行:後で]を選択します。反復スケジュールを設定するには、['x'時間ごと]、 ['x'日ごと]、または ['x' 週ごと] を選択して、ドロップダウン ボックスから [間隔] を選択します。

反復ジョブスケジュールオプション(['x' 日ごと] など)は、グ ループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 8 追加のジョブ タスクは [その他のパラメータ] セクションで設定します。
- **9 [次へ]**をクリックします。
- 10 要約情報を確認し、[サブミット]をクリックします。
- 11 ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。[現在のジョブ] タブをクリックして、現在の **OS** 配布ジョブを表示します。
- 12 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

利用状況収集フィルタ作成ウィザード

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタ を作成します。

新しい収集フィルタを作成するには

- [設定] タブの [レポート] セクションにある [利用状況の収集] タブの [新しい フィルタの作成] ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 [次へ] をクリックします。

3 各テキスト ボックスに条件を入力して、フィルタ パラメータを設定します。 利用状況データをフィルタを適用するフィールドにだけ値を入力します。空 のテキストボックスは無視され、フィルタ条件として使用されません。

入力した値が、ソフトウェアの実行可能ファイルのファイル ヘッダーと比較 され、収集された利用状況データがフィルタ条件に合致するか判断されます。

特定のソフトウェアにフィルタを適用する方法を決めるには、153ページの 「利用状況条件の定義」を参照してください。

50を超えるアプリケーションについてデータを収集し、報告するようにフィルタを設定すると、大量のデータが収集され、結果的にレポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。

- 4 [作成] をクリックします。
- 5 [**閉じる**] をクリックします。

新しいフィルタが、収集フィルタ リストに追加されます。

インフラストラクチャ配布ウィザード

インフラストラクチャ配布ウィザードを使用して、データ キャッシングなどの リモート サービスが可能になるインフラストラクチャ サービスをインフラスト ラクチャ サーバーにインストールします。

インフラストラクチャ サービスを配布するには

- [設定] タブの [インフラストラクチャ] セクションにある [インフラストラク チャ サービスの配布] ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起 動します。
- **2 [次へ]**をクリックします。
- 3 配布の資格情報を入力して、[次へ]をクリックします。
- インフラストラクチャ サービスをインストールするドライブを選択して、 [次へ] をクリックします。
- 5 このジョブの実行スケジュールを設定します。サービスを今すぐ配布する には [実行:今すぐ]を、配布の日付と時刻をスケジュール設定するには [実行:後で]を選択します。

- **6 [次へ]**をクリックします。
- 7 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 8 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

インフラストラクチャ削除ウィザード

インフラストラクチャ削除ウィザードを使用して、インフラストラクチャ サー バー グループのデバイスからインフラストラクチャ サービスを削除します。

インフラストラクチャ サービスを削除するには

- [設定] タブの [インフラストラクチャ] セクションのツールバーからウィザー ドを起動します。
- インフラストラクチャ サービスを削除するデバイスを選択して、[インフラ ストラクチャ サービスの削除] ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 [**次へ**]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ウィザードが完了したらすぐにサービスを削除するには、[実行:今すぐ]を 選択するか、[実行:後で]を選択して、エージェント削除の日付と時刻を入 力します。
- 5 **[次へ]**をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 7 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。
8 OS イメージの準備と取得

Image Preparation Wizard を使用して、お使いの環境にあるデバイスに配布す るため、オペレーティング システム イメージを準備し取得します。イメージを 取得したら、Publisher を使用して CCM にパブリッシュします。

ウィザードを実行すると、イメージと関連付けられているインベントリ情報を収 集し、イメージファイルを CCM サーバーの¥upload ディレクトリ(デフォル トでは C:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload)に送信します。



パフォーマンスの問題を避けるため、イメージは、非プロダクション環 境にある CCM サーバーに送信します。

Image Preparation Wizard は、CCM メディアの

OSManagement¥ISO¥CaptureCDディレクトリにある ImageCapture.iso ファ イルの一部として利用可能です。

• 始める前に、このファイルから Image Preparation Wizard CD を作成します。

準備と取得の手順は、オペレーティング システムにより異なります。OS 特有の 手順は、下の適切なセクションを参照してください。

- Windows OS $\prec \checkmark \checkmark$ (181 $\sim \checkmark$)
- シン クライアントの OS イメージ (192 ページ)

Windows OS イメージ

次のセクションでは、Windows オペレーティング システムのイメージを準備し て取得する方法を説明しています。

- 手順1-参照マシンの準備(182ページ)
- 手順 2 応答ファイルの作成 (184 ページ)
- 手順 3 Image Preparation Wizard の実行 (186 ページ)

手順1-参照マシンの準備

参照マシン(オペレーティング システムのイメージを作成するため使用される マシン)で作成されたイメージが、ターゲット デバイスに配布されます。 Image Preparation Wizard (prepwiz.exe)を使用してイメージを作成する前に、 以下を実行します。

1 参照マシンで、そのオペレーティングシステムの元の製品メディアからイン ストールを実行します。参照マシンは、インストールするオペレーティング システムを実行できる必要があります。参照マシンが DHCP を使用してい ることを確認します。



2 必要に応じて OS をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な 複数のアプリケーションのインストールが含まれる場合があります。必ず OS およびアプリケーションの最新のサービスパックも含めてください。イ メージを配布するデバイスの全設定に必要なドライバをすべて必ず含めてく ださい。次の Microsoft サポート技術情報の記事には、Windows OS のイン ストールに OEM ドライバを含めることに関する情報が記載されています。

http://support.microsoft.com/kb/314479/ja

▶ Windows XP イメージは、最低でも Service Pack 1 を必要とします。

3 管理エージェントを参照マシンに配布するか、CCMメディアを使用して手動でエージェントをインストールする必要があります。イメージが配布されるときにデバイスが CCM サーバーに接続するために、エージェントが必要です。

その他の推奨事項

- CCM サーバーへのアップロード プロセスが終了するまで、キーボードやマ ウスによる操作が数分間行われなくても、マシンの電源が切れないように、 BIOS の電源管理を設定してください。
- 2 イメージファイルのサイズはできるだけ小さくしておいてください。理想 的な設定は、オペレーティングシステムを収納できるだけの大きさパー ティションと、管理エージェント用の追加領域があるものです。



Image Preparation Wizard には、以下で説明するように、イメージファイルのサイズを小さく維持するためのいくつかのオプションがあります。

— OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する

パーティションのサイズを、より小さいサイズに変更します。

― 未使用のディスク スペースの圧縮を最適化する

システム ドライブ パーティションの終わりの空き容量をゼロにする場合は、Image Preparation Wizard で適切なオプションを選択します。

これにより、取得したイメージの圧縮率が大きくなり、サイズが小さく なります。イメージファイルのサイズが小さい方が、保存するディスク 領域が少なく、ネットワーク上を転送するバンド幅が小さくてすみます。

— イメージ ファイルをスパンする

イメージをスパンする場合は、Image Preparation Wizard で適切なオ プションを選択します。これは、イメージファイルが小さなセグメント に分割されることを意味します。スパンされたイメージの各セグメント のサイズは 4 GB に制限されます。これは、イメージを CCM サーバー に保存する場合、イメージ全体を 4 GB より小さくする必要があるとい う条件に対応できるので便利です。イメージをスパンするオプションを 選択しない場合は、イメージを 4 GB より小さくしてください。

さらに、以下の方法で、イメージのフットプリントを最小に抑えます。

空き領域を作成する。

できるだけ小さいディスク空き領域を持つできるだけ小さいパーティ ションを作成したら、Sysprep.infの[Unattended] セクションで ExtendOemPartition = 1 を設定します。これにより、ずっと大きいド ライブを持つターゲット デバイスで小さなイメージがインストールでき るようになります。ExtendOemPartition を 1 に設定すると、Microsoft ミニセットアップ ウィザードは、OS インストール パーティションを、 そのディスク上で、物理的に連続しパーティションが設定されていない 利用可能な領域に拡張します。管理エージェントは、そのボリュームの 空き領域をアプリケーションのインストールに使用できます。

- ― ラップトップを使用している場合はハイバネーションを無効にする。
- ページファイルを無効にする。
- ― システムの復元を無効にする。

OS イメージの準備と取得

手順2-応答ファイルの作成

応答ファイルを作成します。詳細は以下のセクションを参照してください。

- unattend.xml(Windows Vista 配布の場合)の準備 (184 ページ)
- Sysprep.inf の作成(非 Vista OS の場合のみ) (184 ページ)

unattend.xml (Windows Vista 配布の場合)の準備

サンプルの unattend.xml を、ImageCapture.iso から作成した Image Preparation CD の¥samples ディレクトリから、 C:¥windows¥system32¥sysprep にコピーします。このファイルは、お使いの環 境に合わせて変更が必要な場合があります。

Sysprep.inf の作成(非 Vista OS の場合のみ)

複製されたイメージを使用して Microsoft オペレーティング システムを配布す るため、Microsoft Sysprep をダウンロードします。



Sysprep の使用方法、Sysprep.inf の作成方法、および利用可能な パラメータについては、Microsoft のドキュメントで確認してくださ い。Windows XP および Windows 2000 の Microsoft Sysprep の情 報については、インストールメディアの ¥support¥tools¥deploy.cab に移動してください。Deploy.cab には3つのヘルプファイルがあります(Deploy.chmには、 Sysprep の詳細情報が含まれています)。

イメージ作成の最後の手順で、Image Preparation Wizard は、Microsoft Sysprep を実行します。これにより、イメージのセキュリティ識別子がすべて削除され、イメージがリセットされます。

オペレーティング システム イメージがターゲット デバイスに配布された後で ターゲット デバイスが起動されると、Microsoft ミニウィザードが自動的に実行 されます。Sysprep.inf からの応答を使用した後、Microsoft ミニウィザードは、 ターゲット マシンの Sysprep ディレクトリを削除します。

Sysprep をセットアップするには

 Microsoft オペレーティング システムのインストール メディアの SUPPORT¥TOOLS フォルダにある DEPLOY.CAB へ移動します。詳細は、 Microsoft のドキュメントを参照してください。

- 2 適切なオペレーティングシステムメディアを使用して、Deploy.cabファイルから Microsoft Sysprep ファイルを展開します。これらのファイルを参照マシンの C:¥SysPrep にコピーして、ディレクトリおよびファイルが読み取り専用に設定されていないことを確認します。
 - 最新バージョンの Sysprep を使用していることを確認してくだ さい。古いバージョンを使用すると、エラーが発生する場合があ ります。

適切なバージョンの Sysprep がない場合は、Microsoft の Web サ イトからダウンロードできます。

管理者権限を持っている場合でも、Sysprep を実行するための適切なユーザー権限を設定されていることを確認してください。 Microsoft Web サイトの記事#270032 「User Rights Required to Run the Sysprep.exe Program」を参照してください。適切な ユーザー権限がない場合、Sysprep を実行すると、次のエラーが 発生します。

「このアプリケーションを実行するには、管理者である必要があります。」

CM Image Preparation Wizard を終了し、適切なユーザー権限を セットアップしたら、再びウィザードを実行する必要があります。

- 3 Microsoft Sysprep を使用するために、参照マシンが、ドメインではなく WORKGROUP に所属していることを確認します。
- 4 Sysprep.inf を作成して、C:¥Sysprep に保存します。

Sysprep.inf を作成するには

sysprep.inf は手動で作成できます。または、Microsoft セットアップマネージャ(Setupmgr.exe)を使用して Sysprep ファイルを作成します。セットアップマネージャは、Microsoft OS 配布メディアにある SUPPORT¥TOOLS フォルダの Deploy.cab ファイルにあります。詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。

 Windows 2000 イメージを取得する場合、Sysprep.inf ファイルから [SYSPREPMASSSTORAGE] セクションを削除する必要があります。このセクションが削除されないと、「レジストリの更新中にエラーが発生しました。続行できません」というエラーが発生する場合があります。 サンプルの Sysprep.inf ファイルが、作成した Image Preparation CD (ImageCapture.iso) の ¥samples¥sysprep¥ ディレクトリにあります。



Sysprep.inf ファイルのサイズは 800 KB を超えてはなりません。

以下は Sysprep.inf ファイルを作成するときのヒントです。

- TimeZone の値 を環境に合わせて調整します。
- 管理者パスワードをセットアップします。
- ユーザーがターゲットデバイスに入力しなくて済むように、製品キーを作成します。
- 無人インストールを行うには、[Unattended] セクションに UnattendMode
 = FullUnattended を含めます。
- ExtendOemPartition を1に設定します。これにより、Microsoft Sysprep は、OSのパーティションをそのディスク上で、物理的に連続した、パー ティションが設定されていない空き領域へ拡張します。

Sysprep.infにJoinDomain が存在する場合、Sysprep.infはコンピュータを ドメインに接続する権限があるアカウントの管理ユーザー ID とパスワードを持っ ている必要があります。JoinDomain は大文字と小文字を区別することに注意し ます。

これらの手順を終了したら、**186**ページの「手順 **3** – Image Preparation Wizard の実行」を続行します。

手順 3 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は次のタスクを実行します。

- マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントが インストールされていることを確認します。182ページの「手順1-参照マ シンの準備」を参照してください。十分な空きディスク領域がない場合、 Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 参照マシンに関する情報(ハードウェアおよび BIOS の機能など)を含むオ ブジェクトを作成します。
- 3 サポートされている オペレーティング システムで Microsoft Sysprep を実行します(Windows XPe、CE、および Embedded Linux は、Sysprep を サポートしません)。

- 4 参照マシンを適切なメディアからブートされたサービスオペレーティング システムで再起動します。実行したサービス OS がイメージと関連ファイル を収集します。
- 5 以下のファイルを作成し、CCM サーバーの SystemDrive:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥CM¥IntegrationServer¥upload にコピーします。

Vista 以前のイメージを作成する場合、以下のファイルがアップロードされます。

- ImageName.IMG
 このファイルにイメージが含まれます。これは、非常に大きなハード
 ディスク ドライブ システムのブート パーティションをセクタごとにコ
 ピーして圧縮したファイルです。このファイルには、イメージがインス
 トールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれ
 ます。
- ImageName.MBR このファイルには参照マシンのマスタブートレコードファイルが含ま れています。
- ImageName.PAR
 このファイルには、参照マシンのパーティションテーブルファイルが 含まれています。
- ImageName.EDM
 このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

Windows Vista のイメージを作成する場合、以下のファイルがアップロードされます。

— ImageName.WIM

このファイルには参照マシンの一連のファイルとファイル システムが含まれています。

— ImageName.EDM

このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布されると、包括的なログ(*machineID.*log)も *SystemDrive*:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥CM¥IntegrationServer¥uploadで使用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには



続行する前に、参照マシンを、CD-ROM ドライブからブートするよう に設定します。Image Preparation Wizard の CD-ROM はブート可能 なので、この設定が必要です。Image Preparation Wizard を実行する と、イメージを取得するために、デバイスが CD-ROM から起動する適 切なサービス オペレーティング システムで再起動されます。

- 作成した Image Preparation Wizard の CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します。この CD は、お使いの CCM メディアの OSManagement¥ISO¥CaptureCD ディレクトリにある ImageCapture.iso を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、CCM OS 準備と取得 CD のホームページが開きます。
- 3 **[ブラウズ]**をクリックして¥image_preparation_wizard¥win32¥ ディレク トリを開きます。
- 4 prepwiz.exe をダブルクリックします。
 - Windows Vista イメージを配布する場合、次のメッセージが表示される 場合がありますが、これは無視できます。

「このコンピュータには CM Application Manager がインストールされて いません。OS Manager 製品がインストールされているターゲット コンピュー タは管理できない可能性があります。」

- イメージを取得する場合、Image Preparation Wizard は
 C:¥Windows¥system32¥sysprep 内で Sysprep を検索し、管理エージェン
 トは CM Image Preparation Wizard によってイメージに挿入されます。
- Vista 以前のイメージを取得する場合、Image Preparation Wizard は、 続行する前に、C:¥Sysprep フォルダが存在するか、管理エージェント がインストールされているかを確認します。

CM Image Preparation Wizard が表示されます。

5 [次へ] をクリックします。

[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

6 [同意する] をクリックします。

[CM OS Manager Server を特定する] ウィンドウが表示されます。

7 CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。 これは、xxx.xxx.xxx.port という形式で指定する必要があります。 OS のイメージ作成用に予約されている CCM サーバーのポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が CCM サーバーに接続できない場合、メッ セージが表示されるので、以下の手順を実行する必要があります。

- [はい]をクリックして続行します。
- [いいえ] をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- [キャンセル] をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 8 [次へ] をクリックします。

[イメージ名] ウィンドウが開きます。

- 9 イメージファイルの名前を入力します。これは、CCM サーバーの /upload ディレクトリに保存されるイメージ名です。
- 10 [次へ] をクリックします。
- Vista 以前のオペレーティング システムを取得する場合、スパンされたイメージ ファイルを使用するサイズの入力を求める画面が表示されます。
 Windows Vista を取得する場合は、この手順をスキップできます。
- 12 [次へ] をクリックします。
- 13 テキスト ボックスを使用して、Sysprep オプションを入力または変更します。
- 14 **[次へ]** をクリックします。
- 15 イメージファイルの説明を入力し、[次へ] をクリックします。

[オプション] ウィンドウが表示されます。

16 適切なオプションを選択します。

Sysprep.inf に大容量ストレージ セクションをビルドする このチェック ボックスをオンにして、Windows 2000 以上の Sysprep.inf の [SysprepMassStorage] セクションに、大容量ストレー ジドライバのリストをビルドします。

大容量ストレージ ドライバのリストは、レジストリにインストールされ ます。これには約15~20分かかりますが、マシンのモデルおよびメー カーを越えたイメージ配布を成功させるため、基本的な大容量ストレー ジデバイスのドライバを提供します。

これらの入力内容にエラーがあると、この後の Sysprep の実行は失敗する場合があります。

OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する

このチェックボックスをオンにして、パーティションのサイズをできる だけ小さくするように変更します。このチェックボックスをオンにしな い場合は、パーティションのサイズが適切であるか確認してください。

未使用のディスクスペースの圧縮を最適化する このチェックボックスをオンにして、未使用ディスク領域の圧縮を最適 化します。これは、ディスクの終わりまでゼロを追加します。ハード ディスクのサイズにより、しばらく時間がかかる場合があるので注意し

てください。

17 デフォルトを受け入れて、[次へ]をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

18 [開始] をクリックします。

APIC マシンで作業している場合は、新しいウィンドウが開きます。

19 必要に応じてチェックボックスをオンにします。

Microsoft はこれを推奨していません。この選択を行う前に、
 Microsoft の Web サイトで詳細を確認してください。

20 [次へ] をクリックします。

前の手順でチェック ボックスをオンにした場合、[Windows CD の選択] ウィンドウが開きます。

- 21 Windows CD-ROM をブラウズします。
- 22 [次へ] をクリックします。
- 23 [完了] をクリックして、Sysprep を実行します。

Image Preparation Wizard により Sysprep が起動されます。これが完了するのに $15 \sim 20$ 分かかる場合があります。Sysprep は、完了するとマシン を自動的に再起動します。

24 [OK] をクリックします。 Sysprep が起動します。 Windows 2000 を使用している場合、画面では活動していないように見えても、Sysprepの実行に時間がかかっている場合があります。

Sysprep がデバイスを再起動した後、デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD を起動します。

このような動作になるように必要な設定の調整します(たとえば、BIOSの バージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内 の起動順序を変更できます)。

デバイスが CD を起動せずに Windows を起動する場合、上記の「
 手順1-参照マシンの準備」からプロセスを再開する必要があります。

イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合 がありますが、それは、アップロードではなく、イメージの圧縮 と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化(特に、空きディス ク領域が多くある場合)によるものです。これは、イメージの転 送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックに なりません。転送速度は、約 30 から 400 Kbps ですが、プロ セッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



25 Image Preparation Wizard は、ネットワークに接続され、CCM サーバー のイメージを ¥upload ディレクトリに保存します。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します」

26 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレー ティングシステムに戻ります。

これで、Publisher を使用して、管理対象デバイスへの配布のため、イメージ ファイルを CCM サーバーにパブリッシュできるようになりました。219 ページ の「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

シン クライアントの OS イメージ

次のセクションでは、サポートされているシン クライアント オペレーティング システムのイメージを準備し取得する方法を説明します。

- Windows XPe OS $\prec \checkmark \checkmark$ (192 $\sim \checkmark$)
- Windows CE OS $\prec \checkmark \checkmark$ (196 $\sim \checkmark$)
- Embedded Linux OS $\prec \checkmark \checkmark$ (200 $\sim \checkmark$)

Windows XPe OS イメージ

次のセクションでは、Windows XPe シン クライアント オペレーティング シス テムのイメージを準備して取得する方法を説明します。

- 手順 1 XPe 参照マシンの準備 (192 ページ)
- 手順 2 Image Preparation Wizard の実行 (193 ページ)

手順 1 – XPe 参照マシンの準備

イメージ取得のため XPe シン クライアントを準備するには、以下のものが必要 です。

- CCM メディア
- XPe Embedded Toolkit CD-ROM
- イメージ準備 CD-ROM

Windows XPe イメージを取得する前に、以下の操作を行う必要があります。

- 1 Windows XPe に管理者としてログインします。
- 2 XPe Embedded Toolkit から、etprep.exe を C: Windows にコピーします。
- 3 XPe Embedded Toolkit から、fbreseal.exe を C:¥Windows¥fba にコ ピーします。
- 4 管理エージェントをインストールします。

Windows XPe に管理エージェントをインストールするには

- Windows XPe シン クライアント デバイスから CCM メディアにアクセスします。
- CCM メディアで、SystemDrive: ¥ThinClient¥XPE に移動します。
- 3 setup.exe をダブルクリックします。
- 4 インストールの手順に従います。
- 5 **IP** アドレスとポート番号の入力を要求されたら、CCM サーバーの **IP** アドレスとポート番号を入力します。

管理エージェントがインストールされます。

手順 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントが インストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない 場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 参照マシンに関する情報(ハードウェアおよび BIOS の機能など)を含むオ ブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレー ティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを 収集します。
- 4 次のファイルを作成し、CCM サーバーの SystemDrive:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload にコピーします。
 - ImageName.IBR このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージ ファイルは、参照マシンのフラッシュドライブと同じサイズです。
 Windows XPe のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュドライブ を備えたターゲットマシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイルシステムが含まれます。
 - ImageName.EDM
 このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

これらのファイルが転送される間は、オペレーティングシステムイメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (*machineID*.log) も SystemDrive: ¥Novadigm ¥OSManagerServer ¥upload で利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します(シン クライアント デバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの CCM メディアの OSManagement¥ISO¥CaptureCD ディレクトリにある ImageCapture.iso を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、CCM OS 準備と取得 CD のホームページが開きます。
- 3 [**ブラウズ**] をクリックして¥image_preparation_wizard¥win32¥ ディレク トリを開きます。
- 4 prepwiz.exe をダブルクリックします。Image Preparation Wizard は、続行する前に、etprep.exe および fbreseal.exe が利用できるかどうかを 確認します。

[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

5 [次へ] をクリックします。

[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

- 6 [**同意する**] をクリックします。
- 7 CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、xxx.xxx.xxx.port という形式で指定する必要があります。 OS のイメージ作成用に予約されている CCM サーバーのポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が CCM サーバーに接続できない場合、メッ セージが表示されるので、以下の手順を実行する必要があります。

- [はい]をクリックして続行します。
- [いいえ] をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- [キャンセル] をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 8 **[次へ]**をクリックします。

[イメージ名] ウィンドウが開きます。

- 9 イメージファイルの名前を入力します。これは、CCM サーバーの¥upload ディレクトリに保存されるイメージ名です。
- 10 [次へ] をクリックします。

イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。

- 11 イメージファイルの説明を入力します。
- 12 [次へ] をクリックします。

[オプション] ウィンドウが表示されます。

13 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する

このチェック ボックスをオンにして、**OS** が正しくインストールされた か確認するため、**OS** のインストール後に **CCM** サーバーに接続します。 このチェック ボックスをオンにしない場合は、**OS** がインストールされ た後、**OS** 接続は自動的に実行されません。

14 デフォルトを受け入れて、[次へ]をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

15 [開始] をクリックします。

[完了] をクリックします。

ウィザードがイメージを準備します。

16 [OK] をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動 されます。このような動作になるように必要な設定の調整します(たとえば、 BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、 設定内の起動順序を変更できます)。



イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合 がありますが、それは、アップロードではなく、イメージの圧縮 と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化(特に、空きディス ク領域が多くある場合)によるものです。これは、イメージの転 送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックに なりません。転送速度は、約 30 から 400 Kbps ですが、プロ セッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



17 OS Image Preparation Wizard はネットワークに接続して、CCM サーバー のイメージを ¥upload ディレクトリに保存します。

アップロード プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

**** CDを挿入している場合、CDを取り出して再起動します」

18 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレー ティングシステムに戻ります。

これで、Publisher を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージ ファイルを CCM サーバーにパブリッシュできるようになりました。219 ページ の「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

Windows CE OS イメージ

次のセクションでは、Windows CE シン クライアント オペレーティング シス テムのイメージを準備し、取得する方法を説明します。

- 手順 1 CE 参照マシンの準備 (196 ページ)
- 手順 2 Image Preparation Wizard の実行 (197 ページ)

手順 1 – CE 参照マシンの準備

イメージ取得のため CE シン クライアントを準備するには、以下のものが必要 です。

CCM メディア

• イメージ準備 CD-ROM

イメージを取得する前に、Windows CE デバイスに管理エージェントをインス トールする必要があります。

Windows CE に管理エージェントをインストールするには

- 1 Windows CE シン クライアント デバイスから CCM メディアにアクセスします。
- CCM メディアで、SystemDrive: ¥ThinClient ¥WinCE に移動します。
- **3 radskman.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力して、[OK] をクリック します。

管理エージェントがインストールされます。

手順 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントが インストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない 場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 参照マシンに関する情報(ハードウェアおよび BIOS の機能など)を含むオ ブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレー ティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを 収集します。
- 4 次のファイルを作成し、CCM サーバーの SystemDrive:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload にコピーします。
 - ImageName.IBR このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージ ファイルは、参照マシンのフラッシュドライブと同じサイズです。
 Windows CE のイメージは、同等のサイズのフラッシュドライブを備 えたターゲットマシンに配布できます。このファイルには、イメージが インストールされるときにアクセス可能な組み込みファイルシステムが 含まれます。

ImageName.EDM
 このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

これらのファイルが転送される間は、オペレーティングシステム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速 度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ(*machineID*.log) も *SystemDrive*:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload で利用 できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します(シン クライアント デバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの CCM メディアの OSManagement¥ISO¥CaptureCD ディレクトリにある ImageCapture.iso を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、CCM OS 準備と取得 CD のホームページが開きます。
- 3 [**ブラウズ**]をクリックして ¥image_preparation_wizard¥WinCE¥ ディレク トリを開きます。
- 4 prepwiz.exe をダブルクリックします。

Image Preparation Wizard が開始されます。

OS Manager	Server
μ	
Image Name	

5 CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、xxx.xxx.xxx:port という形式で指定する必要があります。 OS のイメージ作成用に予約されている CCM サーバーのポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が CCM サーバーに接続できない場合、メッ セージが表示されるので、以下の手順を実行する必要があります。

- [はい]をクリックして続行します。
- [いいえ] をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- [キャンセル] をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 6 **[OK]** をクリックします。

ウィザードがイメージを準備します。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動 されます。このような動作になるように必要な設定の調整します(たとえば、 BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、 設定内の起動順序を変更できます)。

デバイスが CD を起動せずに Windows CE を起動する場合、上記の「手順1-CE 参照マシンの準備」からプロセスを再開する必要があります。

イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合 がありますが、それは、アップロードではなく、イメージの圧縮 と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化(特に、空きディス ク領域が多くある場合)によるものです。これは、イメージの転 送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックに なりません。転送速度は、約 30 から 400 Kbps ですが、プロ セッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



7 OS Image Preparation Wizard はネットワークに接続して、CCM サーバー のイメージを¥upload ディレクトリに保存します。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

**** CDを挿入している場合、CDを取り出して再起動します」

8 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレー ティングシステムに戻ります。

これで、Publisher を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージ ファイルを CCM サーバーにパブリッシュできるようになりました。219 ページ の「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

Embedded Linux OS イメージ

次のセクションでは、Embedded Linux オペレーティング システムのイメージ を準備し取得する方法を説明します。

- 手順 1 Embedded Linux 参照マシンの準備 (200 ページ)
- 手順 2 Image Preparation Wizard の実行 (201 ページ)

手順1-Embedded Linux 参照マシンの準備

イメージ取得のため Embedded Linux シン クライアントを準備するには、以下 のものが必要です。

• CCM メディア

• イメージ準備 CD-ROM

イメージを取得する前に、Embedded Linux シン クライアントに管理エージェン トをインストールする必要があります。



シン クライアント デバイスの情報および NFS を使用したインストール の実行の手順の詳細は、このガイドのインストールの章または ThinClient.tar の README ファイルを参照してください。

Embedded Linux に管理エージェントをインストールするには

- 1 ターゲットのシン クライアント デバイスにログインします。
- 2 ¥mnt¥opt¥OVCM という名前の新しいディレクトリを作成します。
- 3 CCM メディアの ¥ThinClient¥Linux ディレクトリにある ThinClient.tar の内容を¥mnt¥opt¥OVCM にコピーします。

tar ファイルと展開された内容を両方とも格納する十分なディスク領域(約7~8 MBの空き領域が必要です)がないモデルもあるため、デバイスのモデルによっては、¥tmpまたは別のマシンでこれらのファイルを展開する必要があります。展開した後は、ThinClient.tarを削除できます。

4 カレントディレクトリを ¥mnt¥opt¥OVCM に変更して、次のように入力し インストールを実行します。

.¥install -i CCM Server

この場合の *CCM_Server* は CCM サーバーのホスト名または IP アドレスです。 管理エージェントがインストールされます。

手順 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- マシンに十分な空きディスク領域があるかチェックし、管理エージェントが インストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない 場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 参照マシンに関する情報(ハードウェアおよび BIOS の機能など)を含むオ ブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレー ティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを 収集します。

- 4 次のファイルを作成し、CCM サーバーの SystemDrive:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload にコピーします。
 - ImageName.DD
 このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージ
 ファイルは、参照マシンのフラッシュドライブと同じサイズです。
 Embedded Linux のイメージは、サイズが同じフラッシュドライブを
 備えたターゲットマシンにしか配布できません。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイルシ
 ステムが含まれます。
 - ImageName.EDM
 このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるので、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ(machineID.log)も SystemDrive:¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload で利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します(シン クライアント デバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの CCM メディアの OSManagement¥ISO¥CaptureCD ディレクトリにある ImageCapture.iso を使用して作成されます。
 - ▲ Linux シン クライアント モデルでは、CD-ROM が実行されないように、マウント時にデフォルトで noexec オプションが設定される場合があります。これにより、Image Preparation Wizard を実行しようとすると、パーミッション エラーが起こったり、実行に失敗したりします。この問題を解決するには、noexec オプションを設定せずに CD-ROM を 再マウントしてください。
- 2 Image Preparation の CD で、¥image_preparation_wizard¥linux に 移動し、.¥prepwiz を実行します。

[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

3 [次へ] をクリックします。 [エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

- 4 [同意する] をクリックします。
- 5 CCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、xxx.xxx.xxx:port という形式で指定する必要があります。 OS のイメージ作成用に予約されている CCM サーバーのポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が CCM サーバーに接続できない場合、メッ セージが表示されるので、以下の手順を実行する必要があります。

- [はい]をクリックして続行します。
- [いいえ] をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
- [キャンセル] をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 6 [次へ] をクリックします。

[イメージ名] ウィンドウが開きます。

- 7 イメージファイルの名前を入力します。これは、CCM サーバーの ¥upload ディレクトリに保存されるイメージ名です。
- 8 [次へ] をクリックします。

イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。

- 9 イメージファイルの説明を入力します。
- 10 [次へ] をクリックします。

[オプション] ウィンドウが表示されます。

11 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する このチェックボックスをオンにして、**OS** が正しくインストールされたか確 認するため、**OS** のインストール後に CCM サーバーに接続します。この チェック ボックスをオンにしない場合は、**OS** がインストールされた後、 **OS** 接続は自動的に実行されません。

12 デフォルトを受け入れて、[次へ]をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

- 13 [開始] をクリックします。
- 14 [完了] をクリックします。 ウィザードがイメージを準備します。
- 15 [OK] をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動 されます。このような動作になるように必要な設定の調整します(たとえば、 BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、 設定内の起動順序を変更できます)。



デバイスが CD を起動せずに Embeded Linux を起動する場合、上
 記の「手順1-Embedded Linux 参照マシンの準備」から、プロ
 セスを再開する必要があります。

イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合 がありますが、それは、アップロードではなく、イメージの圧縮 と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化(特に、空きディス ク領域が多くある場合)によるものです。これは、イメージの転 送の間に行われるので、ネットワークのパイプはボトルネックに なりません。転送速度は、約 30 から 400 Kbps ですが、プロ セッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要な時に取得できるように、¥upload ディレクトリに格納する ファイルのコピーを作成します。

16 OS Image Preparation Wizard はネットワークに接続して、CCM サーバー のイメージを ¥UPLOAD ディレクトリに保存します。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

**** CDを挿入している場合、CDを取り出して再起動します」

17 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレー ティングシステムに戻ります。

これで、Publisher を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージ ファイルを CCM サーバーにパブリッシュできるようになりました。219ページ の「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

OS イメージのパブリッシュおよび配布

イメージを取得したら、Publisher を使用して CCM にイメージをパブリッシュ します。手順は、219 ページの「オペレーティング システムのパブリッシュ」 または Publisher のオンライン ヘルプを参照してください。

CCM にパブリッシュするとき、OS ライブラリをリフレッシュして、新しいイ メージを表示します。CCM コンソール ツールバーを使用して、選択したデバイ スにイメージを配布します。手順については、99 ページの「オペレーティング システムの配布」を参照してください。

カスタム WinPE Service OS のビルド

HP が提供するスクリプトを利用して、以下のことができます。

- 新しい winpe.wim が利用可能になると、更新された WAIK を使用して WinPE Service OS を更新します。WAIK の winpe.wim は、カスタマイズ された WinPE SOS をビルドするための基準として使用されます。
- 提供されている WinPE SOS に含まれていない特別なドライバやパッケージ を追加します。Microsoft の Windows Automated Installation Kit の知識 を生かして、以下の手順に従うことで、環境に必要なドライバやパッケージ を含む WinPE サービス OS を再ビルドします。
- デフォルトの Service OS やブートメニューの設定に対する変更など、適用 する必要がある更新がある場合、新しい ImageCapture.iso を作成します。
- デフォルトの Service OS やブート メニューの設定に対する変更など、適用 する必要がある更新がある場合は新しい ImageCapture.iso を作成します。

以下のセクションでは、カスタム WinPE Service OS をビルドするために必要 な項目について説明します。

- 前提条件 (206 ページ)
- WinPE Service OS へのドライバの追加 (208 ページ)
- カスタム WinPE Service OS のビルドと CM Image Capture/Deploy ISO の維持 (208 ページ)
- 詳細オプション (211 ページ)

前提条件

• WAIK (Windows Automated Installation Kit) がインストールされたマシン。

ブートサーバーがインストールされているマシンは使用しないでください。

- WinPE SOS にドライバやその他の情報を追加するための Microsoft のプロ セスをよく理解しておく必要があります。
- 製品メディアの¥winpe_buildに移動して、マシンにbuild_scripts.zip をコピーします。
- Image Capture CD \succeq Image Deploy CD
- Cygwin をサポートしていないため、cygwin がインストールされたマシン でこのスクリプトを起動しないでください。
- 新しい CM_ImageCapture.iso または CM_ImageDeploy.iso を生成する場合、ISO に必要な更新済みファイルを含めるために以下の操作を行う必要があります。
 - **a** マシンに、c:¥build items のような項目ディレクトリを作成します。
 - b CPE から受け取った更新されたファイルをコピーし、項目ディレクトリ を作成します。必要に応じて、Image Capture メディアまたは Image Deploy メディアの構造を基にサブディレクトリを作成します。この ディレクトリに必要なファイルがすべて揃っていない場合は、ファイル をコピーするために、以前の Image Capture メディアまたは Image Deploy メディアの挿入が要求されます。
 - c (オプション)適切な iso で使用するために、ビルド項目ディレクトリ に rombl_capture.cfg または rombl_deploy.cfg を含めることがで きます。これらのファイルを作成するには、必要に応じて以前の CM_ImageCapture.ISO または CM_ImageDeploy.ISO から rombl.cfg をコピーして、修正または名前の変更を行うことができます。このファ イルには、メニューのタイムアウト設定や、デフォルトの Service OS などの情報が含まれます。これらのファイルがディレクトリに含まれな い場合、スクリプトによって、以前の CD-ROM とそのメディアからの ファイルの取得を要求する画面が表示されます。CD-ROM を挿入しない と、標準の rombl.cfg ファイルが自動的に作成されます。
 - **d** (オプション) romsinfo.ini または netinfo.ini を、ImageDeploy CD のビ ルド項目ディレクトリに作成できます。

— romsinfo.ini

これには、CCM サーバーの関する情報が含まれます。情報は、もっと も重要な情報から重要でない情報への順に並べられています。左側で CCM サーバーとの一致が見つかると、その右側の情報が使用されます。

romsinfo.ini ファイルのサンプルは以下の通りです。

[ROMSInfo]

192.128.1.99=192.168.123.*, 192.168.124.*, 192.128.125.*

osm.usa.hp.com=192.168.*

osm.hp.com=*

- 1 行目は、マシンがリストされたサブネット(192.168.123.*, 192.168.124.*, 192.128.125.*)にあるかどうかをチェックします。 アスタリスクは、ワイルドカードとして使用します。一致した場合、 左側で指定される IP アドレス(例 192.128.1.99)を持つ CCM サーバーを使用します。
- 一致するものが見つかない場合、ファイルの2行目が使用されます。
 これは、マシンが192.168.* で始まるサブネット内にあるかどうか
 をチェックします。サブネット内にある場合、マシンは
 osm.usa.hp.comを使用して、CCMサーバーを見つけます。
- 今回も一致するものがない場合、ファイルの 3 行目が使用されます。
 これは、マシンがどのサブネットにあるかにかかわらず、
 osm.hp.com を使用して、マシンが使用する CCM サーバーを発見することを示しています。

[ServiceCD]

source=net

netif=eth0

- 1 行目はイメージを取得する場所を示しています。有効な値は、net、
 cd、または cache です。この情報の入力を要求するメッセージを表示しない場合、これを使用します。
- 2 行目は使用する NIC を決定します。NIC カードが複数あり、かつ このパラメータを指定しない場合、発見された最初の NIC カードが 使用されます。有効な値は、eth0 ~ eth3 です。

— netinfo.ini

これはネットワーク情報を含んでいます。セクションが1つ以上ある場合 ([SubnetDisplayName2] など)、使用する情報の入力を要求されます。 addr を使用して、IP アドレスの範囲を指定できます。これにより、複 数のマシンで使用できるフロッピーディスクを作成できます。 [SubnetDisplayname1] addr=192.168.123.50-192.168.123.69 gateway=192.168.123.254 subnet=192.168.1.0 netmask=255.255.255.0 dns=192.168.123.1 DNS がわからない場合、ini ファイルのキーワード dns= をそのままに してください。

WinPE Service OS へのドライバの追加

WinPE Service OS にドライバを追加する場合は、スクリプトを実行するとき に追加できます。たとえば、再起動が必要なドライバがある場合、再起動はオフ ライン モードで実行する必要があります。これは、build_script が一時停止し、 そのときに必要な変更を行うことができることを意味します。詳細については、 次の手順で説明します。

また、WinPE が実行しているとき(オンライン)にドライバを追加する こともできます。すべてのドライバが再起動を必要とせず、デバイスは CM OS Manager Server に接続されている必要があります。WinPE SOS の起動中に、C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥CM¥IntegrationServer¥OSM¥SOS¥WinPE¥drivers に存在す るすべてのドライバがダウンロードされ、drvload.exe を使用してインス トールされます。

カスタム WinPE Service OS のビルドと CM Image Capture/Deploy ISO の維持

HP のスクリプトを使用するには

- Build_scripts.zipを、WAIKがインストールされているマシンにコピー します。
- 2 C:¥Build_scripts などのディレクトリに Build_scripts.zip を解凍します。

- 3 Windows コマンド プロンプトに移動し、新しいディレクトリに変更します。 この例では、ディレクトリは C:¥ Build scripts です。
- **4** 「**run**」と入力します。
- 5 新しい WIM ファイルを作成するかどうか尋ねられたら、「**Y**」または 「**N**」と入力します。
- 6 「Y」を入力すると、Windows AIK ツールのディレクトリ パスの入力を求 められます。C:¥Program Files¥Windows などのディレクトリを入力します。
- 7 その他のドライバまたはパッケージを追加するために WIM 作成プロセスを 一時停止するかどうかを尋ねられたら、「Y」または「N」と入力します。
- 8 新しい Image Capture ISO を作成するかどうか尋ねられたら、「Y」または「N」と入力します。
- 9 新しい Image Deploy ISO を作成するかどうか尋ねられたら、「Y」または「N」と入力します。
- 10 どのサービス OS を ISO に含めるかを尋ねられたら、適切なものを選択し て入力します。Enter キーを押します。
- 11 デフォルトで再起動するサービス **OS** を尋ねられたら、適切なものを選択し て入力します。**Enter** キーを押します。
- 12 Image Capture CD/DVD のブート メニューの設定を求められたら、スク リーンの記述に基づき、お使いの環境に適した値を入力します。
- 13 Image Deploy CD/DVD のブート メニューの設定を求められたら、スク リーンの記述に基づき、お使いの環境に適した値を入力します。
- 14 ビルド項目のフル パスの入力を求められたら、C:¥build_items などの ディレクトリを入力し、Enter キーを押します。
- 15 一時作業ディレクトリのフルパスの入力を求められたら、C:¥build_work などのディレクトリを入力し、Enter キーを押します。このディレクトリは、 以降の手順で <work-dir> と呼ばれます。
- そのディレクトリが既に存在しており、その中に情報がある場合、その 情報を削除するかどうかを尋ねられます。削除しないこと(N)を選択す ると、もう一度ディレクトリの入力を求められます。終了する場合は、 Ctrl + C キーを押してプロセスを終了します。削除すること(Y)を選択 すると、情報は上書きされます。
- 16 出力ディレクトリのフル パスの入力を求められたら、C:¥build_output な どのディレクトリを入力します。

- 17 ISO をビルドするに必要のあるファイルがビルド項目ディレクトリにない場合、 CD/DVD を挿入し、ファイルをコピーする必要があります。CD/DVD の挿 入を選択しない場合、ビルド プロセスは停止します。
- 18 入力した情報が保存され、WinPE ディレクトリの作成が始まります。
- 19 その他のドライバを追加するために WIM 作成プロセスを一時停止することを指示すると、WinPE ディレクトリが作成された後にプロセスが一時停止され、winpe.wimのコンテンツが WIM ディレクトリ (C:¥build_work¥WIM など)に抽出されます。これには、以下の2つの方法があります。
 - a peimg コマンドを使用して変更を行います。これは、C:¥Program
 Files¥Windows AIK¥Tools¥PETools¥PEimg.exe の WAIK に含まれる PEImg.exe を使用します。このコマンドの使用法については、
 WAIK のドキュメントを参照するか、peimg/help と入力します。

この方法は、含める追加のドライバおよびパッケージをテストするのに 便利です。ドライバとパッケージを正常に追加した後、新しい winpe.wim をビルドするたびにこの手順を手動で繰り返さなくて済む ように、次の手順を使用します。

b ドライバをドライバリストに追加します。必要な情報がすべて収集されたことを示すメッセージが表示された後、winpe.wimおよび ISO をビルドするために必要なこの情報を格納する C:¥ Build_scripts にbuild.config が作成されます。テキストエディタを使用して、このファイルを開き、空のドライバリストの下に適切なドライバを追加します。たとえば、次のとおりです。

```
declare DRIVERS = " ¥
 cdrom.inf ¥
 e:¥¥tmp¥¥work¥¥WIM¥¥windows¥¥inf¥¥adp94xx.inf ¥
 e:¥¥tmp¥¥work¥¥WIM¥¥windows¥¥inf¥¥adp94xx.inf ¥
```

"

ディレクトリを指定しない場合、スクリプトは <workdir>¥WIM¥Windows¥inf でドライバを探します。指定する場合は、 c:¥¥anydirectory¥¥mydrivers.inf のようにロケーションとドライ バをフル パスで指定してください。最後のオプションは、 c:¥¥anydirectory¥¥md*.inf (c:¥anydirectory にあるすべての md*.inf ファイルをインストールします) などのワイルド カードを含 むファイル名を持つパスを指定するものです。 これを実行した後、「**run**」と入力して続行すると、ドライバが winpe.wim に追加されます。

今後、スクリプトを再び実行すると、build.configファイルを維持す るか、それを新しいもので置換するかを尋ねられます。また、スクリプ トは自動的に一時停止されます。追加するパッケージまたはドライバが 他にない場合は、「**run**」と入力して続行します。

- 20 この処理は時間がかかります。画面にはそのようなメッセージが表示されます。 完了すると、SOS 作成プロセスが正常に終了したことを示すメッセージが 表示され、コマンドプロンプトに戻ります。
- **21** C:¥WinPE_output など、WinPE.wim がビルドされたディレクトリに移動し、 以下の操作を実行します。
 - PXE では、winpe.wimを SystemDrive:¥ Program Files¥Hewlett-Packard¥CM¥BootServer¥X86PC¥UNDI¥linux-boot¥ にコピーします。
 - LSB では、CSDB Editor を使用して LSB パッケージの winpe.wim を置換します。
 - CD では、winpe スクリプトを使用して、新しい ISO を作成する必要が あります。

CM_ImageCapture.iso または **CM_ImageDeploy.iso** を作成することを選択 した場合もこのディレクトリに保存されます。

詳細オプション

これを選択すると、既存の build.config ファイルは別の名前で保存されます。 多様な設定セットを維持する必要がある場合や、既存の設定を基にテストをして いる場合、既存の build.config ファイルの別名保存が必要になる場合があります。 ドライバは上で指定したようにファイルに追加できます。

ファイルは、C:¥build_scripts など、build_scripts.zipファイルを解凍 したディレクトリに配置します。

スクリプトを実行する場合は、「**run**」と入力する代わりに次のコマンドを使用 します。

run.cmd -f mybuild.cfg

-f パラメータを指定しない場合、デフォルトの build.config が作成され、使用 されます。

9 Publisher の使用

Publisher を使用して、HP CM Client Configuration Manager (CCM) へ、ソ フトウェア、BIOS 設定、HP Softpaq、およびオペレーティング システム イ メージのパブリッシュを行います。パブリッシュされたソフトウェアはすべて、 メイン CCM コンソールの [ソフトウェア管理] にある [ソフトウェア] タブで利 用できます。パブリッシュされたオペレーティング システムは、[OS 管理] の [オペレーティング システム] タブ内で利用できます。

ソフトウェアは、パブリッシュした後、環境の管理対象デバイスへエンタイトル メント設定と配布を行う必要があります。



Publisher は、CCM とは別にインストールされます。インストール には、製品 CD の Configuration Management Administrator インス トール ファイルを使用するか、またはソフトウェア ライブラリの CM Administrator Publisher サービスを使用します。詳細については、 36 ページのインストール手順を参照してください。

Publisher を起動するには

 Publisher をインストールしたデバイスで、[スタート] メニューを使用して、 次へ移動します。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP OVCM Administrator] > [CM Adminitrator Publisher]

2 CCM のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。 デフォルトでは、ユーザー名は admin、パスワードは secret です。

以下のセクションは、Windows インストーラ ファイル、オペレーティング シ ステム イメージ、HP Softpaq、および他のソフトウェア形式を CCM にパブ リッシュするため Publisher を使用する方法を説明しています。

- ソフトウェアのパブリッシュ (214 ページ)
- オペレーティング システム イメージのパブリッシュ (219 ページ)
- HP Softpaq のパブリッシュ (224 ページ)
- BIOS 設定のパブリッシュ (226 ページ)

パブリッシュ オプションは、ターゲット デバイスおよびインストールしている CCM ライセンスによって異なります。

- パブリッシュオプションの [コンポーネントを選択]、[OS イメージ]、および [Windows インストーラ] には、Premium レベルのライセンスが必要です。
- シン クライアント パブリッシュ オプションの [OS イメージ] お よび [コンポーネントを選択] は、Basic と Premium の両レベル のライセンスで利用できます。

ソフトウェアのパブリッシュ

パブリッシュするソフトウェアのタイプにより、2 つのパブリッシュ オプション の1つを使用します。ログイン画面で、[Windows インストーラ]を使用して Windows インストーラ ファイル (.msi) をパブリッシュするか、[コンポーネ ントを選択]を使用して Windows 以外のインストーラ ファイルをパブリッシュ するかを選択します。次のセクションでは、各ファイル タイプをパブリッシュ する手順を説明します。

- Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ (214 ページ)
- [コンポーネントを選択]を使用したパブリッシュ (216ページ)

Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ

Windows インストーラは、MSI ファイルを使用して、オペレーティング シス テムにソフトウェア サービスを配布します。Publisher は、このファイルを使 用してサービスを作成し、そのサービスが CCM へパブリッシュされます。ソフ トウェア サービスが CCM に格納されると、お使いの環境にある管理対象デバ イスへそのサービを配布する準備が完了します。

Windows インストーラ ファイルをパブリッシュするには

- Publisher を起動します(213ページの「Publisher を起動するには」を参照してください)。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。



- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、[Windows インストーラ] を選択して、 [OK] をクリックします。
- 4 左ペインの Windows インストーラ ファイルへ移動します。右ペインには、 選択した MSI ファイルで利用可能な情報が表示されます。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 使用できるパブリッシュ オプションを確認します。
 - 一 管理オプション
 [setup を使用] または [msiexec を使用] を選択して、管理インストール ポイント (AIP) を作成します。
- AIP のパスは、一時的な場所であり、パブリッシュ セッションが完了したら、削除されます。
 - 変換
 Windows インストーラ ファイルに関連付けられた変換ファイルのアプ リケーションを選択し、順序を変更します。
 - — 追加のファイル
 AIP の一部として追加のファイルを含めます。
 - リストに表示された利用可能なファイルをすべて選択するには、[すべて選択] をクリックします。
 - すべてのファイルの選択を解除するには、[選択なし] をクリックします。
 - プロパティ
 - msi ファイルのプロパティを表示および変更します。Windows インス トーラ ファイルには、正しく配布するために追加のコマンド ライン パ ラメータが必要な場合があります。たとえば、インストールの間にシリ アル番号を渡すため、アプリケーションがカスタム プロパティを必要と する場合があります。[プロパティ] ダイアログを使用して、パラメータ を追加します。
 - 新しいプロパティを追加するには[追加]をクリックします。
 - 既存のプロパティを削除するには[削除]をクリックします。

- プロパティの [名前] または [値] を変更するには、変更する項目を クリックして、新しい値を入力します。

パブリッシュオプションの編集が終わったら、[次へ]をクリックします。

- 7 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入 力します。
- 8 [パッケージを限定する対象システム] セクションを使用して、特定のオペレーティングシステムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。
- **9 [次へ]** をクリックします。
- 10 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。この 情報で良ければ、[**パブリッシュ**] をクリックします。

パブリッシュ プロセスが完了したら、[**完了**] をクリックして Publisher を終了 します。 これで、Windows インストーラ サービスを企業へ配布する準備が整 いました。

変換ファイルを使用してその他のパラメータを適用するには

- Orca や他の MSI エディタを使用して、変換を作成します。変換は、 Windows インストーラ ファイルがパブリッシュされるディレクトリと同じ ディレクトリに保存します。
- Windows インストーラのパブリッシュ セッションを開始します。詳細は、 上記の指示に従います。
- 3 編集手順で [変換] をクリックします。
- 4 利用可能な変換ファイルを選択して、パブリッシュ セッションを続けます。 ソフトウェア サービスが配布されると、変換ファイルが適用され、追加の コマンド ライン パラメータが指定されます。

[コンポーネントを選択] を使用したパブリッシュ

Windows インストーラ ファイル以外のソフトウェアをパブリッシュするには、 [コンポーネントを選択] オプションを使用して、パブリッシュするソフトウェア を選択します。
[コンポーネントを選択]を使用してパブリッシュするには

- Publisher を起動します(213ページの「Publisher を起動するには」を参照してください)。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] を クリックします。

CCM のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は admin、パスワードは secret です。

- 3 [パブリッシュオプション]領域で以下の操作を実行します。
 - シン クライアントへパブリッシュしている場合は、[シンクライアントのパブリッシュ] を選択します。
 - ドロップダウン リストから [コンポーネントを選択] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

[パブリッシュするファイルを選択] ウィンドウが開きます。

ーパブリッシュするファイルを選択 ―――				
	名前 🛆	サイズ	変更日	
🖽 🔲 🧰 32bit	.rnd	1 KB	2007/12/13 12:48	
田 □ □ 20071203 CM511 CCM211 softward ■	AUTOEXEC.BAT	1 KB	2007/04/30 11:12	
	boot.ini	1 KB	2007/04/30 11:06	
	bootfont.bin	129 KB	2005/03/29 21:00	
🗄 🔝 🚞 ccm_cdimage	com.kit	247 KB	2007/12/05 19:32	
🕀 🥅 🚞 consolemar	CONFIG.SYS	1 KB	2007/04/30 11:12	
E Coursente and Settings	consolemgr.kit	249 KB	2007/09/20 9:32:38	
	IO.SYS	1 KB	2007/04/30 11:12	
🛨 🛄 🛄 etc	jdk-1_5_0_07-windo	48 KB	2006/06/19 11:12	
⊞ [] 🛄 Jp	license.nvd	1 KB	2007/11/20 2:45:24	
🖪 🔲 🦳 III 071205	Liveupdt.hst	1 KB	2000/10/05 7:02:20	
	MSDOS.SYS	1 KB	2007/04/30 11:12	
	msizap.exe	92 KB	2007/02/18 0:55:35	
🗄 🛄 🛄 Program Files	NTDETECT.COM	46 KB	2005/03/29 21:00	
🔃 🕀 🛄 🛅 rim	ntidr	303 KB	2007/06/29 16:51	
E C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	nvdkit.exe	1662 KB	2007/09/13 16:13	
	rim.kit	313 KB	2007/12/05 19:09	
	rpm.kit	152 KB	2007/09/27 15:59	
🛛 🖽 🛄 SQL2KSP4	rum.kit	135 KB	2007/09/27 15:59	-
🗐 🗐 🖛 💌 💆	4			►

5 パブリッシュするファイルを選択して、[次へ]をクリックします。

ソフトウェアがある(パブリッシュ元の)ディレクトリパスは、
 ソフトウェアがターゲットデバイスに配布される先のディレクトリパスになります。

ネットワーク共有が表示されますが、配布中に利用できなくなる 場合があるのでソフトウェアのパブリッシュには使用しません。 [ファイル レイアウト] ウィンドウが開きます。

ーターゲット パス	
CONFIG.SYS	▲ インストール時実行コマンド(任素) コマンド名 「 引数」
	アンインストール時実行コマンド(任金) コマンド名 引数

コマンドを入力して、アプリケーションのインストールおよびアンインストールを実行します。たとえば、インストールを実行するコマンドは、次のようになります。
 C:¥temp¥installs¥install.exe /quietmode /automatic

c:¥mydestination

一方、アンインストールを実行するコマンドは、次のようになります。
 C:¥temp¥installs¥uninstall.exe /quietmode /automatic

アイルを右クリックして、インストールまたはアンインストールコンドとして設定できます。

7 シン クライアントへパブリッシュしている場合、さらにインストール ポイントを選択する必要があります。次の図を参照してください。



8 [次へ] をクリックします。

[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

- 9 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入 力します。
- 10 [パッケージを限定する対象システム] セクションを使用して、特定のオペレーティングシステムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。

- 11 [次へ] をクリックします。
- 12 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。設定 を終了したら、[パブリッシュ] をクリックします。

パブリッシュ プロセスが完了したら、[**完了**] をクリックして Publisher を終了 します。 これで、ソフトウェア サービスを企業へ配布する準備が整いました。

オペレーティング システム イメージのパブリッ シュ

Image Preparation Wizard を使用して作成したオペレーティング システム イ メージは、CCM サーバーの ¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload に保存さ れています。Publisher を使用して、管理対象デバイスへ配布するためにオペ レーティング システム イメージ ファイル (.IMG) をパブリッシュします。

- WIM イメージをパブリッシュする場合は、219 ページの「Vista OS の.WIM イメージをパブリッシュするための前提条件」を参照してください。
- Publisher を使用して OS イメージをパブリッシュするために必要な手順については、223 ページの「OS イメージのパブリッシュ」を参照してください。

Vista OS の .WIM イメージをパブリッシュするための前提条件

Vista オペレーティング システムの .WIM イメージをパブリッシュする場合は、 以下の条件が必要です。

- CCM メディアの RadAgent¥client フォルダにアクセスできること。この フォルダは、最初に.WIM ファイルをパブリッシュするとき、または、更新 したエージェント パッケージをパブリッシュする場合だけ必要です。管理 エージェントは個別のパッケージとしてパブリッシュされます。このため、 その後のすべての.WIM ファイルの配布は、必ず利用可能な最新のエージェン トを自動的に受信します。
- WAIK がインストールされていること。
- filename.wim および filename.edm を CCM サーバーの Yupload ディレ クトリ (デフォルトは、C: YNovadigm YOSManagerServer Yupload) から イメージをパブリッシュするデバイスにコピーします。

- substitutes および unattend.xml を同じディレクトリに filename.wim としてコピーします。これらのファイルのサンプルは、 Image Capture メディアの ¥samples にあります。サンプルを使用する場 合は、設定やタイム ゾーンなど、必要な情報を変更し、製品キーを入力し ます。詳細については以下の説明を参照してください。これらのファイルは、 同じプレフィックスを持つ必要があるので注意してください。たとえば、 install.wim、install.subs、および install.xml のようになります。
- このディレクトリ内のファイルやフォルダが読み取り専用に設定されて いないことを確認してください。読み取り専用に設定されていると、イ メージは配布できません。

.subs および .xml ファイルについて

Filename.subs および filename.xml は情報をカスタマイズするために使用 します。オペレーティング システムの配布中に、filename.subs と filename.xml が結合され、unattend.xml ファイルが作成されます。 unattend.xml ファイルは、ターゲット デバイスでの Windows セットアップ のすべてのフェーズで、情報を提供するために使用されます。

Filename.xml は一般情報を含んだ応答ファイルだけではなく、filename.subs から取り込まれる情報のプレースホルダとして使用できます。これを選択すると、 指定された filename.xml と Microsoft の Windows System Image Manager

(SIM) ツールを使用して、このファイルに追加が作成できます。そのためには、 filename.xmlを開く前に、対応する.wimファイルを開きます。

Vista インストール用の製品キーをこのファイルに指定する必要があり ます。

このファイルから XML 値を削除しないでください。この.xml ファイル を誤って変更すると、深刻な問題が引き起こされ、その結果インストー ルが失敗する恐れがあります。

SIM ツールの [Messages] セクションで「...\$\$SUBSTR\$\$ が無効で す...」などのエラーが表示されることがありますが、これは無視できま す。ファイルを保存するとき、「応答ファイルには、検証エラーがあり ます。続行してもよろしいですか?」などのメッセージが表示される場合 がありますが、[はい] をクリックして続行します。

Filename.subs は、*filename*.xml で修正する各 XML 項目と、推奨される 修正値をリストする置換ファイルです。置換ファイル内の行は XPATH と呼ば れます。



置き換えの例

置き換えがどのように実行されるかを調べるには、以下の例を検討します。この 例では、JoinDomain 属性を *filename*.xml 内の「anything」から unattend.xml の「VistaTeam」に設定する方法を示しています。



<> で囲まれるコードは、xml ファイル内ではすべて1行で表示する必要 があります。

1 sample.xml ファイルから抽出した JoinDomain の XML 要素を確認します。
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:unattend">

<settings pass="specialize">

<component name="Microsoft-Windows-Shell-Setup" processorArchitecture="x86" publicKeyToken="31bf3856ad364e35" language="neutral" versionScope="nonSxS" xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/20 02/State" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchemainstance">

<Identification>

<JoinDomain>anything</JoinDomain>

</Identification>

```
</component>
```

</settings>

```
<cpi:offlineImage
```

cpi:source="wim://hpfcovcm/c\$/vista_inst/vista.wim
#Windows Vista ULTIMATE" xmlns:cpi="urn:schemasmicrosoft-com:cpi"/>

</unattend>

 以下の sample.subs の XPATH 要素を変更します。XPATH 要素が、 sample.subs では1行で表示されていることに注意してください。

```
//un:settings[@pass='specialize']//un:component[@name='Microso
ft-Windows-Shell-
Setup'][@processorArchitecture='x86']/un:Identification/un:Joi
nDomain,VistaTeam
```

3 オペレーティングシステムの配布中に、filename.subs ファイルと filename.xml ファイルが結合され、unattend.xml ファイルが作成され ます。このファイルは、Windows セットアップのすべてのフェーズで、情 報を提供するために使用されます。この例では、JoinDomain 属性が VistaTeam に設定されます。以下にカスタマイズした XML 要素の例を示 します。

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:unattend">

```
<settings pass="specialize">
```

```
<component name="Microsoft-Windows-Shell-Setup"
processorArchitecture="x86"
publicKeyToken="31bf3856ad364e35" language="neutral"
versionScope="nonSxS"
xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/S
tate" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-
instance">
```

<Identification>

<JoinDomain>VistaTeam</JoinDomain>

</Identification>

</component>

</settings>

```
<cpi:offlineImage
cpi:source="wim://hpfcovcm/c$/vista_inst/vista.wim#Windows
Vista ULTIMATE" xmlns:cpi="urn:schemas-microsoft-com:cpi"/>
```

</unattend>

filename.xml の準備

SIM ツールを使用して、製品キーや、お使いの環境に合わせて変更する必要がある他の情報を変更します。

OS イメージのパブリッシュ

以下のセクションでは、Admin Publisher を使用してオペレーティング システ ム イメージをパブリッシュする方法を説明します。

オペレーティング システム イメージをパブリッシュするには

- Publisher を起動します(213ページの「Publisher を起動するには」を参照してください)。
- 2 ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

CCM のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は admin、パスワードは secret です。

- **3** [パブリッシュ オプション] 領域で以下の操作を実行します。
 - シン クライアントへパブリッシュしている場合は、[シンクライアントのパブリッシュ]を選択します。
 - ドロップダウン リストから [OS イメージ] を選択します。
- **4 [OK]** をクリックします。

[OS イメージ ファイルの選択] ウィンドウが開きます。

- 5 [選択] ウィンドウを使用して、パブリッシュするファイルを探し、選択します (Image Preparation Wizard を使用して作成したイメージは、CCM サー バーの ¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload ディレクトリに保存されて います)。
- 6 続行する前に、[説明] 領域を使用して、ファイルを確認します。説明に情報 を追加することもできます。
- 7 [次へ] をクリックします。

.WIM ファイルをパブリッシュするのを選択すると、[WIM 配布設定] ウィ ンドウが表示されます。.IMG ファイルをパブリッシュする場合は、次の手 順に進みます。

- a [配布方法] ドロップダウン リスト ボックスで、[ImageX] を選択します。
- b [送信元] ディレクトリは空白のままにします。これは必須ではありません。

c [クライアントメディアロケーション] で、管理エージェントメディア の正しいパスをブラウズします(これは、CCM メディアの RadAgent/client フォルダです)。

既にこれをパブリッシュしている場合は、[以前にパブリッシュされた既存のパッケージを使用]を選択して、適切なパッケージを選択できます。

8 [次へ] をクリックします。

[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

- 9 [アプリケーションの情報] セクションを使用して、サービスの情報を入力し ます。
- 10 [次へ] をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

- [要約] 情報を確認して、前の手順で指定したパッケージおよびサービスの情報を検証します。この情報で良ければ、[パブリッシュ] をクリックします。
- 12 パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして Publisher を 終了します。
- これで、企業内の管理対象デバイスへサービスを配布する準備が整いました。

パブリッシュされたオペレーティング システム イメージ サービスは、[OS 管 理] セクションのオペレーティング システム OS ライブラリのリストで確認でき ます。

HP Softpaq のパブリッシュ

HP Softpaq は、サポート ソフトウェアの集合です。これには、デバイス ドラ イバ、設定プログラム、フラッシュ可能な ROM イメージなど、デバイスを最新 の状態に保ち、最善のパフォーマンスを発揮させるのに利用可能なユーティリ ティが含まれます。

Softpaq は、実行可能(.EXE)ファイルとして使用できます。

Publisher を使用して、管理対象デバイスに配布するため HP Softpaq を CCM へパブリッシュします。

Softpaq をパブリッシュするには

- Publisher を起動します(213ページの「Publisher を起動するには」を参照してください)。
- ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

CCM のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログ インします。デフォルトでは、ユーザー名は admin、パスワー ドは secret です。

3 [パブリッシュ オプション] 領域で、[HP Softpaq] を選択して、[OK] をク リックします。

[選択] ウィンドウが表示されます。



- 4 パブリッシュする Softpaq ファイルを選択します。
 - [要約] セクションには、Softpaq が SSM 準拠であるかないかなど、選択した Softpaq の情報が表示されます。選択した Softpaq が SSM 準拠でなく、Softpaq の一部としてサイレント インストールが含まれていない場合、Softpaq の内容を展開して、付属のドキュメントを読む必要があります。必要なファイルをパブリッシュして、指示に従ってインストール方法をセットアップします。

- [システム情報] ダイアログ ボックスには、選択した Softpaq がサポート するすべてのハードウェアが表示されます。
- 5 [次へ] をクリックします。

[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

- 6 Softpaq 情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、 Softpaq ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。
- 7 [次へ] をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

- 8 要約情報を確認し、それで良ければ、[パブリッシュ]をクリックします。
- 9 パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして Publisher を 終了します。

Softpaq が CCM ヘパブリッシュされ、管理対象デバイスへの配布に利用できる ようになります。パブリッシュされた Softpaq を、CCM コンソールの [ソフト ウェア管理] にあるソフトウェア ライブラリに表示します。配布された Softpaq は、 Application Self-Service Manager または管理対象デバイスの HP Softpaq カテ ゴリ グループ内にあります。

BIOS 設定のパブリッシュ

Publisher を使用して、クライアント デバイスへ配布するために、BIOS 設定 ファイルをサービスとしてパブリッシュします。設定ファイルを使用して、 BIOS 設定(起動順序など)の更新や変更、またはクライアント デバイスの BIOS パスワードの変更ができます。

BIOS 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) が、 **Publisher** のインストール時に、デフォルトでは C:¥Program Files¥Novadigm¥BIOS に配置されます。このファイルを使用して、ターゲッ

ト デバイスの BIOS 設定を変更します。

BIOS 設定ファイルのサンプルに必要なオプションが含まれない、または特定の デバイス用の設定ファイルを作成する場合は、229ページの「BIOS 設定ファイ ルの作成」を参照してください。

BIOS 設定をパブリッシュするには

- Publisher を起動します(213ページの「Publisher を起動するには」を参照してください)。
- ログイン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

CCM のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログ インします。デフォルトでは、ユーザー名は admin、パスワー ドは secret です。

3 [パブリッシュ オプション] 領域で、[HP BIOS 設定] を選択して、[OK] を クリックします。

[選択] ウィンドウが表示されます。

設定選択に使用する入力ファイルを選択	
	現在のBIOS 管理パスワード(必要な場合) 現在 ・ 確認 ・ 確認 ・ 現在のBIOS 管理パスワードを変更するには、新しいパスワードを入力して確認します 変更後 ・ 確認
	前へ 次へ キャンセル ?

- 4 パブリッシュする BIOS 設定ファイルを選択します。BIOS 設定ファイルの サンプル (Common HP BIOS Settings.xml) は、デフォルトでは C:¥Program Files¥Novadigm¥BIOS にあります。
- 5 必要な場合は [現在の BIOS 管理者パスワード] 領域に、BIOS パスワード を入力して確認します。ターゲット デバイスに BIOS パスワードがある場 合、設定を変更するにはこれが必要です。

- 6 現在の BIOS パスワードを変更する場合、[BIOS パスワードの変更] を選択し、 新しいパスワードを入力して確認します。これが必要なのは、クライアント デバイスの BIOS パスワードを変更する場合だけです。
- 7 [次へ] をクリックします。

[BIOS オプション] ウィンドウが表示されます。

BIOS オプション						
ファイル C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥CM¥Agent¥BIOS¥Common HP BIOS Settings.xml						
パブリッシュする BIOS 設定の選択: 管理者パスワードを つ・マ Security ロ・マ Device Security ロ・マ Serial Port ロ・マ Serial Port A ロ・マ Serial Port B ロ・マ Parallel Port ロ・マ NicBoot ロ・マ Stystem Information ロ・マ System Information ロ・マ Device Options ロ・ロ Device Options ロ・ロ Boot Options	変更するだけの場合、続行するには [)次へ] をクリック Serial Port Device available					

- 8 BIOS 設定名の左にあるチェック ボックスをクリックして、パブリッシュする BIOS 設定を選択します。
- 9 BIOS 設定の値を変更する必要がある場合、設定名をクリックして、必要に応じて使用可能なオプションを調整します。
- 10 [次へ] をクリックします。

[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。

- 11 アプリケーション情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション 情報は、設定ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まって います。
- 12 [次へ] をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

- 13 要約情報を確認し、それで良ければ、[パブリッシュ]をクリックします。
- 14 パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして Publisher を 終了します。

BIOS 設定サービスは、CCM コンソールのソフトウェア ライブラリで利用でき ます。

BIOS 設定ファイルの作成

CCM に付属のファイル以外の BIOS 設定ファイルを使用する場合、HP System Software Manager (SSM) の BIOS 設定ユーティリティを使用して、独自の設定ファイルを生成できます。

SSM は、管理エージェントと一緒にインストールされます(C:¥Program Files¥Hewlett-Packard\$SSM)。または、HP サポート サイトからダウン ロードできます。

BIOS 設定ファイルを作成するには

- コマンドプロンプトを表示して、SSM BIOS 設定ユーティリティがある ディレクトリ(デフォルトでは C:¥Program Files¥Hewlett-Packard¥SSM)に移動します。
- 2 次のように入力します。

BiosConfigUtility.exe /GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.xml"
/Format:XML

このコマンドは、MyBIOSconfig.xml という名前の XML ファイルを生成し、 C:¥tmp に保存します。

XML ではなくテキスト ファイルを作成する場合は、次のように入力します。

BiosConfigUtility.exe /GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.txt"
/Format:REPSET

このコマンドは、MyBIOSconfig.txt という名前のテキストファイルを生成し、C:¥tmp に保存します。

3 BIOS 設定をパブリッシュする準備ができたら、上の「BIOS 設定をパブ リッシュするには」の手順6で、このファイルを選択します。

パブリッシュされたサービスの表示

[ソフトウェア] タブにパブリッシュされたソフトウェアを表示します。次の図は、 サンプルのパブリッシュ済みサービスが表示された [ソフトウェア] タブです。 この図には、CCM コンソールで使用できるアプリケーションが示されています。

図 30 ソフトウェア ライブラリ

管理 レポート	設定	_						
デバイス管理 グループ管理 ソ フトウェア管理 パッチ管理 os 管理 ジョブ管理	ソフトウ: 一般 情報 Ciert Cor をフリック	ェア管理 ソフトウェア Infguration Manager に してください。	は在のジョブ 過去のジョブ パブリッシュされるソフトウェア・	サービスは下記のとおり	です。ブロバティヤ	マエンタイトルメントを表示またしま	変更するには、ソフトウェア	サービスの説明
	検索: サ	ービスロ	■ 含む		検索	リセット		
	@ \$	40 GA GA	2			10 酒田		
	③ ぎ	🔁 🗟 🗟 -ビス 10	¥ EX™FI	ソフトウェア カテ ゴリ	サイズ エン (MB)	10 項目 パタイトルメントを持っている グループ	1-6項目(共に インストールされている デバイス	:6項目) 🗾 🕨
	 ● ●<td> 2 ビス ID T2 </td><td>¥ 記明 test</td><td>ソフトウェア カテ ゴリ HP BIOS Setting</td><td>サイズ エン (MB) 0.00</td><td> 10項目 /タイトルメントを持っている グループ 0</td><td> N (1-6項目(共に インストールされている デバイス 0 </td><td>6項目) ・ 前回の変更 2007-12-20 23:23:40</td>	 2 ビス ID T2 	¥ 記明 test	ソフトウェア カテ ゴリ HP BIOS Setting	サイズ エン (MB) 0.00	10項目 /タイトルメントを持っている グループ 0	 N (1-6項目(共に インストールされている デバイス 0 	6項目) ・ 前回の変更 2007-12-20 23:23:40
	☑ 型 □ 型 □ TES	110 27 27 -ビス 10 172	हरमा test	ソフトウェア カテ ゴリ HP BIOS Setting User Application	サイズ エン (MB) 0.00	10項目 パタイトル・アントを持っている ダループ 0	 ※ ※ 1-6項目(共に インストールされている デバイス 0 0 	6項目) 前回の変更 2007-12-20 23:23:40 2007-12-20 23:22:25
	Solution States	 23 (公) (公) 11 11 11 	test	ソフトウェア カテ ゴリ HP BIOS Setting User Application User Application	サイズ エン (MB) 0.00 0.00	10項目 パタイトルズントを持っている グループ 0 0	 !!! インストールされている デバイス 0 0 0 0 	56項目) 第回の変更 2007-12-20 23:23:40 2007-12-20 23:22:25 2007-12-20 23:21:51
	Image: Second s	В В В -С.2. го П T2 П T1 П T П M_SMM П	test test test test OpenView Settings Migration Manager	ソフトウェア カテ ゴリ HP BIOS Setting User Application User Application CCM Applications	サイズ エン (MB) 0.00 0.00 0.00 7.45	10項目 ウタイトル・ベントを持っている グループ 0 0 0 1	 ※ 4 1-6項目(共に インストールされている デバイス 0 0 0 1 	6項目) マ 前回の支更 2007-12-20 23:23:40 2007-12-20 23:22:25 2007-12-20 23:21:51 2007-10-04 15:44:24
	 ♥ ♥ TES TES TES TES TES COA 	В В В В В В В В B	Lest test test OpenView Settings Migration Manager CM Administrator Publisher	ソフトウェア カテ コリ HP BIOS Setting User Application User Application CCM Applications CCM Applications	サイズ エン (MB) 2ン 0.00 0.00 7.45 19.71	10項目 タイトルバントを持っている グループ 0 0 1 1	 ※ 《 1-5項目供に インストールされている デバイス 0 0 1 1 	6項目) 、 第回の支更 2007-12-20 23:23:40 2007-12-20 23:22:55 2007-12-20 23:21:51 2007-12-20 23:21:51 2007-10-04 15:44:24 2007-09-20 21:39:33

パブリッシュされたオペレーティング システムは、コンソールの [OS 管理] セ クション内の [オペレーティング システム] 領域に保存されています。

CM Administrator Agent Explorer

Configuration Management Administrator の一部として、**Publisher** と一緒に インストールされる、**Agent Explorer** は、トラブルシューティングや問題解決 に役立ちますが、**HP** サポートからの直接の指示がない場合は使用しないでくだ さい。

10 Application Self-service Manager の 使用

Application Self-Service Manager は、管理エージェントがデバイスに配布され たときにインストールされます。Application Self-Service Manager を使用して、 デバイスにエンタイトルメントが設定されたソフトウェアをインストールします。

次のセクションでは、Application Self-Service Manager のユーザー インター フェイスの使用方法を説明します。

- Application Self-Service Manager へのアクセス (231 ページ)
- Application Self-Service Manager の概要 (232 ページ)
- Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用 (235 ページ)
- ユーザーインターフェイスのカスタマイズ (241 ページ)
- CM システム トレイのアイコン (248 ページ)

Application Self-Service Manager へのアクセス

Windows の [スタート] メニュー、またはデスクトップの Application Self-Service Manager アイコンをダブルクリックして、ユーザー インターフェイス にアクセスします。

ユーザー インターフェイスにアクセスするには

[スタート] > [プログラム] > [HP OVCM Client] > [CM Application Self-Service Manager] へと移動します。

または

 [CM Application Self-Service Manager] デスクトップ ショートカットをダ ブルクリックします。

Application Self-Service Manager の概要

Application Self-Service Manager には、4 つの主要セクションがあります。各 セクションでは、利用可能なソフトウェアの管理、カタログにあるソフトウェア の情報やステータスの表示、ユーザー インターフェイス表示のカスタマイズが できます。

	CM Applicat ファイル アクション	ion Self-Service Manager - 木ーム/すべてのソフトウェア - ロ X ノ サービス ヘルプ	
	🧑 см	Application Self-Service Manager	
a —	2 🗉 🗙		
	ж-4 •	名前 ゴ すべてのソフトウェア 徳 CCM Applications	— c
ь –	マイ ソフトウェア	▼ N ■ 名前 ステータス ✓ CM Administrator Publisher インストール済み	_ d
	② 履歴	✔ OpenView Settings Migration Manager インストール済み	— u
	ステータス	接続済み ノノノン	

図 31 Application Self-Service Manager のユーザー インターフェイス

凡例

- **α グローバルツールバー** カタログのリフレッシュや、現在のアクション の一時停止または取り消しができます。
- **b** メニューバー Application Self-Service Manager を使用するときに利用可能なメニューの選択肢を表示します。
- **c** カタログリスト 使用できるさまざまなソフトウェア カタログの一覧 が表示されます。
- **d** サービス リスト エンタイトルメントを設定できるアプリケーションの 一覧が表示されます。

次のセクションでは、ユーザー インターフェイス セクションを詳細に説明します。

- グローバル ツールバー (233 ページ)
- メニューバー (234 ページ)
- カタログリスト (234 ページ)
- サービスリスト (235 ページ)

グローバル ツールバー

グローバルツールバーでは、カタログのリフレッシュ、現在のアクションの一時停止、または現在のアクションの取り消しができます。アクションを一時停止 すると、[一時停止]ボタンを再度クリックしてアクションを再開するか、[キャンセル]ボタンをクリックして一時停止したアクションをキャンセルするまで、 他のアクションを実行できません。

[グローバル ツールバー] のボタンのうち、現在のアクションで使用できないボ タンは、グレー表示になります。

カタログをリフレッシュするには

選択したカタログをリフレッシュするには、グローバル ツールバーの [リフレッシュ] 2 をクリックします。

現在のアクションを一時停止または再開するには

- 現在のアクションを停止するには、グローバルツールバーの[一時停止]
 をクリックします。
- 停止したアクションを再開するには、[リジューム] 2 をクリックします。
 (アクションを停止すると、[停止] ボタンがこのボタンに変わります)。

現在のアクションをキャンセルするには

 現在のアクションをキャンセルするには、グローバル ツールバーの [キャン セル] 区 をクリックします。

メニューバー

メニュー バーを使用して、Application Self-Service Manager の設定およびカ スタマイズを行います。

次のセクションでは、メニューバーの各アイコンについて説明します。

ホーム

このボタンをクリックすると、ホームカタログにアクセスできます。

マイ ソフトウェア

このボタンをクリックすると、インストールしたサービスだけが表示されます。

設定

このボタンをクリックすると、Application Self-Service Manager のさまざまな 表示オプション、サービス リスト オプション、および接続オプションにアクセ スできます。

[設定] セクションの右上隅にある [OK]、[適用]、または [キャンセル] をクリッ クして、いつでも変更内容を保持または無視できます。

カタログ リスト

[カタログ リスト] セクションには、使用可能なソフトウェア カタログおよび仮 想カタログの一覧が表示されます。

カタログを選択するには

 [カタログリスト]で、[サービスリスト] セクションに表示するカタログを クリックします。カタログをリフレッシュするには、カタログの名前を右ク リックして、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します。

仮想カタログ

仮想カタログは、CCM の [ソフトウェアの詳細] で管理者が定義した、デフォルトのカタログのサブセットです。カタログ グループの値が同じサービスは、1つの仮想カタログにグループ化されます。

	名前
	すべてのソフトウェア
眚	CCM Applications

サービス リスト

[サービス リスト] セクションは、利用可能なアプリケーションを一覧表示します。 すでにインストールされているソフトウェアの隣には、チェック マークが表示さ れます。表示されているカラムの見出しは、必要に応じて変更できます。詳細は、 234 ページの「設定」を参照してください。

表14 [サービスリスト] セクションのボタン

ボタン	アクション	説明
Ŧ	インストール	選択したサービスをマシンにインストールする。
×	削除	選択したサービスをマシンから削除する。
	展開/折りたたむ	選択したサービスを展開/折りたたむ。



[サービスリスト] セクションのボタンは、選択したアプリケーション に対して使用できない場合、グレー表示になります。

Application Self-Service Manager ユーザー イン ターフェイスの使用

ユーザーインターフェイスを使用して、ソフトウェアのインストールと削除、 利用可能なソフトウェアのカタログのリフレッシュ、および利用可能なソフト ウェアに関する情報の表示を行います。メニューバーには、セッション履歴の 表示、バンド幅の調整、およびアプリケーションの現在のステータスの表示のた めのボタンがあります。

詳細は以下のセクションを参照してください。

ソフトウェアのインストール (236 ページ)

- カタログのリフレッシュ (237 ページ)
- 情報の表示 (237 ページ)
- ソフトウェアの削除(238ページ)
- 履歴の表示 (238 ページ)
- バンド幅の調整 (239 ページ)
- ステータスの表示 (240 ページ)

ソフトウェアのインストール

利用可能なアプリケーションは、サービス リストに一覧表示されます。これら のアプリケーションから1つ以上をいつでもインストールできます。

ソフトウェアをインストールするには

- 1 インストールするソフトウェア名をサービスリストでクリックします。
- 2 [インストール] ボタン 🚹 をクリックします。

ー部のインストールでは複数のダイアログボックスが表示されます。複数 のダイアログボックスが表示された場合は指示に従います。それ以外の場 合は、インストールがすぐに始まります。

インストールするソフトウェア名を右クリックして、表示される ショートカットメニューの[インストール]をクリックしても同 じ操作を実行することができます。

インストールの進行状況が、進行状況バーに表示されます。

- インストールを一時停止するには、グローバルツールバーの[一時停止]
 をクリックします。アクションを一時停止すると、一時停止しているアクションをキャンセルまたは再開するまで、他のアクションを実行できません。

カタログのリフレッシュ

Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスにログインする たびに、カタログはリフレッシュされます。ログインしている間に、使用権限が 与えられているアプリケーションのリストが変わった、またはインストールして いるアプリケーションの更新が利用可能になったと思う場合は、グローバル ツールバーの [**カタログをリフレッシュ**] をクリックして、アプリケーション の更新されたリストを取得します。

ソフトウェア リストの任意のアイテムを右クリックして、表示される ショートカット メニューの [カタログをリフレッシュ] をクリックし ても同じ操作を実行することができます。

情報の表示

あるアプリケーションに関してサービス リストが提供する情報よりもさらに詳細な情報が必要な場合があります。ベンダー、バージョン、サイズ、およびアプリケーションがインストールされた日付を知りたい場合、サービス リストにこれらのカラムを追加するか、展開したサービス ボックスで [拡張情報を表示] をクリックします。

メーカーからの詳細情報が必要な場合は、ベンダーのリンクをクリックします。

詳細情報を表示するには

サービスリストで目的のソフトウェアを選択し、[拡張情報を表示]
 をクリックします。



目的のソフトウェアを右クリックし、表示されるショートカット メニューの [プロパティ] をポイントし、[情報] をクリックして も同じ操作を実行することができます。

CM Administrator Publisher Hewlett Packard <u>http://support.openview.hp.com</u>	×
選択するカタログ: サイズ(バイト): 圧縮後のサイズ(バイト): 作成者: 価格:	CCM Applications 20.41 MB (20,895,744) 18.75 MB (19,203,211) Hewlett Packard
インストール日: 検証日: パブリッシュ日: 最後に再パブリッシュされた日付:	2007/12/05 19:59:44 2007/12/05 19:59:44

サービスリストに戻るには、対応する[キャンセル]ボタンをクリックします。

ソフトウェアの削除

[**削除**] ボタン 🔀 を使用してコンピュータからソフトウェアを削除できます。

ソフトウェアを削除するには

- 1 削除するソフトウェアを選択します。
- 2 [削除] 🔀 をクリックします。
- 3 アプリケーションの削除を確認するメッセージが表示されたら、[はい] をク リックします。

インストールされている削除対象のソフトウェア名を右クリック して、表示されるショートカットメニューの[削除]をクリック しても同じ操作を実行することができます。

履歴の表示

メニューバーの[履歴]をクリックして、現在のセッションの履歴を表示します。

図 32 [履歴] ウィンドウ

🗑 CM Applicati	ion Self-Service Manager - 履歴 📃 🔲	×
ファイル アクション	/ サービス ヘルプ	
🧑 см	Application Self-Service Manager	
2 II X		
	クライアント アクティビティの履歴	×
介 ホーム	2007年12月14日 2026 設定が変更および保存されました 2007年12月14日 17:11 ===== CM Application Self-Service Manager UI セッションが開始され; 2007年12月12日 12:17 ===== CM Application Self-Service Manager UI セッションが開始され;	
ידניאַרע איד		
設定		
②履歴		
ステータス	4	
	接続済み	1

[履歴] ウィンドウを閉じて、サービス リストを表示します。

バンド幅の調整

メニュー バーの [**バンド幅**] をクリックして、バンド幅のスライダを表示します。 この値を変更すると、スロットリングの値がダイナミックに変化します。

バンド幅のスライダを使用してバンド幅の設定を調整するには

- スライダをドラッグして、目的のバンド幅スロットリングの量にまで値を増減して調整します。
- バンド幅スロットリングは、[設定]の[接続オプション]セクションでも調整 できます。

ステータスの表示

メニュー バーの [ステータス] をクリックすると、サイズ、推定時間、進捗状況、 使用可能なバンド幅など、現在のアクションのステータスが表示されます。

図 33 選択したアプリケーションのステータス表示

語言	名前	ステータス		
BXAE	 CM Administrat 	インストール済み		
図展歴	✓ OpenView Setting HP http://support.open ⟨?\7 k = 0.538	is Migration Manager	サイズ 圧縮後のサイズ	7.94 MB 7.23 MB
く パンド幅	1245-10180			
\mathbf{R}	転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A 🗵
ステータス	合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
	受信したバイト数	0 Kb	サービスの総数	0
	推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウは、Application Self-Service Manager からドッキング したりドッキングを解除したりできます。これにより、画面上の任意の位置に [ステータス] ウィンドウを移動できます。デフォルトでは、[ステータス] ウィン ドウはドッキングされています。

[ステータス] ウィンドウのドッキングを解除するには

- 1 メニューバーの [**ステータス**] をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから [ドッキング済み] を選択します。[ステータス] ウィンドウがドッキングされると、ショートカットメニューの[ドッキング済み] の横にチェック マークが表示されます。

転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A 🔛
合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 Kb	 ドッキング済み 議款 	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

Application Self-Service Manager から [ステータス] ウィンドウが分離され、 画面上の任意の場所に移動できるようになります。

[ステータス] ウィンドウをドッキングするには

- 1 メニューバーの [**ステータス**] をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカットメニューの [**ドッキング済み**] をクリックします (チェック マークが表示されていない場合のみ)。

転送速度		0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ		- ドッキング済み - 🔒	受信ファイル数	0
受信したバイ	ト数 🚽	da v	サービスの総数	0
推定残り時間	1	00:00:00	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウが Application Self-Service Manager にドッキング されます。

ユーザー インターフェイスのカスタマイズ

メニュー バーの [設定] ボタンをクリックして、利用可能なカスタマイズ オプ ションを表示します。

次のセクションで各カスタマイズ領域について説明します。

- ・ 全般オプション(241ページ)
- サービス リスト オプション (243 ページ)
- 接続オプション(246ページ)

全般オプション

[全般オプション] ウィンドウを使用して、Application Self-Service Manager の 外観を変更します。

図 34 [全般オプション] ウィンドウ

<u> 怪骸オブション</u> サービス リスト オブション 接続オプション	Ok 適用 キャンセル
表示	
▶ ▼ メニューを表示	□ 自動非表示オブションバー
💌 カタログ リストを表示	
🔲 オフライン モードのプロンプトを表示	
起動パラメータ ファイル名:	
C:¥PROGRA~1¥HEWLET~1¥CM¥Agen	t¥Lib¥args.×ml
色	
○ システムの色を使用	
● 色のカスタマイズ	
選択色を設定	背景色を設定 デフォルトにリセット
ボタンの色を設定	作業領域の色を設定

表示を変更するには

- メニューを表示する場合は、該当するチェックボックスをオンにします。
- カタログリストを表示する場合は、該当するチェックボックスをオンにします。
- 各セッションの開始時にオフライン モードで Application Self-Service Manager を使用するプロンプトを表示する場合は、該当するチェック ボッ クスをオンにします。

色を変更するには

- システムの色を使用する場合は、[システムの色を使用] オプション ボタン をクリックします。
- 独自のカスタム色を使用する場合は、[色のカスタマイズ] オプションボタン をクリックします。
 - [色のカスタマイズ]をクリックした場合、目的に応じて以下のラベルの ボックスをクリックします。
 - [選択色を設定]。選択した色を変更します。
 - [ボタンの色を設定]。ボタンの色を変更します。

- [背景色を設定]。背景色を変更します。

- [作業領域の色を設定]。作業領域を変更します。

サービス リスト オプション

[サービスリストオプション]を使用して、サービスリストの外観を変更します。

図 35 サービス リスト オプション

全般オプション サービス リスト オプション 接続オプション		Ok 適用	キャンセル
カラム 使用可能なカラム Avis UI オブジョン URL アップグレード日 インストール日 エラーコード オーナーカタログ サイズ システムのインストール スケジュールを許可 スロットリング タイプ パージョン	道加 -> 肖『除	表示するカラム 名前 ステータス	
表示 「アクティブなサービス アイテムを展開 「 グリッド線を表示	□ アク:	ティブなカタログ アイテムを 田なオペレーションを表示	展開

サービス リストのカラム名をカスタマイズするには

[カラム] 領域を使用して、サービス リストに表示されるカラムをカスタマイズ します。右のカラムには、サービス リストに表示されるカラム名が一覧表示さ れます。利用可能な各カラム見出しの説明は、245ページの「表 15」を参照し てください。

サービス リストにカラムを追加するには

1 [使用可能なカラム] リストボックスで、1つ以上の名前を選択します。連続 した複数のカラム名を選択するには Shift キーを押したままカラム名をク リックし、連続していない複数のカラム名を選択するには Ctrl キーを押した ままカラム名をクリックします。

2 [追加] をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボッ クスの一覧に表示されます。

サービス リストからカラムを削除するには

- 1 [表示するカラム] リストボックスで、1 つ以上の名前を選択します。連続した複数のカラム名を選択するには Shift キーを押したままカラム名をクリックし、連続していない複数のカラム名を選択するには Ctrl キーを押したままカラム名をクリックします。
- 2 [**削除**] をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リストボックスから削除され、元の [使用可能なカラム] ボックスに表示されます。

表示のカスタマイズ

- サービス リストで現在のサービス アイテムを展開するには、[アクティブな サービス アイテムを展開] を選択します。
- 各サービスを仕切るグリッド線付きでサービスリストを表示するには、[グ リッド線を表示] を選択します。
- 現在選択しているカタログを展開するには、[アクティブなカタログ アイテムを展開]を選択します。
- [詳細なオペレーションを表示]は現時点では利用できません。

表 15 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
適応バンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の適用 最小割合。
警告メッセージ	エンド ユーザーに長いサービス説明または指示のメッセージを表示 (警告/延期設定の一部としてオプションのサービス テキスト フィー ルド)。
作成者	サービスの作成者。
Avis	内部で使用するためだけのサービス ステータス フラグ。
圧縮後のサイズ	圧縮後のサービスのサイズ(バイト単位)。
エラーコード	現在のサービスのステータス。例:初期=999。メソッドの失敗=709。
説明	サービスの簡単な説明。
インストール日	サービスがコンピュータにインストールされた日付。
ローカルの修復	ローカルでのデータ修復可能性(データがローカル コンピュータに キャッシュされているかどうか)。
名前	サービスの名前。
必須	サービスで定義される必須/オプション ファイル(内部使用)。
オーナー カタログ	アプリケーションの取得元のドメイン名。
価格	サービスの価格。
パブリッシュ日	サービスがカタログにパブリッシュされた日付。
再起動	サービスの再起動設定(内部使用)。
再パブリッシュ日	サービスがカタログに再パブリッシュされた日付。
予約済みのバンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の予約 済み最大割合。
 スケジュールを許可	エンド ユーザーがローカルにサービスの更新スケジュールを変更で きるかどうかを指定。
サイズ	サービスのサイズ(バイト単位)。
	注意:サービスを正常にインストールするには、このカラムで表示される空き容量がコンピュータに必要です。

カラムの見出し	説明
ステータス	 ソフトウェアの現在のステータス 使用可能 インストール済み 更新可能 破損
システムのインス トール	システム アカウントを使用してサービスがインストールされるかど うかを表示。
スロットリング タイ プ	使用するバンド幅スロットリングのタイプ。可能な値は、 ADAPTIVE、RESERVED、または NONE。
UI オプション	ステータス ウィンドウを表示するかどうかを決定。
アップグレード日	サービスがアップグレードされた日付。
URL	ソフトウェア ベンダーの URL。
ベンダー	サービスを提供したソフトウェア ベンダー。
検証日	前回、サービスが検証された日付。
バージョン	サービスのバージョン。

接続オプション

次の図に示すように、[接続オプション]では、使用するバンド幅スロットリング のタイプを選択したり、プロキシサーバーを使用するために必要な設定を指定 したりすることができます。 図 36 接続オプション

全般オプション サービスリスト オプション 揺病オプション	Ok 適用 キャンセル
スロットリング	
 なし 	
○ バンド幅を予約	
○ トラフィックに適応	
プロキシ	
🔲 プロキシ サーバーを使用	
🔲 プロキシ アドレスを検出	
プロキシ サーバーのアドレス ポート	

- スロットリング
 - スロットリングを行わない場合、[なし]を選択します。
 - 一使用するネットワークバンド幅の最大の割合をスケールに基づいて指定 するには、[バンド幅を予約]を選択します。サブスクライバは、ダウン ロード時に予約バンド幅をユーザーインターフェイスで変更できます。
 - 使用するネットワークバンド幅の最小の割合をスケールに基づいて指定 するには、[トラフィックに適応]をクリックします。適応バンド幅は、 データダウンロードプロセスの間は変更できません。設定できるのは、 ジョブがディスパッチされる前だけです。
- プロキシ
- Application Self-Service Manager は、インターネット プロキシが使用されると、それを検出できます。その後、インターネット プロキシのアドレスは、クライアント コンピュータの IDMLIB ディレクトリの PROXYINF.EDM に格納されます。IDMLIB のデフォルトのロケーションは、SystemDrive:¥Program Files¥Novadigm¥Lib です。次回、クライアントコンピュータが CCM サーバーに接続する際は、指定したインターネットプロキシが使用されます。この機能を使用するには、クライアントが、イン

ターネット プロキシを使用および検出できるようにする必要があります。 Application Self-Service Manager を使用している場合、[設定] の [接続] セ クションでプロキシを設定します。

CM システム トレイのアイコン

CM システム トレイ アイコンを使用すると、サブスクライバは、ステータスや 統計情報を確認したり、停止やキャンセルの操作を行ったりすることができます。

図 37 CM システム トレイ アイコン

🔇 🖸 🦁 🇊 11:23

CM の状態を表示するには、カーソルをアイコンの上に移動します。

• アイドル

アクションが処理中でなく、ユーザーの介入を必要としないとき、アイコン はスタティックです。システムトレイアイコンは、アイドル状態では非表 示になる場合があります。

アクティブ

Application Self-Service Manager が実行中のとき、またはユーザーの介入 が必要なときに、アイコンはアクティブになります。アイコンの上にカーソ ルを合わせると、活動情報を示すポップアップが表示されます。重要な通知 が行われた場合は、ポップアップが自動的に表示されます。

[CM ステータス] ウィンドウ

CM システム トレイ アイコンを左クリックして、[CM ステータス] ウィンドウ を表示します。[CM ステータス] ウィンドウは、下の図のように表示されます。 図 38 CM ステータス



凡例

- a ボタンバー
- **b** 情報パネル
- c ステータス領域
- d ステータス メッセージ

[ステータス] ウィンドウには次の領域があります。

• CM ボタン バー

[一時停止] ボタン、[キャンセル] ボタン、およびエージェントが実行中にア ニメーション表示になるロゴがあります。

情報パネル

この領域には、アクティブなサービスに関する情報が表示され、完了したタ スクの割合を示す進行状況バーも表示されます。

ステータス領域
 転送速度、送信の合計サイズ、受信したバイト数、送信の推定残り時間、
 送信するファイルの総数、受信したファイルの数、処理されたサービスの
 数など、アクティブなプロセスに関する統計が表示されます。

ステータスメッセージ領域 現在のプロセスに関するメッセージが表示されます。

- バンド幅設定
 - CCM サーバーのサービスにバンド幅スロットリングを設定している場合、
 システムトレイ コンソールのバンド幅のトグル ボタン をクリックすると、バンド幅設定用のスライダが表示されます。バンド幅スロットリングの値を変更するには、スライダを調整します。

11 Settings Migration

[Settings Migration] では、個々の管理対象デバイスにあるアプリケーションお よびオペレーティング システムのユーザー設定をバックアップおよび復元でき ます。設定およびファイルは CCM サーバーに保管され、元のデバイスや新しい デバイスへの復元に利用したり、オペレーティング システムの配布の間に含め るたりすことができます。

Settings Migration Manager を使用して、管理対象デバイスのユーザー設定 およびファイルを取得するための設定テンプレートを作成および保管します。

Settings Migration Utility が個々のデバイスに配布され、これらの設定ファ イルのバックアップや復元に使用されます。



Settings Migration には Premium レベルのライセンスが必要です。

次のセクションでは、お使いの環境で Settings Migration を行う方法を説明しています。

- サポートされるアプリケーションと設定(252ページ)
- 設定テンプレートの作成 (253 ページ)
- Settings Migration Utility の使用 (255 ページ)
- OS 配布の間の Settings Migration (260 ページ)
- File Rules $(260 \sim \checkmark)$
- アプリケーション サポートの注意点 (263 ページ)

サポートされるアプリケーションと設定

次の表は、Settings Migration でサポートされるアプリケーションおよびオペ レーティング システムの設定を一覧表示しています。

表16 サポートされるアプリケーション

サポートされる Microsoft のアプリ ケーション	サポートされる他のアプリケーション
 Microsoft Access 95, 97, 2000, XP, 2003 Microsoft Excel 95, 97, 2000, XP, 2003 Microsoft FrontPage 2000, XP, 2003 Microsoft InfoPath 2003 Microsoft OneNote 2003 Microsoft Outlook (Windows Messaging), 97, 98, 2000, XP, 2003 Microsoft PowerPoint 95, 97, 2000, XP, 2003 Microsoft Project 98, 2000, 2002, 2003 Microsoft Publisher 2003 Microsoft Word 95, 97, 2000, XP, 2003 	 Act! 2000 Adobe Acrobat 4.x, 5.x, 6 Acrobat Reader 4.x, 5.x, 6, 7 Lotus Notes 5.x, 6.x Microsoft Internet Explorer 4.01, 5.x, 6.x Microsoft NetMeeting 2.x, 3.x Microsoft Outlook Express 5.x, 6.x Netscape 4.5, 4.6, 4.7, 6.x Norton AntiVirus 2000 Norton AntiVirus Corporate Edition Visio 4.5, 5, 2000, 2002, 2003 WinZip 7.x, 8.x, 9.0 WordPerfect Office 2000 Corel Utilities Dragon NaturallySpeaking for WordPerfect Quattro Pro 9 WordPerfect 9
表17 サポートされる設定

Windows のオプション	コントロール パネルの設定
 デスクトップショートカット ダイヤルアップネットワーク フォルダオプション ローカルプリンタログ マッピングされたネットワーク ドライブ マイドキュメント ネットワーク接続および共有プリンタ接続 ネットワーク設定 タスクバーおよびスタートメニュー クイック起動バーのショー トカット タスクバーとスタートメ 	 ユーザー補助オプション 表示 外観とテーマ 背景 視覚効果 インターネットオプション キーボードの言語 キーボードの設定 マウスの設定 ボタンと動き ポインタとスキーマ 電源管理 地域の設定 サウンド
ニューの設定 • Windows アドレス帳	 タイムゾーン

サポートされるアプリケーションの追加情報は、**263**ページの「アプリケーショ ンサポートの注意点」を参照してください。

設定テンプレートの作成

Settings Migration Manager を使用して、テンプレートを作成します。このテ ンプレートは、どのアプリケーション設定、ファイル、およびオペレーティング システム設定をバックアップし、個々のデバイスで復元またはインストールに利 用できるかを決めます。

Settings Migration Manager を使用するには、最初に CCM を使用して配布す る必要があります。

Settings Migration Manager を配布するには

 CCM ソフトウェア ライブラリの Settings Migration Manager サービスを 使用して、Settings Migration Manager を配布します。ソフトウェア サー ビスの配布に関する詳細な手順は、81ページのセクション「ソフトウェア の配布」を参照してください。 Settings Migration Manager を使用して、設定テンプレートを作成します。こ のテンプレートは、Settings Migration Utility を実行したときに、どのアプリ ケーション設定、ファイル、およびオペレーティング システム設定をバック アップするかを指定します。

Settings Migration Manager を起動するには

- Settings Migration Manager がインストールされているデバイスで、 C:¥Program Files¥HP OpenView¥nonOV¥ovsmmへ移動します。
- 2 SE.exe をダブルクリックします。

HP OpenView	v Settings Migration Manager - se	.cfg		
ile Edit View H	Help			
B B B				
db	Extract Personality			
	Data Store C:\Program Files\HP Ope	nView\nonDV\ovsmm\personalities		Browse
Extract Personality	User(s) Selected for Extraction	User(s) to Extract Select for Extraction		
Inject Personality		Applications A	dition	<u>د</u> ب
Restore Files		WordPerfect Office 2000	- OKE - 2000 will winder	Jata Gas
	Extract From C Logged In User	templates and persistent settings for the follow Book & QuickFinder), Dragon NaturallySpeak	ving applications: Corel L sing for WordPerfect, Qu	uava mes, Itilities (Address attro Pro, and
	Selected User(s)	Clear All Select <u>A</u> ll	Expand All	C <u>o</u> llapse All
	-			Extract
nputer Name: HP-	, -204DDAB8DBAB Current User: admin Cu	rrent Domain: (Local)		NUM

⊠ 39 Settings Migration Manager

設定テンプレートを作成するには

- 1 Settings Migration Manager を起動します。
- 2 [Select for Extraction] をクリックして、設定およびファイルのバックアップ に利用可能なアプリケーションのリストを表示します。
- 3 このツリー表示を使用して、アプリケーション設定やファイルを選択または 除外します。

User(s) to Extract Sel	ect for Extraction		
Application ACT! 2 Adobe ACT! 2 Adobe Acti 2 Adobe Ad	s OOO Acrobat Votes oft Internet Explorer oft NetMeeting oft Office oft Outlook Express ope AntiVirus AntiVirus Corporate Edit of erfect Office 2000 port	ion	•
<u>C</u> lear All	Select <u>A</u> ll	Expand All	C <u>o</u> llapse All

- 4 設定がそれで良ければ、ツールバーまたは [File] メニューを使用して、ファ イルを保存します。ファイル名は SE.CFG とします(これがデフォルトの 名前です)。
- 5 Settings Migration Manager を終了します。
- ファイル se.rul、se.ptt、および SE.CFG を C:¥Program Files¥HP
 OpenView¥nonOV¥ovsmm から、CCM サーバーのディレクトリ
 C:¥Novadigm¥ProxyServer¥upload にコピーします。

ファイルをサーバーのディレクトリにコピーすると、この設定が、クライアン ト デバイスに配布する Settings Migration Utility で利用できるようになり ます。ユーティリティは、実行されるたびに、これらのファイルにアクセス してバックアップする設定およびファイルを決定します。

設定ファイルを CCM サーバーヘコピーしたら、Settings Migration Manager サービスを配布して、管理対象デバイスで Settings Migration を有効にします。

Settings Migration Utility の使用

Settings Migration Utility は、Settings Migration Manager サービスと一緒に インストールされます。ソフトウェア サービスの管理対象デバイスへの配布に 関する詳細な手順は、81ページのセクション「ソフトウェアの配布」を参照してください。

管理対象デバイスへ配布して、ユーティリティを設定のバックアップまたは復元 に使用します。ユーティリティは、実行されるたびに、CCM サーバーから最新 の設定テンプレート(SE.CFG)をダウンロードします。詳細は、253 ページの 「設定テンプレートの作成」を参照してください。

Setting Migration Utility を起動するには

1 Settings Migration Manger サービスが配布されたデバイスで、[スタート] メニューを使用して次のように選択します。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [OpenView Settings Migration] > [OpenView Settings Migration Utility]

次のセクションでは、Settings Migration Utility の使用方法を説明します。

- 設定のバックアップ (256 ページ)
- 設定の復元 (258 ページ)

設定のバックアップ

Settings Migration Utility を使用して、設定およびファイルのバックアップお よび CCM サーバーでの保管を行います。

設定は、**CCM** サーバーの C:¥Novadigm¥ProxyServer¥upload ディレクトリ に保管されます。

設定およびファイルをバックアップするには

- 1 クライアントデバイスで Settings Migration Utility を起動します。
- 2 [設定およびファイルのバックアップ] を選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。

凶 410 ハックノッノ 1月判	図 40	ヾックアップ情報
------------------	------	-----------------

👷 HP OpenView Settings Migration Mar	nager X
バックアップ バックアップはこの情報により保護されます。	Except State
バックアップをセキュリティで保護するために使用す の復元を行うために必要です。	するコンピュータ名とパスワードを入力します。この情報紙は、データ
コンピュータ名	MIN2K3JP2
確認	WIN2K3JP2
パスワード	******
確認	*****
☑ パスワードの保存	
	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- 4 コンピュータ名とパスワードを入力して確認します。設定を復元するときに 必要なので、この情報を記録します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、[完了] をクリックします。
- 7 プロセスが完了したら、[OK] をクリックします。
 設定が CCM サーバーに保管され、デバイスへの復元に利用可能になりました。

保管された設定およびファイル

設定およびファイルをバックアップするたびに、CCM サーバーの C:¥Novadigm¥proxyserver¥upload ディレクトリに保管されます。

デバイスに関連付けられているファイルはすべて、ファイル名の一部にそのデバ イス名が含まれます。

定期的に、個々のデバイスについて保管されているデータを削除して、¥upload ディレクトリをクリーンアップする場合があります。どのデータを削除するかは、 各ファイル名のデバイス名を確認して判断します。

設定の復元

Settings Migration Utility を使用して、デバイスに設定を復元します。設定が 無人オペレーティングシステム配布(移行)の間にバックアップされた場合、 これらの設定を復元するオプションが提供されます。259ページの「無人オペ レーティングシステム配布から設定を復元するには」を参照してください。

設定を復元するには

- 1 クライアントデバイスで Settings Migration Utility を起動します。
- 2 [設定およびファイルの復元] を選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。

🕺 HP OpenView Settings Migration Ma	anager X
復元 バックアップした設定およびデータが復元さ	inata.
オリジナルのバックアップを作成したときに使用 元を行うために必要です。	利した情報を入力します。この情報版は、設定およびデータの解決と1度
コンピュータ名	WIN2K3JP2
パスワード	****
	< 戻る(B) 次へ(W) > キャンセル

- 4 復元する設定のコンピュータ名およびパスワードを入力します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、[完了]をクリックします。
- 7 復元プロセスが完了したら、[OK] をクリックします。 設定およびファイルが復元されます。



無人オペレーティング システム配布から設定を復元するには

- 1 クライアントデバイスで Settings Migration Utility を起動します。
- 2 [設定およびファイルの復元] を選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。

👷 HP OpenView Settings Migration Man	ager X
復元 バックアップした設定およびデータが復元され	ata.
オリジナルのバックアップを作成したときに使用し 元を行うために必要です。	た情報を入力します。この情報紙は、設定およびデータの解読と復
 オペレーティング システムの利 	多行からの復元
○ 復元には次の情報を使用し	a.a.
コンピュータ名	WIN2K3JP2
パスワード	kokolokokok
	,
	〈戻る個〉 次へ(11) 〉 キャンセル

- 4 [オペレーティングシステムの移行からの復元]を選択します。最後に実行した、移行を有効にした無人オペレーティングシステム配布の間に保管された設定にアクセスします。このオプションは、これらのタイプの設定が検出されたときだけ利用できます。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、[完了] をクリックします。
- 7 復元プロセスが完了したら、[OK] をクリックします。設定およびファイルが復元されます。
 - 復元された設定には、ドメイン プロファイルが含まれる場合があります。このため、特定のドメインのデバイスからバックアップされた設定は、同じドメイン内のデバイスにしか復元できません。

OS 配布の間の Settings Migration

設定およびファイルは、オペレーティング システム配布の間に保存できます。 CCM を使用してオペレーティング システムを配布します。詳細は、99 ページの「オペレーティング システムの配布」を参照してください。

OS 配布ウィザードの間に、ユーザーのデータおよび設定を移行するように 指示されます。[はい] を選択すると、Settings Migration Manager サービ スが、新しいオペレーティング システムと一緒に配布されます。配布の間に、 Settings Migration Utility が実行され、エンドユーザーは、デバイス名と パスワードを入力して、既存の設定をバックアップするように指示されます。 詳細は、255 ページの「Settings Migration Utility の使用」を参照してく ださい。

オペレーティング システムのインストールが完了したら、Settings Migration Manager サービスを再配布し、Settings Migration Utility を使 用して、バックアップしたデバイスの設定を復元します。最初のバックアッ プ プロセスで入力したデバイス名およびパスワードを必ず使用します。

OS 配布に無人モードを使用して、Settings Migration を選択した場合、 このプロセスも無人で実行されます。コンピュータ名およびパスワード といった、Settings Migration に必要な情報は、自動的に生成されます。 エンドユーザーは、Settings Migration Utility の OS 移行からの復元 機能を使用して、無人 OS 配布の間に保管された設定を復元します。

File Rules

大部分のファイルは、OV Settings Migration Manager の内蔵サポートを使用 して移行できます。企業の移行プロジェクトでは、その他のファイル移行サポー トが必要になることがあります。たとえば、社内で開発したアプリケーションで 作成された独自のファイル タイプを移行する場合があります。

大規模な移行プロジェクト用に設計されている File Rules は、パス、タイプ、 日付、およびサイズ別にファイルを含めたり除外したりする方法を提供します。 サブディレクトリは含めることも含めないことも可能です。複数のルールを作成 して、プロジェクトの目標と要件に合うように移行を調整できます。



File Rules は、ファイル ツリーを使用して選択したファイルよりも優先 されます。 次のセクションでは、File Rules の使用方法を説明します。

- File Rules へのアクセス (261 ページ)
- [File Rules] ダイアログ ボックス (262 ページ)

File Rules へのアクセス

File Rules にアクセスするには、Settings Migration Manager を起動し、 [Edit] > [File Rules] メニュー項目を使用します。

Data T	ransport - File Inc	lusion / Exc	lusion Rul	es							×
4 C 4 C 4 C	ource Path \'*.doc :*.txt \'*.doc, *.xls, *.txt		Date	Size	Sub Yes Yes Yes	X X	X	Destination Path		PrsSub	4 1
Ad	d Rule Edit Rule	e Dela	te Rule	Print		E	xport.	Import	OK	Cancel	

☑ 41 File Rules

File Rules には階層的な優先順位があります。2 つのルールが互いに矛盾する場合、 リストの上の方に表示されたルールが、下の方に表示されたルールより優先され ます。たとえば、ディレクトリ c:¥files から.jpg ファイルをすべて移行するときに、 そのディレクトリから他のファイルが移動するのを防ぐため、優先順位が使用さ れます。

宛先再マッピング機能を使用して、ファイルをターゲット コンピュータの別の ディレクトリにリダイレクトすることもできます。ネットワーク パスを含む任 意のパスを宛先として指定できます。サブディレクトリ構造は、保存することも 保存しないことも可能です。

[Add Rule]、[Edit Rule]、および [Delete Rule] ボタンを使用して、ルールの入力 および操作を行います。

ルールを削除または編集するには、[Source Path] カラムでルールをクリックし て強調表示し、[Delete Rule] または [Edit Rule] ボタンをクリックします。優先 順位を調整するため、ルールをリスト内で移動させることができます。ダイアロ グボックスの右側にある上矢印ボタンおよび下矢印ボタンを使用します。

終了したら、[OK] ボタンをクリックします。または、[キャンセル] をクリック して、セッションを破棄します。リストのルールは、現在の設定ファイルを保存 するときに保存されます。

[File Rules] ダイアログ ボックス

ルールを追加または編集するときは、[File Rules] ダイアログボックスが表示さ れます。

Include Source Path				Browse
C Exclude	Include Subdired	ctories		
Date				
Limit by Date	ei	*	7 /28/2006	•
File Size				
Limit by File Size	n or equal to	-	0	K byte
Destination Remapping				
Remap Destination	Preserve Subdin	ectories		
Destination Path				Browse

- [Include] または [Exclude] ラジオ ボタンを使用して、ルール タイプを選択 • します。
- [Source Path] テキスト ボックスに、影響を受けるファイルのパスを入力し ます。このコントロールでは、ワイルドカード文字「*」および「?」をパス

のファイル名およびファイル タイプ部分で使用できます。[Source Path] は、 トークンの置換もサポートしています。

 [File Rules] のソースのパスで、複数のファイルまたはファイル タイプを 「;」(セミコロン)で区切ると、複数のファイルまたはファイル タイプを 包含または除外できます。たとえば、[Include]を選択して [Source Path] に 次のように入力します。

C:¥*.doc;*.xls;*.mdb

これは、C: ドライブにある指定されたファイル タイプのファイルを検索し 抽出します。

[Exclude] を選択して次のように入力します。

C:¥*.mp3;*.dll;*.exe

指定されたファイル タイプに一致する C: ドライブのファイルが抽出から除 外されます。

移行のために同じファイルを指定する複数のルールを作成できますが、優先 順位が高い(リストの上の方に位置する)ルールだけがこれらのファイルを 移行します。

アプリケーション サポートの注意点

次のセクションでは、各アプリケーションの設定について、留意すべき重要な使 用上の注意および制限を記載します。

Microsoft Office サポートの注意点

次に、Microsoft Office について留意すべき利用上の重要な注意点をあげます。

Microsoft Office

- 次の Office アプリケーションのデータ ファイル、テンプレート、および永 続的な設定を移行します。
- MS Access
- MS Excel

- MS FrontPage
- MS InfoPath
- Office アシスタントの設定
- Office ショートカット バー
- MS OneNote
- MS Outlook
- MS PowerPoint
- MS Project
- MS Publisher
- MS Word

次のバージョンの Office がサポートされています。

- Office 95、Office 97、Office 2000、Office XP、および Office 2003
- 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- Office 95 から Office 97 へ
- Office 95 から Office 2000 へ
- Office 95 から Office XP へ
- Office 95 から Office 2003 へ
- Office 97 から Office 97 へ
- Office 97 から Office 2000 へ
- Office 97 から Office XP へ
- Office 97 から Office 2003 へ
- Office 2000 から Office 2000 へ
- Office 2000 から Office XP へ
- Office 2000 から Office 2003 へ
- Office XP から Office XP \sim
- Office XP から Office 2003 へ
- Office 2003 から Office 2003 へ

Microsoft Access

Access のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。 次のファイル タイプが移行されます。

Acess のデータ ファイル

.ade、.adp、.mad、.maf、.mag、.mam、.maq、.mar、.mas、.mat、.mav、.maw、.mda、.mdb、.mdbhtml、.mde、.mdt、.mdw

Acess のテンプレート ファイル

• .mdn、 .mdz、 .wizhtml

次のバージョンの Acess がサポートされます。

- Access 95、Access 97、Access 2000、Access XP、Access 2003
 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- Access 95 から Access 97 へ
- Access 95 から Access 2000 へ
- Access 95 から Access XP へ
- Access 95 から Access 2003 へ
- Access 97 から Access 97 へ
- Access 97 から Access 2000 へ
- Access 97 から Access XP へ
- Access 97 から Access 2003 へ
- Access 2000 から Access 2000 へ
- Access 2000 から Access XP へ
- Access 2000 から Access 2003 へ
- Access XP から Access XP へ
- Access XP から Access 2003 へ
- Access 2003 から Access 2003 へ

Microsoft Excel

Excel のデータファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Excel のデータ ファイル

 .csv, .dqy, .iqy, .oqy, .rqy, .slk, .xla, .xlb, .xlc, .xld, .xlk, .xll, .xlm, .xls, .xlshtml, .xlv, .xlw

Excel のテンプレート ファイル

• .xlt

次のバージョンの Excel がサポートされます。

• Excel 95, Excel 97, Excel 2000, Excel XP, Excel 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Excel 95 から Excel 97 へ
- Excel 95 から Excel 2000 へ
- Excel 95 から Excel XP へ
- Excel 95 から Excel 2003 へ
- Excel 97 から Excel 97 へ
- Excel 97 から Excel 2000 へ
- Excel 97 から Excel XP へ
- Excel 97 から Excel 2003 へ
- Excel 2000 から Excel 2000 へ
- Excel 2000 から Excel XP へ
- Excel 2000 から Excel 2003 へ
- Excel XP から Excel XP へ
- Excel XP から Excel 2003 へ
- Excel 2003 から Excel 2003 へ

Microsoft Frontpage

FrontPage のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。

FrontPage のデータ ファイルを移行するよう選択すると、、「ユーザーの一時ディレクトリを除外」および「ユーザーの一時インターネットディレクトリを除外」ポリシーが設定されていなければ(デフォルト)、ローカル ディスク ドライブにある .html および .htm ファイルがすべて移行されます。このような動作が好ましくない場合もあります。
 .html および .htm ファイルをすべて移行することが望ましくない場合、File Rules を使用して、これらのファイル タイプを完全に除外するか、ローカル ディスクの指定したファイル フォルダを選択的に除外できます。

次のファイル タイプが移行されます。

FrontPage のデータ ファイル:

• .asa、.asp、.cdx、.fphtml、.htm、.html、.htx、.shtm、.shtml、.stm

FrontPage のテンプレート ファイル:

• .tem

次のバージョンの FrontPage がサポートされます。

• FrontPage 2000、FrontPage XP、FrontPage 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- FrontPage 2000 から FrontPage 2000 へ
- HP Settings Migration Manager 89
- HP Settings Migration Manager 90
- FrontPage 2000 から FrontPage XP へ
- FrontPage 2000 から FrontPage 2003 へ
- FrontPage XP から FrontPage XP へ
- FrontPage XP から FrontPage 2003 へ
- FrontPage 2003 から FrontPage 2003 へ

Microsoft InfoPath

InfoPath のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。 次のファイル タイプが移行されます。

InfoPath のデータ ファイル:

• .xml, .xsf

InfoPath のテンプレート ファイル:

• .xsn

次のバージョンの InfoPath がサポートされます。

• InfoPath 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

• InfoPath 2003 から InfoPath 2003 へ

Office アシスタントの設定

Microsoft Office アシスタントの永続的な設定を移行します。



Settings Migration Manager は、特定のアシスタントを移行しません。 Office アシスタントと関連する設定を移行するだけです。

Office ショートカット バー

Office ショートカット バーの永続的な設定を移行します。

Microsoft OneNote

OneNote のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

OneNote のデータ ファイル

• .mht、.one、.onetoc

次のバージョンの OneNote がサポートされます。

- OneNote 2003
- 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- OneNote 2003 から OneNote 2003 へ

Microsoft Outlook

Outlook のデータ ファイル、Outlook メール クライアントと関連ファイル、お よび Outlook の永続的な設定を移行します。 🖕 ターゲット デバイスのサービスは、ソース デバイスのサービスと同じで ある必要があります。たとえば、ソース デバイスで Outlook が **Corporate Workgroup** に設定されている場合、ターゲット デバイスの Outlook も Corporate Workgroup に設定する必要があります。

次のファイル タイプが移行されます。

Outlook のファイル:

.ics、.msg、.oft、.pst(非アクティブ)、.vcs

▶ Outlook メール クライアントと関連ファイルを選択せずに .pst ファイル を移行する場合、アクティブな .pst ファイルは移行されますが、ター ゲットデバイスでアクティブにはなりません。

Outlook メール クライアントおよび関連ファイル:

Outlook Exchange およびインターネット メール クライアントが移行されます。 これには、Exchange のクライアントとして Windows メッセージが含まれます。 アクティブな個人用フォルダ (.pst ファイル)、アドレス帳 (.pab ファイル)、 およびオフラインのアドレス帳(.oab ファイル)も移行されます。

次のバージョンの Outlook がサポートされます。

Windows Messaging, Outlook 97, Outlook 98, Outlook 2000, Outlook XP、Outlook 2003

- Windows Messaging から Outlook 97 へ
- Windows Messaging から Outlook 98 \sim •
- Windows Messaging から Outlook 2000 \sim •
- Outlook 97 から Outlook 97 \sim •
- Outlook 97 から Outlook 98 へ •
- Outlook 97 から Outlook 2000 \sim
- Outlook 97 から Outlook XP へ •
- Outlook 97 から Outlook 2003 \sim •
- Outlook 98 から Outlook 98 \sim •
- Outlook 98 から Outlook 2000 \sim •
- Outlook 98 から Outlook XP へ

- Outlook 98 から Outlook 2003 へ
- Outlook 2000 から Outlook 2000 へ
- Outlook 2000 から Outlook XP へ
- Outlook 2000 から Outlook 2003 へ
- Outlook XP から Outlook XP へ
- Outlook XP から Outlook 2003 へ
- Outlook 2003 から Outlook 2003 へ

Microsoft PowerPoint

PowerPoint のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。 次のファイル タイプが移行されます。

PowerPoint のデータ ファイル:

• .pps、.ppt、.ppthtml、.ppz、.pwz

PowerPoint のテンプレート ファイル:

.pot、.pothtml

次のバージョンの PowerPoint がサポートされます。

• PowerPoint 95、PowerPoint 97、PowerPoint 2000、PowerPoint XP、 PowerPoint 2003

- PowerPoint 95 から PowerPoint 97 へ
- PowerPoint 95 から PowerPoint 2000 へ
- PowerPoint 95 3 h b PowerPoint XP \sim
- PowerPoint 95 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 97 3 3 6 PowerPoint 97 \sim
- PowerPoint 97 から PowerPoint 2000 へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint XP へ
- PowerPoint 97 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 2000 から PowerPoint 2000 へ

- PowerPoint 2000 から PowerPoint XP へ
- PowerPoint 2000 から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint XP から PowerPoint XP へ
- PowerPoint XP から PowerPoint 2003 へ
- PowerPoint 2003 から PowerPoint 2003 へ

Microsoft Project

Project のデータファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。 次のファイル タイプが移行されます。

Project のデータ ファイル:

• .mpd、.mpp、.mpw、.mpx

Project のテンプレート ファイル:

• .mpt

次のバージョンの Project がサポートされます。

• Project 98, Project 2000, Project 2002, Project 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Project 98 から Project 98 へ
- Project 98 から Project 2000 へ
- Project 98 から Project 2002 へ
- Project 98 から Project 2003 へ
- Project 2000 から Project 2000 へ
- Project 2000 から Project 2002 へ
- Project 2000 から Project 2003 へ
- Project 2002 から Project 2002 へ
- Project 2002 から Project 2003 へ
- Project 2003 から Project 2003 ヘ

Microsoft Publisher

Publisher のデータファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Publisher のデータ ファイル:

• .pub、.pubhtml、.pubmhtml

次のバージョンの Publisher がサポートされます。

• Publisher 2003

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

• Publisher 2003 から Publisher 2003 へ

Microsoft Word

Word のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。 次のファイル タイプが移行されます。

Word のデータ ファイル:

• .doc、.dochtml、.gly、.rtf、.wbk、.wiz

Word のテンプレート ファイル:

• .dot、.dothtml

次のバージョンの Word がサポートされます。

• Word 95、Word 97、Word 2000、Word XP、Word 2003

- Word 95 から Word 97 へ
- Word 95 から Word 2000 へ
- Word 95 から Word XP へ
- Word 95 から Word 2003 へ
- Word 97 から Word 97 へ
- Word 97 から Word 2000 へ
- Word 97 から Word XP へ
- Word 97 から Word 2003 へ
- Word 2000 から Word 2000 へ
- Word 2000 から Word XP へ

- Word 2000 から Word 2003 へ
- Word XP から Word XP へ
- Word XP から Word 2003 へ
- Word 2003 から Word 2003 へ

サポートされる他のアプリケーションと OS に関する注意点

次に、このリリースの OV Settings Migration Manager に含まれるコンテンツ 項目について、留意すべき利用上の重要な注意点をあげます。

ACT! 2000

ACT! 2000 の永続的な設定および ACT! 2000 ファイルを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

ACT! 2000 のファイル:

• .adt, .cly, .env, .gly, .lbl, .mpr, .rep, .rpt, .tpl, .usr, .wpa

ACT! 2000 のデータベース ファイル:

.dbf、.adb、.adx、.blb、.ddb、.ddf、.ddx、.edb、.edx、.gdb、.gdx、.hdb、.hdx、.lck、.mdx、.rel、.rem、.rex、.sdb、.sdx、.tdb、.tdx

Adobe Acrobat

Adobe Acrobat および **Adobe Acrobat Reader** の **Adobe Acrobat** ファイルおよ び永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Adobe Acrobat のデータ ファイル:

 .akf、.apf、.eps、.fdb、.fdf、.joboptions、.ndx、.p7c、.pdf、 .pdx、.pfx、.ps、.sequ

次のバージョンの Adobe Acrobat がサポートされます。

• Acrobat Reader 4.x, Acrobat Reader 5.x, Acrobat Reader 6.x, Acrobat Reader 7.x, Adobe Acrobat 4.x, Adobe Acrobat 5.x, Adobe Acrobat 6.0.

- Adobe Acrobat 4.x から 4.x へ
- Adobe Acrobat 4.x から 5.x へ
- Adobe Acrobat 4.x から 6.0 へ
- Adobe Acrobat 5.x から 5.x へ
- Adobe Acrobat 5.x から 6.0 へ
- Adobe Acrobat 6.0 から 6.0 へ
- Acrobat Reader 4.x から 4.x へ
- Acrobat Reader 4.x から 5.x へ
- Acrobat Reader 4.x から 6.x \sim
- Acrobat Reader 4.x から 7.x へ
- Acrobat Reader 5.x から 5.x へ
- Acrobat Reader 5.x から 6.x \sim
- Acrobat Reader 5.x から 7.x へ
- Acrobat Reader 6.x から 6.x へ
- Acrobat Reader 6.x から 7.x \sim
- Acrobat Reader 7.x から 7.x へ

Lotus Notes 5.X, 6.X

Lotus Notes のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。デフォルト の場所にあるユーザー ID ファイルおよび最後に使用されたユーザー ID ファイ ルだけが移行されます。



デフォルトではない場所に保管されているユーザー ID ファイルを移行す る場合、OV Settings Migration Manager の File Rules を使用します。

- Lotus Notes 5.x から Lotus Notes 5.x へ
- Lotus Notes 5.x から Lotus Notes 6.x へ
- Lotus Notes 6.x から Lotus Notes 6.x へ

Microsoft Internet Explorer

Internet Explorer の永続的な設定、クッキー、プロキシ設定、およびお気に入りを移行します。

次のバージョンの Internet Explorer がサポートされます。

• IE 4.01、IE 5.x、IE 6.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- IE 4.01 から IE 4.01 へ
- IE 4.01 から IE 5.x へ
- IE 4.01 から IE 6.x へ
- IE 5.x から IE 5.x へ
- IE 5.x から IE 6.x へ
- IE 6.x から IE 6.x へ

Microsoft NetMeeting

Microsoft NetMeeting の設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

NetMeeting のホワイトボード ファイル:

• .nmw、.wht

次のバージョンの Microsoft NetMeeting がサポートされます。

- Microsoft NetMeeting 2.x
- Microsoft NetMeeting 3.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Microsoft NetMeeting 2.x から Microsoft NetMeeting 2.x \sim
- Microsoft NetMeeting 2.x から Microsoft NetMeeting 3.x へ
- Microsoft NetMeeting 3.x から Microsoft NetMeeting 3.x へ

Microsoft Outlook Express

Microsoft Outlook Express の永続的な設定、Windows アドレス帳、メール、およびニュースのファイルを移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Outlook Express のファイル:

• .eml、.nws、Outlook Express ステーショナリ

次のバージョンの Microsoft Outlook Express がサポートされます。

- Outlook Express 5.x
- Outlook Express 6.x

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Microsoft Outlook Express 5.x \hbar \ddot{b} Microsoft Outlook Express 5.x \sim
- Microsoft Outlook Express 6.x から Microsoft Outlook Express 6.x へ

Netscape

Netscape のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のバージョンの Netscape Communicator がサポートされます。

- Netscape 4.5、Netscape 4.6、Netscape 4.7、および Netscape 6.x 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- Netscape 4.5 から Netscape 4.5 へ
- Netscape 4.5 から Netscape 4.6 \sim
- Netscape 4.5 から Netscape 4.7 へ
- Netscape 4.5 から Netscape 6.x へ
- Netscape 4.6 から Netscape 4.6 へ
- Netscape 4.6 から Netscape 4.7 へ
- Netscape 4.6 から Netscape 6.x へ
- Netscape 4.7 から Netscape 4.7 \sim
- Netscape 4.7 から Netscape 6.x \sim
- Netscape 6.x から Netscape 6.x へ

Norton AntiVirus

Norton AntiVirus の永続的な設定を移行します。

次のバージョンの Norton AntiVirus がサポートされます。

• Norton AntiVirus 2000

Norton AntiVirus Corporate Edition

Norton AntiVirus Corporate Edition のカスタム スキャンおよびユーザー設定 を移行します。

次のバージョンの Netscape Communicator がサポートされます。

• Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6 および Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0.

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Norton Anti
Virus Corporate Edition 7.6 לא ה
 b Norton Anti
Virus Corporate Edition 7.6. \frown
- Norton Anti
Virus Corporate Edition 7.6 ליה Symantec Anti
Virus Corporate Edition 8.0 \sim
- Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0 から Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0. ヘ

Visio

Visio のデータ ファイル、永続的な設定、およびテンプレートを移行します。 次のファイル タイプが移行されます。

Visio のデータ ファイル:

• .vsd, .vss, .vsw

Visio のテンプレート ファイル:

• .vst

次のバージョンの Visio がサポートされます。

• Visio 4.5、Visio 5.0、Visio 2000、Visio 2002 および Visio 2003 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

- Visio 4.5 から Visio 4.5 へ
- Visio 4.5 から Visio 5.0 へ
- Visio 4.5 から Visio 2000 へ

- Visio 4.5 から Visio 2002 へ
- Visio 4.5 から Visio 2003 へ
- Visio 5.0 から Visio 5.0 へ
- Visio 5.0 から Visio 2000 へ
- Visio 5.0 から Visio 2002 へ
- Visio 5.0 から Visio 2003 へ
- Visio 2000 から Visio 2000 へ
- Visio 2000 から Visio 2002 へ
- Visio 2000 から Visio 2003 へ
- Visio 2002 から Visio 2002 へ
- Visio 2002 から Visio 2003 へ
- Visio 2003 から Visio 2003 へ

WinZip

WinZip のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。



WinZip のコンテンツは、仕様により .cab ファイルを移行しません。 .cab ファイルの移行を希望する場合、OV Settings Migration Manager の File Rules を使用します。

次のファイル タイプが移行されます。

WinZip ファイル

.arc、.arj、.b64、.bhx、.gz、.hqx、.lzh、.mim、.tar、.taz、.tgz、.tz、.uu、.uue、.xxe、.z、.zip

次のバージョンの WinZip がサポートされます。

- WinZip 7.x
- WinZip 8.x
- WinZip 9.0

- WinZip 7.x から WinZip 7.x へ
- WinZip 7.x から WinZip 8.x へ

- WinZip 7.x から WinZip 9.0 へ
- WinZip 8.x から WinZip 8.x へ
- WinZip 8.x から WinZip 9.0 へ
- WinZip 9.0 から WinZip 9.0 へ

WordPerfect for Office 2000

WordPerfect Office 2000 は、次のアプリケーション用のデータ ファイル、テン プレート、および永続的な設定を移行します。

- Corel Utilities (アドレス帳および QuickFinder)
- Dragon NaturallySpeaking for WordPerfect 3.x および 4.x
- Quattro Pro 9.0
- WordPerfect 9.0

次のバージョンの WordPerfect Office がサポートされます。

• WordPerfect Office 2000

次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。

• WordPerfect Office 2000 から WordPerfect Office 2000 \sim

Dragon Naturally Speaking for WordPerfect

Dragon NaturallySpeaking のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。 次のバージョンの **Dragon NaturallySpeaking** がサポートされます。

- **Dragon NaturallySpeaking 3.x、Dragon NaturallySpeaking 4.x** 次の方向については、バージョン間の移行がサポートされています。
- Dragon NaturallySpeaking 3.x \hbar b Dragon NaturallySpeaking 3.x \sim
- Dragon NaturallySpeaking 3.x \hbar b Dragon NaturallySpeaking 4.x \sim
- Dragon NaturallySpeaking 4.x から Dragon NaturallySpeaking 4.x へ

Corel Utilities

Corel アドレス帳: Corel アドレス帳の永続的な設定およびデータ ファイルを移 行します。 Corel QuickFinder : Corel Office 2000 Suite QuickFinder の設定を移行します。

Corel Quattro Pro

Quattro Pro のデータ ファイルおよび永続的な設定を移行します。

次のファイル タイプが移行されます。

Quattro Pro 9 のデータ ファイル

• .qpw、.wb1、.wb2、.wb3、.wq1

Corel WordPerfect

WordPerfect のデータ ファイルおよび WordPerfect の永続的な設定を移行します。 次のファイル タイプが移行されます。

WordPerfect 9 のデータ ファイル

• .frm、.lab、.usr、.wpd、.wpt

データ転送

File Rules、ファイル ツリー、およびレジストリ ルールで設定されたファイル およびレジストリ値を移行します。

Windows のオプション

次の永続的な設定およびファイルを移行します。コントロール パネル、デスク トップ ショートカット、ダイヤルアップ ネットワーク、フォルダ オプション、 ローカル プリンタ ログ、マッピングされたネットワーク ドライブ、マイ ド キュメント、ネットワーク接続および共有プリンタ接続、ネットワーク設定、タ スク バーおよびクイック起動バー、Windows アドレス帳。

デスクトップ ショートカット

デスクトップ上のショートカットを移行します。

デフォルトでは、リンクが切れたデスクトップショートカットは移行されません。たとえば、ソースマシンのデスクトップに、インストールされたアプリケーションのショートカットがあり、そのアプリケーションがターゲットマシンにはインストールされていない場合、ターゲットマシンではリンクが切れてしまうので、このショートカットは移行されません。リンクが切れたファイルを移行するには、[編集]メニューから[設定]を選択して、[切れたショートカットポリシー]チェックボックスをチェックします。リンクが切れたファイルが、ソースディレクトリへ移行され、Broken Shortcuts フォルダに配置されます。

ダイヤルアップ ネットワーク

ダイヤルアップ ネットワークの永続的な設定およびファイルを移行します。

▶ 仕様により、ハードウェアに関連する永続的な設定は移行されません。

フォルダ オプション

フォルダ オプションの永続的な設定を移行します。

ローカル プリンタ ログ

ユーザーのデスクトップでの導入の間に printinfo.txt ファイルが作成され ます。このファイルには、ネットワーク プリンタおよびローカル プリンタの両 方のプリンタ情報が含まれています。

マッピングされたネットワーク ドライブ

マッピングされたネットワーク ドライブを移行します。ターゲット マシンで、 移行するマッピングされたドライブと同じドライブ文字が使用されている場合、 移行されるネットワーク ドライブには、利用可能な次のドライブ文字が使用さ れます。

▶ ハードウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

マイドキュメント

マイドキュメントフォルダの内容を移行します。

▶ マイ ドキュメント フォルダの名前または場所が変更されている場合でも、 OV Settings Migration Manager は、そのフォルダを「マイ ドキュメン ト」として認識し、フォルダの内部をターゲットマシンの「マイドキュ メントレフォルダに移行します。

ネットワークおよび共有プリンタの設定

ネットワーク プリンタおよび共有プリンタを移行します。プリンタは、有効な UNC パスがあり、ネットワークまたは共有を介してアクセス可能な場合に移行 されます。プリンタが移行されると、プリンタ アイコンがターゲット システム のデスクトップに表示されます。このアイコンをダブルクリックして、プリンタ をインストールします。



▶ OV Settings Migration Manager Operator は、各ユーザーについて移行さ れるプリンタへの完全なアクセス権を持っている必要があります。ハード ウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

ネットワーク設定

コンピュータ名、ワークグループ/ドメイン、説明、IP アドレス、DHCP、DNS、 および WINS の設定を移行します。



▶ すべての問題点を十分に理解している場合を除き、ネットワーク設定の 移行により、間題が発生する場合があります。

タスク バーおよびクイック起動バー

[スタート] メニューの設定、タスクバーの設定、およびクイック起動バーの ショートカットを移行します。

Windows アドレス帳

Windows アドレス帳を移行します。

コントロール パネル



▶ ハードウェア関連の設定およびファイルは、仕様により移行されません。

次の永続的な設定およびファイルを移行します。

ユーザー補助オプション、表示、インターネットオプション、キーボード、マ ウスの設定、電源の管理、地域設定、サウンド、およびタイム ゾーン。

ユーザー補助オプション

キーボード、サウンド、表示、およびマウスのユーザー補助設定を移行します。

表示

外観、テーマ、背景、および視覚効果を移行します。

インターネット オプション

インターネット プロパティ (ホームページ、色、フォント、言語)を移行します。

キーボード

キーボードの言語およびキーボードの設定を移行します。キーボードの言語は、 インストールしているオペレーティングシステムによって、保管されている場 所や名前が異なります。

Windows 98 では、設定は次のパスに保管されています。

[コントロールパネル] ¥ [キーボード] ¥ [言語] (タブ)

Windows NT および Windows 2000 では、設定は次のパスに保管されています。

[コントロールパネル] ¥ [キーボード] ¥ [入力ロケール](タブ)

Windows 2000 の次のパスにも、設定があります。

• [コントロールパネル] ¥ [地域の設定] ¥ [入力ロケール]

Windows XP Professional では、設定は次のパスにあります。

 [コントロールパネル] ¥ [地域と言語のオプション] ¥ [言語] (タブ) ¥ [詳細] (ボタン)

マウスの設定

マウスの永続的な設定およびファイル(ボタン、動作、ポインタ、およびスキー マ)を移行します。

電源管理

電源管理の永続的な設定を移行します。

地域の設定

永続的な地域の設定を移行します。

オペレーティングシステムのバージョンにより国コードが変更された場合、またはその国コードがターゲットマシンに存在しない場合、設定は移行されません。

サウンド

Windows のシステム サウンドの永続的な設定およびファイルを移行します。

タイム ゾーン

タイム ゾーンの永続的な設定を移行します。

12 よく寄せられる質問

この章では、CCM およびそのコンポーネントを使用したときに利用できる一般 的な管理タスクに関する、よく寄せられる質問を紹介します。

- CCM コンソールにはどうやってアクセスしますか? (286 ページ)
- どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか? (286ページ)
- コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか? (287 ページ)
- 自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?
 (287ページ)
- インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?
 (288ページ)
- 管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか?
 (288ページ)
- パッチ取得はどのようにして自動化できますか? (289ページ)
- パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか?
 (289ページ)
- 管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?
 (290ページ)
- 特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか? (290 ページ)
- ライセンスキーはどのようにして更新しますか?(291ページ)
- OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成 しますか?(291ページ)
- ソフトウェアをある1つのデバイスに配布するには、どのようにしますか? (292ページ)
- コンソールを使用せずに管理エージェントをデバイスにインストールするには、 どのようにしますか?(292ページ)
- Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか? (293 ページ)
- setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか? (293 ページ)

- 全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか?
 (293ページ)
- ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのように しますか?(294ページ)
- デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか?
 (294ページ)
- OS イメージを取得するには、どのようにしますか? (295 ページ)
- OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか? (295 ページ)
- OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか? (295 ページ)
- OS イメージを配布するには、どのようにしますか? (296 ページ)
- 利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか? (296 ページ)
- サポートに連絡するには、どのようにしますか? (297ページ)

CCM コンソールにはどうやってアクセスしますか?

お使いの環境にある任意のデバイスからブラウザを使用して、CCM コンソール にアクセスします。

• http://*CCMhost*:3480/CCM に移動します。ここで、*CCMhost*は、CCM が インストールされているサーバーの名前です。

どのバージョンを使用しているかは、どのようにし てわかりますか?

• CCM のバージョン情報を表示するには、[設定] 領域の [サポート] セクショ ンを使用します。

コンソールのパスワードはどのようにして変更でき ますか?

各コンソール ユーザーには、コンソール ユーザーを作成するときに管理者が指 定した独自のパスワードがあります。コンソール ユーザーのログイン パスワー ドは、[設定] 領域の [コンソールへのアクセス] セクションで変更します。

- コンソール ユーザーのユーザー ID をクリックして、[ユーザーの詳細] ウィンドウを開きます。
- [パスワードの変更]領域で、表示されたテキストボックスに新しいパス ワードを入力して確認します。
- **[保存]** をクリックします。

新しいパスワードが保存されます。

自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?

デバイスは、管理エージェントが配布されると、管理されます。エージェントを 配布するには、そのデバイスを CCM に追加する必要があります。

最初にデバイスをインポートします。

- [デバイス管理]の[一般]タブで[管理対象デバイスのインポート]をクリックします。デバイスインポートウィザードが開始されます。
- 158ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

デバイスがインポートされたら、管理エージェントを配布します。

- [デバイス管理]の[一般]タブで[管理エージェントの配布]をクリックしま す。エージェント配布ウィザードが開始されます。
- 159 ページのウィザードの手順に従って、管理エージェントを配布します。

エージェントが配布されると、デバイスが管理できるようになり、ソフトウェア、 パッチ、およびインベントリ管理の準備が完了します。

インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?

ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリは、ソフトウェア/ハードウェ アインベントリ ウィザードを使用して指定したスケジュールに基づいて収集さ れます。

- 最初に、インベントリ収集のスケジュール設定を、個々のデバイスについて 行うか、グループについて行うかを選択します。[デバイス管理]の[デバイ ス] セクションまたは [グループ管理] の [グループ] セクションで選択します。
- ツールバーで、[インベントリの収集] ⁴ ツールバー ボタンをクリックして、 [ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索] を選択し、ウィザードを 起動します。
- 161ページのウィザードの手順に従って、ユーザーのデバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。



ソフトウェア配布ジョブが完了すると、追加されたインベントリ収集 が実施されます。

管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのよう にして表示できますか?

[レポート] タブを使用して、管理対象デバイスのインベントリ情報を表示します。

- [レポート] タブのホームページから、[インベントリ情報]の下にある[管理 対象デバイスを表示]をクリックします。全管理対象デバイスの一覧が表示 されます。
- ページの左側のツールを使用するか、各リスト項目の条件をクリックしてリ ストをさらにフィルタします。
- ある1つのデバイスの情報を表示するには、[詳細を表示]
 をクリックします。
パッチ取得はどのようにして自動化できますか?

[設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得のスケジュール および設定を指定します。

- 1 [パッチ取得スケジュール] 領域で、付属のツールを使用して、取得スケ ジュールを設定します。
 - 実行:時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
 - **間隔**:具体的な間隔(時間、日、または週)を選択します。
 - 開始日:ドロップダウンリストを使用して、パッチ適合性を探索する日 を選択します。
 - [現在のサーバー時刻]は、CCM サーバーの現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、[保存] をクリックして、変更をコミットします。[現在のスケ ジュール]の後に、新しいスケジュールが表示されます。
- 3 [パッチ取得設定] 領域に、各探索期間で取得するブリテンを入力します。ある範囲のブリテンを指定するには、ワイルドカード文字を使用できます (MS05* など)。複数のブリテン検索を同時に行うには、コンマで区切ります(MS05*, MS06* など)。
- 4 ブリテンの取得元の [プロキシ サーバーのアドレス] を入力します (http://proxyserver:8080/ など)。
- 5 必要な場合、パッチを取得するためのプロキシ ユーザー ID およびプロキシ パスワードを入力します。
- 6 [保存] をクリックして、変更をコミットします。

パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして 設定しますか?

- パッチ適合性探索のスケジュールを指定するには、[デバイス] タブから管理 対象デバイスを選択します(または、[グループ] タブからグループを選択し ます)。
- [インベントリの収集] ⁴/₄ ツールバー ボタンをクリックして、[パッチ適合 性の探索] を選択し、パッチ適合性探索ウィザードを起動します。

- 162ページのウィザードの手順に従って、デバイスおよびグループのパッチ 適合性探索のスケジュールを指定します。
- [レポート]タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適合性レポートを表示します。

管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布する には、どのようにしますか?

最初に、管理対象デバイスをすべて含むダイナミック報告グループを作成します。

- [レポート] タブの[インベントリ]の下で、[管理対象デバイスを表示]をクリックします。
- 全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- [新しいダイナミックレポートグループの作成] 学 をクリックします。グ ループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- [管理] タブで [ソフトウェア管理] をクリックします。
- [ソフトウェアの配布] をクリックします。
- これで、ソフトウェア配布ウィザード開始されます。ウィザードの指示に 従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。

特定の Microsoft パッチを取得するには、どのよう にしますか?

 [設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、[パッチ取得設定] の [取 得するブリテン] テキスト ボックスに具体的なパッチ ブリテン番号を指定し ます。

設定を行ってすぐにパッチ取得を起動できます。定期的にパッチを 取得するようにパッチ取得スケジュールを設定した場合、取得設定 の値をリセットする必要があります。これは、これらから先の取得の 間に、パッチ取得が特定のパッチだけを取得するのを防ぐためです。

ライセンス キーはどのようにして更新しますか?

- テキストエディタを使用して、新しいライセンスファイル(license.nvd など)を開きます。
- ファイルの内容を、[設定] タブの [サポート] セクションにある [ライセンス データ] テキスト ボックスにコピーします。
- [保存]をクリックして、ライセンス情報を更新します。

OS サービス パックの対象とするデバイスのグ ループをどのようにして作成しますか?

[レポート] タブを使用して、特定のサービス パックを適用していない全デバイ スを含むクエリを作成します。この例では、サービス パック 2 をインストール していない Windows XP デバイスすべてを含むグループが作成されます。

- [データ フィルタ] 領域で [インベントリ管理の関連情報] をクリックします。
- [OS 関連情報] をクリックします。
- [オペレーティング システム] をクリックして、「*Windows XP*」と入力 します。
- [適用] をクリックします。Windows XP をインストールしてある全デバイ スが表示されます。
- [オペレーティング システムのレベル] をクリックして、「!Service Pack 2」と入力します。
- [適用] をクリックします。Service Pack 2 をインストールしていない Windows XP デバイスがすべて表示されます。
- 次に、[新しいダイナミックレポートグループの作成] をクリックして、 グループ作成ウィザードの指示に従い、デバイスのグループを作成します。

ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するに は、どのようにしますか?

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェアをある 1 つのデバ イスに配布します。

- [管理] タブで [ソフトウェア管理] をクリックします。
- [ソフトウェア ライブラリ] をクリックして、パブリッシュされたソフトウェ アをすべて表示します。
- ある 1 つのデバイスに配布するソフトウェアの説明リンクをクリックします。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウが開きます。
- [デバイス] タブをクリックして、そのソフトウェアを配布するデバイスを選択します。
- [ソフトウェアの配布] ⁽¹⁾ をクリックして、ソフトウェア配布ウィザードを 開始します。
- ウィザードの手順に従って、そのデバイスにソフトウェアを配布します。

コンソールを使用せずに管理エージェントをデバイ スにインストールするには、どのようにしますか?

CCM CD-ROM に収録されている管理エージェント インストール プログラムを 使用して、常時ネットワークに接続されているとは限らないデバイスに、エー ジェントをインストールします。

- CCM インストール CD-ROM の RadAgent ディレクトリにある、管理エージェントの setup.cmd ファイルを使用します。
- コマンドラインで次のように入力します: setup.cmd CCM_IP_Addr ここで、CCM IP Addr はお使いの CCM サーバーの IP アドレスです。
- **Enter** キーを押します。

管理エージェントがインストールされます。

Windows インストーラ パッケージをパブリッシュ するには、どのようにしますか?

 Publisher を使用して、パブリッシュするデータのタイプに [Windows イン ストーラ] を選択します。Publisher の手順に従って、Windows インストー ラファイルが、管理対象デバイスへの配布に利用できるようにします。

詳細は、**Publisher** のオンライン ヘルプ または「第9章、**Publisher** の使用」 を参照してください。

setup.exe をパブリッシュするには、どのようにし ますか?

Publisher を使用して、パブリッシュするデータのタイプに[コンポーネントを選択]を選択します。パブリッシュするファイルを選択して、Publisherの指示に従い、管理対象デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

詳細は、**Publisher** のオンライン ヘルプ または「第9章、**Publisher** の使用」 を参照してください。

全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか?

- [管理]領域で[ソフトウェア管理]をクリックします。
- [レポート] タブで [ソフトウェアの要約] をクリックします。[レポート] 領域に、全デバイス、管理対象デバイス、および失敗したデバイスの要約が表示されます。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [デバイス] タブを使用して、デバイス別の ソフトウェアのステータスを表示することもできます。

 ソフトウェアの説明リンクをクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンド ウを開きます。

- [**デバイス**] タブをクリックします。
- [ソフトウェアのステータス]カラムを表示して、どの管理対象デバイスにソフトウェアがインストールされているかを確認します。エンタイトルメントが設定されたデバイスだけが表示されます。

ソフトウェアをユーザーがインストールできるよう にするには、どのようにしますか?

ソフトウェア エンタイトルメントをデバイスのグループに追加して、 Application Self-Service Manager から、ユーザーがそのソフトウェアをインス トールできるようにします。

- [管理] タブの [グループ管理] セクションで [グループ] タブをクリックします。
- グループの説明リンクをクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開き ます。
- [ソフトウェア] タブをクリックして、そのグループにエンタイトルメントが 設定されている全ソフトウェアを表示します。
- 別のソフトウェアのエンタイトルメントを設定するには、[ソフトウェアエンタイトルメントの追加] 参加をクリックします。
- エンタイトルメントを設定するソフトウェアを選択して、[エンタイトルメントの追加] をクリックします。

エンタイトルメントを設定すると、ソフトウェアは、コンソールまたは個々のデ バイスの Application Self-Service Manager から配布できるようになります。

デバイス適用状況レポートを生成するには、どのよ うにしますか?

- [レポート] タブを使用して、どのパッチ ブリテンの適合性を確認するかを 指定します。
- [データ フィルタ] で [パッチ管理の関連情報] をクリックします。
- [パッチ適合性ステータス] をクリックします。

- ブリテンの名前または名前の一部を入力して、[適用]をクリックします。
- レポートリストの上部にあるツールを使用して、レポートのエクスポート または印刷を行います。

OS イメージを取得するには、どのようにしますか?

Image Preparation Wizard を使用して、オペレーティング システム イメージ の準備と取得を行います。

- ImageCapture.iso ファイルから Image Preparation CD を作成します。このファイルは、CCM メディアの ¥OSManagement¥ISO¥CaptureCD ディレクトリにあります。
- 詳細な手順については、Image Preparation Wizard のオンライン ヘルプ、 または 181 ページの「OS イメージの準備と取得」セクションの準備の手順 に従います。

OS イメージにドライバを追加するには、どのよう にしますか?

配布用にオペレーティング システム イメージを取得する前に、予想されるすべ てのデバイスのハードウェア設定に対する OEM のドライバがインストールされ ているかを確認するのが良いでしょう。

 次の Microsoft サポート技術情報の記事には、Windows OS のインストール に OEM ドライバを含めることに関する情報が記載されています。

http://support.microsoft.com/kb/314479/ja

OS イメージをパブリッシュするには、どのように しますか?

Publisher を使用して、パブリッシュするデータのタイプに [OS イメージ]
 を選択します。パブリッシュするオペレーティング システム イメージを選

択して、Publisher の指示に従い、デバイスへの配布にそのファイルが利用 できるようにします。



🕨 Image Preparation Wizard を使用して取得したイメージは、デフォル トでは CCM サーバーの ¥Novadigm¥OSManagerServer¥upload¥ に 保存されます。

詳細は、Publisher のオンライン ヘルプ または「第9章、Publisher の使用」 を参照してください。

OS イメージを配布するには、どのようにしますか?

最初に、OS イメージを受信する全デバイスを含むスタティック グループを作成 します。

- [グループ管理]の[一般]タブから、[新しいスタティック グループの作成] をクリックします。
- グループ管理ウィザードが開始されます。グループ作成ウィザードの手順に 従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- [管理] タブで [OS 管理] をクリックします。
- [オペレーティング システムの配布] をクリックします。

OS 配布ウィザードが開始されます。ウィザードの指示に従って、最初に新しく 作成したグループを、次に配布するソフトウェアを選択します。OS 管理ジョブ が作成されます。

利用状況データの収集を開始するには、どのように しますか?

利用状況データは、利用状況収集エージェントが、管理対象デバイスでローカル に収集し保存します。利用状況データの収集を開始するには、次を行います。

1 利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、収集フィルタを作成して有 効にします。詳細は、150ページの「利用状況の収集」を参照してください。

- 2 アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、利用状況収集エージェントを配布し、利用状況データの収集を始めます。162ページのウィザードの手順に従って、グループから利用状況データを収集するスケジュールを指定します。または、個々のデバイスからの1回だけの収集を強制します。利用状況データは、12か月の間、ローカルデバイスで保存されます。
 - ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。利用状況情報がほしいアプリケーションについてだけ、データを収集するフィルタを作成するように、強く推奨します。

全アプリケーションについて利用状況データを収集するのは、避けてく ださい。

サポートに連絡するには、どのようにしますか?

• CCM コンソールの [設定] タブを使用して、サポート連絡先情報を確認します。

13 トラブルシューティング

次のセクションを使用して、CCM の使用中に遭遇する一般的な問題のトラブル シューティングを行います。

- ログファイル (299 ページ)
- エージェント配布の問題 (300ページ)
- OS 配布の問題 (301 ページ)
- Application Self-Service Manager の問題 (301 ページ)
- 電源管理の問題 (302 ページ)

ログ ファイル

CCM のログファイルは、サーバーの次のディレクトリにあります。

- ¥Novadigm¥Apache Group¥Apache2¥logs
- ¥Novadigm¥ConfigurationServer¥Log
- ¥Novadigm¥ManagementPortal¥logs
- ¥Novadigm¥MessagingServer¥logs
- ¥Novadigm¥OSManagerServer¥logs
- ¥Novadigm¥PatchManager¥Logs
- ¥Novadigm¥ProxyServer¥logs
- ¥Novadigm¥ReportingServer¥logs

ログ ファイルのサイズは、時間が経過するにつれて大きくなります。ログには、 CCM サービスが動作中に使用されるものもあります。これらのアクティブなロ グ ファイルを削除しないでください。履歴ログ ファイルは必要に応じてアーカ イブしたり削除したりできます。

エージェント配布の問題

次の表は、エージェント配布ジョブの一般的なエラー メッセージおよび問題を 解決するための手順を示しています。

メッセージ	トラブルシューティングの手順
Failed to connect to <i>device</i> as user <i>user</i> . code:no network provider accepted the given network path.} {debug:exit(1), exit status was 1	CCM サーバーは、エージェントイン ストールメディアをコピーするため、 管理共有を作成します。Windows ファイアウォールなどのパーソナル ファイアウォールが、この共有をブ ロックする場合があります。管理対象 デバイスのファイアウォール除外リス トに、3463 番ポートおよびファイル と印刷共有サービスが追加されている ことを確認します。
Failed to connect to <i>device</i> as user <i>user</i> . code:logon failure:unknown user name or bad password.} {debug:exit(1), exit status was 1	エージェント配布ウィザードの間に 使用されたログイン資格情報が正 しく、ユーザー ID がそのデバイス の管理特権を持っていることを確 認します。パスワードは必ず入力 してください。Windows XP デバ イスでは、簡易ファイルの共有が無 効になっていることを確認します。
Connection timed out	CCM サーバーは、エージェントを デバイスに配布した後、3463 番ポー トを使用して、そのデバイスへの TCP 接続を確立します。このポート がパーソナル ファイアウォールでブ ロックされていると、CCM はデバ イスを管理できません。管理対象デ バイスのファイアウォール除外リス トに、3463 番ポートおよびファイル と印刷共有サービスが追加されてい ることを確認します。

表 18 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティングの手順

メッセージ	トラブルシューティングの手順
Timeout waiting for rma to register	エージェントは、デバイスにインス トールされた後、3466番ポートを使用 して、CCMサーバーに登録されます。 このポートがCCMサーバーでファイ アウォールによりブロックされている と、CCMはデバイスを管理できませ ん。CCMサーバーのファイアウォー ル除外リストに、3463番ポートが追加 されていることを確認します。

OS 配布の問題

この章では、オペレーティング システム イメージの配布中に遭遇する一般的な 問題について説明します。

TFTP サーバーが起動後にシャットダウンする

• 同じコンピュータで他の TFTP サーバーが動作していないことを確認します。

PXE がサブネットを横断できない

PXE がサブネットを自由に移動するには、DHCP ヘルパーが有効である必要があります。DHCP ヘルパーは、DHCP ポートでのブロードキャストトラフィックの横断を許可します。通常、ブロードキャストはルーターではオフになっています。

Application Self-Service Manager の問題

このセクションでは、Application Self-Service Manager のよくある問題および 問題を解決する手順を説明します。

アプリケーションのインストールが失敗し、カタログにはインストールされたと 表示される

問題

インストールプログラムが失敗時にゼロを返すと、カタログには、アプリケー ションがインストールされたと表示される場合があります。

対処法

Application Self-Service Manager は、インストールが成功したかどうかを検出 するのに、リターンコードを信頼しています。**Application Self-Service Manager** が失敗を検出するには、インストールはゼロ以外のコードを返す必要 があります。

このためには、インストールをコマンドファイルにラッピングし、正しいコードを返すことでプロセスが成功したかどうかを確認するロジックを使用します。

電源管理の問題

このセクションでは、CCM 電源管理機能に関連するタスクの問題と対処法を説 明しています。

デバイスが CCM サーバーからの電源コマンドに応答しない

管理対象デバイスが、CCM サーバーからの電源オン コマンドに応答しない場合、 ルーターやスイッチなどのネットワーク デバイスの設定に問題があることがあ ります。

Wake on LAN サポートについて、CCM サーバーから管理対象デバイスへのネットワークパスをテストします。ネットワークデバイスにリモートの電源オンコマンドを送信するためのサードパーティ製ツールが、いくつかあります。インターネットで「Wake on Lan ツール」を検索すると、この機能をテストするための無料のツールが見つかります。

A バイト文字のサポートについて

このセクションでは、サービス オペレーティング システム (SOS) のロケール を設定する、設定の変更を説明します。

Image Preparation Wizard を使用してイメージを作成するとき、参照 マシンとターゲットマシンのロケールが一致する必要があります。たと えば、簡体中国語の OS イメージを作成する場合、簡体中国語の参照マ シンで Image Preparation Wizard を実行する必要があります。

🛕 2 バイト文字が必要でない場合は、以下の変更を行わないでください。

サポートされる言語

中国語(簡体字)、日本語、韓国語

ロケールの変更

PXE 環境において、中国語(簡体字)、日本語、韓国語にサポートを追加するには

 テキストエディタを使用して、¥X86PC¥UNDI¥linux-boot¥linux.cfg¥default を開きます。ファイルは次のように表示されます。

DEFAULT bzImage

```
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1
ISVRPORT=3466
```

- APPEND 行の最後に LANG パラメータを追加して、言語コードを設定します。 有効なコードは次の通りです。
 - zh_CN = 簡体中国語
 - ja_JP = 日本語
 - ko_KR = 韓国語
 - en_US = 英語

3 結果的に、ファイルは次のようになります(次の例では、言語を日本語に設定しています)。

DEFAULT bzImage

APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1 ISVRPORT=3466 LANG=ja JA

4 default ファイルを保存して閉じます。

サービス CD-ROM から復元するときに簡体中国語、日本語、または韓国語のサポートを追加するには

- romsinfo.ini ファイルの ServiceCD セクションに LANG=xx_XX を指定し ます。この場合の xx_XX は設定する言語の言語コードです。有効な言語 コードは次の通りです。
 - zh_CN = 簡体中国語
 - ja_JP = 日本語
 - ko_KR = 韓国語
 - en_US = 英語
- romsinfo.ini ファイルは、サービス CD iso の一部です。

Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート

Sysprep で2バイト文字を使用する場合、ファイルは UTF-8 コーディングでエ ンコードする必要があります。

索引

A

Agent Explorer, 27, 230 APIC, 102 APIC マシン, 190 Application Self-Service Manager, 26 アクセス,231 Application Self-Service Manager のユーザーインター フェイス,231 Application Self-Service Manager ユーザー インターフェ イス,231 カタログリスト,234 カタログのリフレッシュ,237 グローバル ツールバー,233 サービス リスト,235 情報の表示,237 ソフトウェアのインストール,236 ソフトウェアの削除,238 メニューバー,234

Avis, 245

В

Basic 製品, 21 機能, 22 BIOS の電源管理, 182 bootsect.exe, 35

С

CCM_Publisher, 79 CCM_SMM, 80 CCM_TPM_ENABLEMENT, 79 CCMDB, 33 CCMDB_Data.MDF, 33 Client Configuration Manager, 19 インストール, 32 概要, 19, 21
CM Administrator Agent Explorer, 230
CM Administrator Publisher, 79
CM システム トレイのアイコン, 248
[CM ステータス] ウィンドウ, 248 ステータスメッセージ領域, 249 ステータス領域, 249
[CM ステータス] ウィンドウの情報パネル コンソール, 249
CM ボタンバー, 249
Configuration Management Administrator Publisher, 27
CSV にエクスポート, 128

D

Deploy.cab, 184 Deploy.chm, 184

E

Embeded Linux, 103, 200 Extend OemPartition $^{n}\vec{7} \times -9$, 183, 186

Н

HAL, 102 Hardware Abstract Layer. HAL を参照 HP Softpaq パブリッシュ, 224 HP ハードウェア レポート, 126 hpccm.exe, 33

Image Preparation Wizard, 183 Image Preparation Wizard, 28, 186, 188, 194, 198, 202 使用, 188, 194, 198, 202 ImageName.EDM, 187, 193, 198, 202 ImageName.IMG, 187 ImageName.MBR, 187 ImageName.PAR, 187 imagex.exe, 35 IQY にエクスポート, 128

JoinDomain パラメータ,186

L

logfiles.zip, 135

Μ

Microsoft Sysprep, 184 Microsoft パッチ, 285, 290 Microsoft 自動更新 重要な情報, 87

Ν

netinfo.ini, 207

0

ODBC DSN, 34
ODBC 設定, 設定, 149
OS イメージターゲット デバイス 要件, 101
OS 管理, 97, 145

一般, 97
オペレーティング システム, 98
過去のジョブ, 110
現在のジョブ, 110

OS サービス パック, 285, 291 [OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変 更する] チェック ボックス, 190
[OS のインストール後にクライアント接続を実行する] チェック ボックス, 195, 203
os の詳細 グループ, 109 プロパティ, 109
OS の詳細, 108
OS のパーティション, 186
OS 配布ウィザード, 176

Ρ

Premium 製品, 21 機能, 23 prepwiz.exe, 188, 194, 198 Publisher, 27 使用, 213 別のデバイスへのインストール, 37

PXE, 104 PXE ブート, 102

R

romsinfo.ini, 207

S

SCSI, 102 Settings Migration Manager, 28 Settings Migration Manager サービス, 80 Settings Migration Utility, 28 setup.exe, 285, 293 Setupmgr.exe, 185 SQL Server, 30 SQL Server Enterprise Manager, 33 SSM, 225 SSM 準拠, 225 Sysprep.inf ファイル, 184 [Sysprep.inf に大容量ストレージ セクションをビルドする] チェック ボックス, 189 [SysprepMassStorage] セクション, 189

Τ

TCP ポート,31 TimeZone パラメータ,186 TPM 設定,148 TPM Enablement サービス,79

U

UI オプション, 246 UnattendMode パラメータ, 186 [URL] カラム, 246

W

Windows 2003 Server, 36 Windows CE, 103, 196 Windows XP Embedded, 103 Windows XPe, 192 Windows インストーラ パッケージ, 285, 293 Windows インストーラ ファイル, 214

Х

XPe, 103

ア

アクションバー, 119 アイコン, 128 使用, 128
アクセス CCM コンソール, 286
[アクティブなカタログアイテムを展開], 244
[アクティブなサービスアイテムを展開], 244
[圧縮後のサイズ] カラム, 245
[アップグレード日] カラム, 246 アプリケーション利用状況 探索,59 アプリケーション利用状況収集ウィザード,162 アンインストール コマンド ライン,84

1

イメージファイル、スパン、183 イメージファイルをスパンする.183 [色のカスタマイズ] オプション,242 インスタント サポート HP インスタント サポート, 143 インストール Application Self-Service Manager $\neg - \forall - \prec \vee$ ターフェイスを使用したソフトウェア,236 CCM, 29 Publisher を別のデバイスにインストール,36 インストール コマンド ライン.84 インストールする CCM, 32 [インストール] ボタン,235 [インストール日] カラム,245 インターネットプロキシの検出.247 インフラストラクチャ サービス,138 インベントリ 探索.59 デバイスのグループに対する探索,69 インベントリ管理レポート,125 インベントリのスケジュール設定.285.288 インベントリの表示.285.288

ゥ

ウィザード, 157 OS 配布, 176 アプリケーション利用状況収集, 162 エージェント削除, 160 エージェント配布, 159 グループ作成, 165 サービス インポート, 170
サービス エクスポート, 170
ソフトウェア エンタイトルメント, 173
ソフトウェア/ハードウェア インベントリ, 161
ソフトウェア削除, 174
ソフトウェア同期, 171
ソフトウェア配布, 169
デバイス インポート, 158
電源管理, 163
パッチ適合性探索, 162
パッチ配布, 172
ユーザー作成, 175
ウィンドウあたりの最大項目数, 129

Т

エージェント削除ウィザード,160 エージェント配布ウィザード,159 エラーコード,245 エラーで終了,112,113 エンタイトルメント設定 ソフトウェア,50 パッチ,50,76

オ

[オーナー カタログ] カラム,245 オペレーティング システム イメージ,パブリッシュ,219 オペレーティング システムの配布,99 オンライン ヘルプ,28

カ

(価格) カラム, 245
拡張情報を表示, 237
過去のジョブ
OS 管理, 110
ジョブ管理, 115
ソフトウェア管理, 86
デバイス管理, 63
パッチ管理, 96
仮想カタログ, 234

カタログ 仮想,234 選択,234 リフレッシュ,233 カタログリスト,234 カタログのリフレッシュ.233 カタログの表示,83 カラムのソート,130 管理 ジョブ,111 ソフトウェア.78 管理エージェント,26 グループへの配布,68 削除,58 手動インストール.39 デバイスのグループからの削除,69 配布, 47, 58 管理オプションパブリッシュオプション,215

ク

クイックスタートタスク,46 [グリッド線を表示],244 グループ 削除.71 ソフトウェア,75 ソフトウェア エンタイトルメント,75 パッチエンタイトルメント,76 作成,68 スタティック,65 ソフトウェアの配布,75 タイプ,65 探索,65 追加 ソフトウェア エンタイトルメント,75 パッチエンタイトルメント,76 内部.65 レポート,65 グループエンタイトルメントの追加,91,106 グループ管理.64

過去のジョブ,77 グループ,66 現在のジョブ,77 グループ作成ウィザード,165 グループ詳細 OS. 73 ソフトウェア,73 パッチ,73 プロパティ,72 レポート,74 グループタイプ.72 グループの作成.50 グループの詳細.71 一般,72 現在のジョブ,74 デバイス,73 [グループの詳細] ウィンドウ タスク、74 グローバル ツールバー,233

ケ

警告メッセージ,245
現在のジョブ
OS 管理,110
ソフトウェア管理,86
デバイス管理,63,111
パッチ管理,95
検索オプション,118
使用,120
フィルタ,120
検索条件,119
[検証日]カラム,246

高度なプログラム可能割り込みコントローラ. APIC 参照 小型コンピュータ システム インターフェイス. SCSI 参照 コンソール,25 コンソール ユーザー 削除, 137 作成, 136 詳細の表示および変更, 137 コンソールへのアクセス, 135 [コンポーネントを選択] パブリッシュ, 216

サ

サービス CD, 105 サービス インポート ウィザード,170 サービス エクスポート ウィザード,170 サービス エンタイトルメント ウィザード,173 サービスリスト,235 [インストール] ボタン,235 オプション,243 カラムの削除,244 カラムの追加,243 [削除] ボタン、235 [展開/折りたたむ] ボタン,235 サービスリストへのカラムの追加,243 サービスのインポート,80,81,90,91,99,107 サービスのエクスポート,80,82,90,92,99,107 再起動,245 再起動の設定,84 [サイズ] カラム,245 [再パブリッシュ日] カラム,245 削除 サービス リストからのカラムの削除,244 ソフトウェア,75,238 パッチエンタイトルメント,76 |削除| ボタン,235 作成 グループ,68 スタティック グループ,165 ダイナミックレポートグループ,131,167 ダイナミック探索グループ,166 [作成者] カラム,245 サポート.134

連絡, 297 参照マシン 準備, 182

シ

システム トレイ アイドル状態,248 アクティブ状態.248 システム トレイのアイドル状態,248 システム トレイのアクティブ状態,248 [システムの色を使用] オプション,242 システムのインストール.246 システム要件,29 ターゲット デバイス,101 自動更新,87 集中時,125 手動入力,158 [使用可能なカラム] リストボックス,243 詳細なオペレーションを表示.244 ジョブ管理,111 一般,111 過去のジョブ,115 現在のジョブ,111 ジョブ コントロール,111 ジョブステータス,112 ジョブの一時停止,112 ジョブの開始.112 ジョブの削除,112,113 ジョブの詳細,114 サービス,115 詳細,115 ターゲット,115 ジョブのスケジュール再設定,112,113 ジョブの停止.112 ジョブのリジューム.112 シンクライアント.103

イメージの準備と取得, 192 管理, 23 管理エージェントのインストール, 39 管理エージェントの配布, 39 出荷 OS イメージの配布, 103 要件, 30

ス

```
スケジュール,設定,48
スケジュールを許可,245
スタティックグループ,72
作成,165
デバイスの削除,74
デバイスの追加,74
[ステータス] ウィンドウ
ドッキング,241
ドッキング解除,240
[ステータス] カラム,246
[ステータス] ボタン,240
スロットリング,247
スロットリングタイプ,246
```

セ

```
生成
レポート,51
接続オプション,246
設定
ODBC 設定,149
スケジュール,48
パッチ取得
スケジュール,142
設定,143
レポート,149
[設定] ボタン,234
[説明] カラム,245
全デバイス,65
全デバイスグループ,101
```

ソ

ソフトウェア エンタイトルメント設定.50 グループ エンタイトルメントの追加,81 削除,238 配布.50 パブリッシュ,49,214 ソフトウェアカテゴリ,83 ソフトウェア管理,78 過去のジョブ.86 現在のジョブ.86 ソフトウェア,79 ソフトウェア削除ウィザード,174 ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード. 161ソフトウェアの削除,82 ソフトウェアの詳細,83 一般, 83, 108 グループ,84 デバイス,85,109 プロパティ,83 レポート,86,110 ソフトウェアの同期.76 ソフトウェアの配布,81,285,290 ソフトウェア配布ウィザード.169 タ

ターゲット デバイス 定義,101 要件,101 対象.19 ダイナミック探索グループ 作成,166 ダイナミック レポート グループ 作成,131,167 大容量ストレージ ドライバ,189 大容量ストレージドライバリスト.189 探索グループ,68

ッ

[追加のファイル] 詳細パブリッシュ モードオプション, 215[次へブラウズ] ボタン,129

テ

ディレクトリ/グループフィルタ,118,120 データフィルタ,118,121 データベースのセットアップ,33 適応バンド幅,245 デバイス インポート,47,57 削除,61 デバイス管理,55 デバイス インポート ウィザード,158 デバイス管理,54 一般,54 過去のジョブ.63 現在のジョブ,63 デバイス.55 デバイス適用状況レポート,286,294 デバイスのインポート,47,57 デバイスのグループに対する電源管理,71 デバイスの詳細,61 OS, 62 一般,62 グループ.62 ソフトウェア,62 パッチ.62 プロパティ,62 レポート.63 デバイスの探索,57,158 デバイスの要約、レポート、130 デバイスを探索,57 [展開/折りたたむ] ボタン,235 電源管理.56.61

電源管理ウィザード,163

ト

ドッキング解除された [ステータス] ウィンドウ,240 ドッキングされた [ステータス] ウィンドウ,241 トラフィックに適応,247

ナ

[名前] カラム,245

11

バージョン、286 [バージョン] カラム,246 パーティション 拡張,183 ハードウェア管理.146 ハイバネーション,183 配布 管理エージェント,47 ソフトウェア,50,75 パッチ, 50, 76, 90 配布シナリオ OS イメージ、100 配布モード,100176 パスワード 変更,137 パッチ エンタイトルメントの削除,76 エンタイトルメント設定,50,76 グループ エンタイトルメントの追加.91.106 取得,49 配布, 49, 76, 89, 90 パッチ管理,87 一般,89 過去のジョブ,96 現在のジョブ,95

パッチ管理レポート,125 パッチ取得,285,289 スケジュール,142 設定,143 パッチ適合性 探索,59 パッチ適合性探索ウィザード,162 パッチ適用状況探索スケジュール,285,289 パッチの取得,49,89 パッチの詳細.92 一般,93 グループ.93 デバイス,94 プロパティ,93 レポート,95 パッチ配布ウィザード,172 パブリッシュ OS イメージ.98 コンポーネントを選択,216 ソフトウェア.49.214 モード 管理オプション,215 追加のファイル、215 プロパティ,215 パブリッシュ モード 変換.215 パブリッシュされたサービス,表示,230 [パブリッシュ日] カラム.245 バンド幅 スロットリング,247 予約,247 バンド幅スロットリング,239,250 バンド幅設定,250 バンド幅のスライダ,239 バンド幅の設定、調整,239 バンド幅を予約.247

設定,141 パッチ,90

F

ビュー, 適用, 123

表示 Application Self-Service Manager ユーザー イン ターフェイスでの情報の表示, 237 パブリッシュされたサービス, 230 レポート, 51 表示オプション, 118, 123

[表示するカラム] リストボックス,244

フ

ファイアウォール,31 フィルタ 適用,121 値文字,122 ワイルドカード,122 ブラウズ,129 レポートの項目,129 プロキシ,34 プロキシの検出,247 [プロパティ] パブリッシュ オプション,215

<u>^</u>

ベアメタル, 101 ヘルプ, 28 変換パブリッシュ オプション, 215 変換ファイル, 216 [ベンダー] カラム, 246

朩

[ホーム] ボタン,234

マ

[マイ ソフトウェア] ボタン,234 [前へブラウズ] ボタン,129 マニュアルの変更点,3

Ξ

[未使用のディスクスペースの圧縮を最適化する] チェック ボックス,190

メ

メニュー バー, 234

Ŧ

[戻る] ボタン, 124

д

ユーザー作成ウィザード, 175 [ユーザーの詳細] ウィンドウ, 137

Ξ

予約済みのバンド幅,245

ラ

ライセンス キー 更新, 285, 291 ライセンス情報, 更新, 135

IJ

利用回数, 126 利用時間, 125 利用状況管理対象製品(使用されているもの), 127 利用状況管理レポート, 125 利用状況データの難読化, 59, 70, 150 [利用状況の設定] タブ, 150 利用ステータス, 126 [履歴] ボタン, 238

レ

レポート,117 インターフェイス,117 ウィンドウ,127 生成,51 設定,149 表示,51 [レポート] ウィンドウ,119 レポート グループ 作成,128 レポート クエリからの作成,128 [レポート] タブ,117 レポート ビュー,118,123

ローカル サービスの起動, 104 [ローカルの修復] カラム, 245 ログ ファイル, ダウンロード, 134 ログイン, 45